

令和6年度 専修学校の国際化推進事業

「外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職および定着に向けた体制整備」

自動車整備分野の外国人留学生（受け入れ／在学／就職／定着）エンロールメント・マネジメントモデル事業（略称：自動車整備留学生EM事業）

成果報告書

はじめに

この事業は、文部科学省の委託事業「専修学校の国際化推進事業」うち、専修学校において、外国人留学生の戦略的受入れの促進と円滑な就職、その後の定着までを見据えた就職先企業との連携に関するモデルを構築するとともに、国際化に向けた体制整備を行うものである。

事業期間は、令和6年度～令和9年度の4年間を留学生の入国・受入れ、専修学校、就職、定着の一貫したモデルプログラムを想定している。

今年度から我々が行う事業は、就労人材が不足している業種のうち、自動車分野の自動車整備士をモデルに開発を目指すこととした。

それは、日本の基幹産業である自動車産業、日本の自働車の高品質や安全性、耐久性等、高い信頼性を担保しているのは、メンテナンスや検査体制等、それを支えている自動車整備である。

日本の少子高齢化に伴う若年層の就労人口減は顕著であり、日本の優れた検査体制を維持するには、外国人の整備士養成とそれを担う養成施設の専門学校、雇用を担う企業と緊密な連携のもとに入学から教育、就職から定着の一貫した環境整備のプログラムが必要であり、本事業はそのEM(Enrollment Management)モデルを開発するものである。

外国人留学生を受け入れるためには、留学を目指すための啓蒙活動を含めた環境整備、日本語能力獲得のための環境整備、入国に関わる環境整備、日本での学習環境と生活環境の整備、就労環境の整備、働き方の環境整備など、外国人特有の環境整備が必要となる。

つまり、日本に来日し安心して日本語と専門分野の勉学に励み、就労できるルートと環境を用意することが大切である。

そのためには、外国の日本語学校、日本の日本語学校、留学生受入れに意欲的な専修学校、採用に熱心な企業、留学生に関する関連団体、有識者等の知見を参考させるコンソーシアムを組織し、調査、分析、モデル開発、実験・実証等のタスクチーム(作業部会)でPDCA(受入れの1年～就職・定着の4年)を回して、検証・改善しながら、モデル開発を進めていく。

本年度はモデル開発の初年度であることから、各段階(日本語学校・専修学校・企業等)の環境調査(問題と課題の発見)、日本語教育・専門教育を補完するためのAIアプリ開発(チャットボット)等を中心に行ってきました。

次年度以降は、さらにAIの精度を上げるとともに、各教育段階のプログラムと教材開発等、実証実験を進めながら開発して行く予定である。

最後に、今回の事業成果が多くの専修学校へ波及して効果を実感していただければ、幸いです。

事業責任者

学校法人 YIC 学院 <専>YIC 京都工科自動車大学校
校長 佐々木 章

目 次 ▶

はじめに

第1章 事業概要

1. 事業の趣旨・目的	3
2. 当該地域において取組を進める意義	3
(1) 外国人留学生の受入れ等の推進に向けたターゲット分野と国（地域）	3
(2) 外国人留学生数の推移と当校の外国人留学生在籍状況	3
(3) 外国人留学生への当該地域の行政機関のサポート環境	5
3. 実施する取組の具体的な内容	6
(1) 入学前	6
(2) 在学中【教育指導】	7
(3) 在学中【在籍管理、生活支援サポート】	9
(4) 就職・定着支援	10
4. 開発する講座の概要（対話型音声アプリ）	12
(1) 初級編（海外の日本語学校学生向け）	12
(2) 中級編（日本国内の日本語学校学生向け）	12
(3) 上級編（自動車整備系専門学校学生・社会人向け）	12
5. 構成機関・構成員等	13
(1) 教育機関と役割・協力事項	13
(2) 企業・団体と役割・協力事項	13
(3) 行政機関と役割・協力事項	13
(4) 実施体制イメージと各会議体の役割	13
(5) 各会議体の構成委員	16
①企画推進委員会	16
②モデル開発 WG	18
③課題分析 WG	20
④実証実験 WG	21
6. 令和6年度取り組み概要	23
(1) ヒアリング調査（企業、専門学校、日本語学校）	23
(2) コマシラバス骨子案	23
①自動車整備系専門学校編	23
②日本語学校編	23
(3) 対話型音声AIアプリ開発（デモ版）	24
(4) テキスト骨子案	24
7. 会議実績	24

第2章 令和6年度活動詳細

1. ヒアリング調査 -----	3 1
(1) 対象先と実施数 -----	3 1
(2) ヒアリング手法 -----	3 1
(3) 実施期間 -----	3 1
(4) ヒアリング結果 -----	3 1
①自動車整備関係企業ヒアリング項目と回答 -----	3 1
②自動車整備系専門学校ヒアリング項目と回答 -----	3 9
③日本国内日本語学校ヒアリング項目と回答 -----	4 6
④海外現地日本語学校ヒアリング項目と回答 -----	5 6
2. シラバス・コマシラバス -----	6 3
①自動車整備系専門学校編 -----	6 3
②日本語学校編 -----	6 3
3. 対話型音声 A I アプリ概要 -----	6 4
①STEP1：初級編（海外の日本語学校学生向け） -----	6 6
②STEP2：中級編（日本国内の日本語学校学生向け） -----	6 6
③STEP3：上級編（自動車整備系専門学校学生・社会人向け） -----	6 6

第3章 まとめ

1. ヒアリング（企業、専門学校、日本語学校） -----	8 3
(1) 実施目的と実施期間 -----	8 3
(2) 実施手法と件数 -----	8 3
(3) ヒアリング結果から導き出した考察 -----	8 3
①自動車整備関係企業 -----	8 3
②自動車整備系専門学校 -----	8 3
③日本国内日本語学校 -----	8 4
④海外現地日本語学校 -----	8 4
(4) ヒアリング結果から -----	8 4
2. 対話型音声 A I アプリ制作の方向 -----	8 5
(1) コマシラバス骨子案 -----	8 5
①自動車整備系専門学校 -----	8 5
②日本国内日本語学校 -----	8 6
(2) 対話型音声 A I アプリ開発（デモ版） -----	8 6
3. 考察 -----	8 6
4. 令和6年度の成果及び次年度の活動について -----	8 7

(1) 令和6年度成果 -----	87
①コマシラバス骨子案 -----	87
②対話型音声AIアプリ（デモ版）の作成 -----	87
(2) 次年度の活動 -----	87

第4章会議録

会議録 -----	91
-----------	----

第1章 事業概要

第1章 事業概要

1. 事業の趣旨・目的

【趣旨】

外国人留学生を受け入れるためには「留学を目指すための啓発活動」「日本語能力獲得」「入国関係」「日本での学習と生活環境」「就労環境・働き方」などの外国人特有の様々な環境整備が必要となる。

そのためには、我が国日本で安心して学び、就労できるルートと環境を用意する必要があるが、外国人留学生が日本国内の専門学校へ入学する際、母国または日本にて日本語を学んでいるが専門分野への進学を目指した日本語の習得とは言い難い。この事業を通して、日本の自動車産業へ就職するためのキャリア形成のあり方（学び方）を示す。はじめから自動車整備分野を目指すための日本語習得とレベル認定の習得（JLPT）、ライセンス（整備士資格）の獲得へと、留学・進学～就職という独自の職業ブランドを確立し、恒久的な人材と就労の確保を目指す必要がある。

【目的】

「日本の基幹産業である自動車産業、日本の自動車の高品質や安全性」

耐久性等高い信頼性を確保しているのは、メンテナンスや検査体制等、それを支えている自動車整備である。日本の少子高齢化に伴う若年層の就労人口減は顕著であり、自動車整備士も例外ではなく、日本の優れた検査体制を維持するには、外国人の整備士養成とそれを担う養成施設の専門学校、雇用を担う企業と緊密な連携のもとに入学から教育、就職から定着の一貫した環境整備のプログラムが必要であり、本事業はその EM モデルを開発することを目的とする。

2. 当該地域において取組を進める意義

（1）外国人留学生の受け入れ等の推進に向けたターゲット分野と国（地域）

- ①ターゲット分野：自動車整備士
- ②ターゲット国（地域）：ミャンマー、ネパール、スリランカ

（2）外国人留学生数の推移と当校の外国人留学生在籍状況

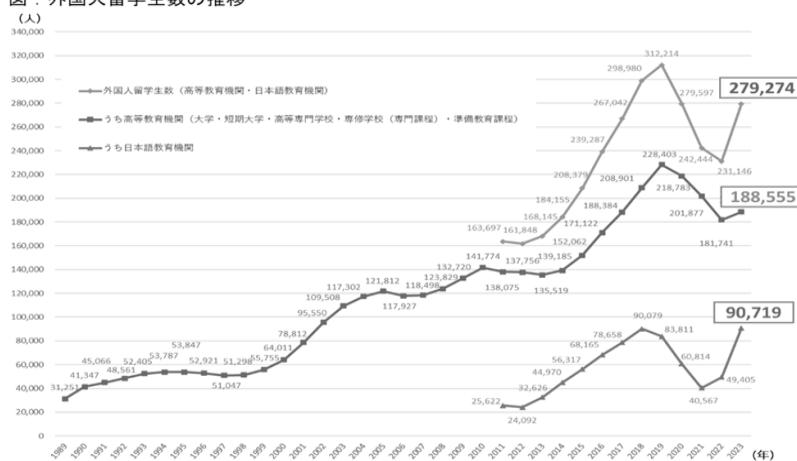
下図に示す通りコロナ感染症による入国制限が撤廃されて以降、再び留学生の人数が増加しているが、増減率を見ると出身国によって違いが出ており、当初は人数の多かったベトナムがマイナスに転じる一方で、ネパール・スリランカ・ミャンマー・バングラデッシュの増加は顕著である。また本校に求人を頂いている企業・採用担当者からは先の4ヵ国の中ではネパール・ミャンマー・スリランカ出身の学生の評価と人気が高い。理由としては日本語の発音と国民性（性格）が挙げられている。

(出典及び留学生の定義) (独) 日本学生支援機構(JASSO)「外国人留学生在籍状況調査」

本調査の対象は、各年5月1日時点において、在留資格「留学」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）、我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設及び日本語教育機関に在籍している外国人学生をいう。

JASSO HP : <https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/enrollment/>

図：外国人留学生数の推移



主な出身国（地域）別留学生数

(各年5月1日現在)

No.	国・地域	留学生数		前年比増減	
		2023年	2022年	人数	増減率
1	中国	115,493	103,882	11,611	11.2%
2	ネパール	37,878	24,257	13,621	56.2%
3	ベトナム	36,339	37,405	△ 1,066	△ 2.8%
4	韓国	14,946	13,701	1,245	9.1%
5	ミャンマー	7,773	3,813	3,960	103.9%
6	台湾	6,998	5,015	1,983	39.5%
7	スリランカ	6,819	3,857	2,962	76.8%
8	インドネシア	6,552	5,763	789	13.7%
9	バングラデシュ	5,326	3,313	2,013	60.8%
10	アメリカ合衆国	4,076	1,655	2,421	146.3%
-	その他	37,074	28,485	8,589	30.2%
	合計	279,274	231,146	48,128	20.8%

在学段階別留学生数		(各年5月1日現在)			
		2023年 (人)	2022年 (人)	前年比 (人)	前年比 (%)
大 学	博士課程	19,233	18,575	658	3.5
	修士課程（専門職学位課程含む）	30,990	30,299	691	2.3
	大学院非正規	5,316	4,248	1,068	25.1
	学部・短大（専門職大学・短大含む）	65,319	66,956	△1,637	△2.4
	学部・短大非正規（専門職大学・短大含む）	16,998	6,954	10,044	144.4
大学 計		137,856	127,032	10,824	8.5
高等専門学校		501	480	21	4.4
専修学校（専門課程）		46,325	51,955	△5,630	△10.8
準備教育課程		3,873	2,274	1,599	70.3
高等教育機関 計		188,555	181,741	6,814	3.7
日本語教育機関		90,719	49,405	41,314	83.6
総計		279,274	231,146	48,128	20.8

当校においてもターゲット国の中留學生が増加傾向である。

▶ミャンマー：

- ・YIC 京都日本語学院在籍者数：68名（R6年度4月時点） 令和元年時：7名
- ・〈専〉YIC 京都工科自動車大学校在籍者数：9名（R6年度4月時点）
令和元年時：4名

▶ネパール：

- ・YIC 京都日本語学院在籍者数：61名（R6年度4月時点） 令和元年時：13名
- ・〈専〉YIC 京都工科自動車大学校在籍者数：47名（R6年度4月時点）
令和元年時：1名

▶スリランカ：

- ・YIC 京都日本語学院在籍者数：24名（R6年度4月時点） 令和元年時：4名
- ・〈専〉YIC 京都工科自動車大学校在籍者数：16名（R6年度4月時点）
令和元年時：4名

このような背景から、本事業の取組みを通して、我が国に学びに来る外国人留学生の受け入れるにあたり必要な環境整備を整える情報等の提供を行い、多くの専修学校への普及活動を推進していく。

（3）外国人留学生への当該地域の行政機関のサポート環境

京都府では、外国人留学生誘致・支援を積極的に取り組んでいる。留学生スタディ京都ネットワークは、京都府、京都市、京都の大学、専修学校、日本語学校、企業、経済・業界団体、NPO、国際交流団体などにより、平成27（2015）年5月に設立され、留学生の誘致及び受入体制の整備をオール京都体制で推進しており、海外向け京都留学総合ポータルサイトの運営や国内外での留学生誘致活動、留学生向け有給インターンシップや住宅情報サイト「Kyoto Housing Search for International Students」などの受入環境整備などに取り組んでいる。

また、留学生の支援体制、関係施設の紹介も積極的に行っており、京都駅前にある京都府国際

センターや、京都市内にある京都市国際交流会館では、留学生のための生活相談や出入国の手続きの相談も行っている。このように、京都地域全体で留学生のサポート体制を推進している。

連携を予定している教育機関のある四国や九州の地域も留学生の受入れに積極的であり教育や生活、就職など幅広いサポート体制を推進している。

3. 実施する取組の具体的な内容

入学前～在学中（教育指導・在籍管理・生活支援サポート）～就職・定着支援といった様々な段階における必要な環境整備のモデル開発を行う。

（1）入学前

外国人留学生が我が国の専門学校に進学・入学する前に受入れ環境整備について整理し、外国人留学生や教職員の負担軽減のベースとなる骨子案の方向性を見出す。

■現状の確認

- ・現在の日本語学校の学習環境で習得し、卒業した外国人留学生が実際に専門学校入学してくると求められている習得レベルとは大きな乖離がある。
- ・本来、示されている日本語資格レベルより日本語能力が低いため、日本国内の専門学校の環境や日常生活に馴染みづらい外国人留学生が増加してきている。
- ・専門学校教員の負荷を軽減が必要（専門学校入学から約3ヶ月～6ヶ月間の教員一人当たりの負担約1.5時間／日）。等

■周知と留学ルートの確保

- ・日本の自動車整備士資格取得に向けた必要な日本語レベルを現地と日本国内の日本語学校への周知。
- ・外国籍労働者への我が国の自動車関連企業の就職や待遇状況提供による日本への留学ルートの確保。等

■調査実施年度

- ・令和6年度

～課題と具体的なタスク内容～

【課題1. 外国人留学生確保のための外国から日本への留学ルートの確保】

〈具体的なタスク内容〉

■送り出し国（ターゲット国）の調査（東南アジア・日本語教育機関）

- ・現地の日本語学校での日本語レベル調査：卒業時点の日本語レベル
- ・当該地域の支援サポートの存在（出入国・留学資格取得のためのサポートなど）
- ・自動車関連企業への興味・関心度調査（就職希望等含む）など（3校実施予定）

【課題2. 留学生受入れのための環境整備（その1）：現地日本語学校、日本国内の日本語学校との連携、専門学校入学前事前学習の導入による日本語能力レベルアップなど】

〈具体的なタスク内容〉

■日本語レベル向上のための協働連携

- ・現地と日本語国内の日本語学校との協働連携（出入国・留学資格取得のサポートなど）
- ・外国人留学生の受け入れ環境整備含めた教育プログラム提案と改善等の検討など

■自動車整備教育機関調査（現況と今後）

- ・日本語能力の入学レベルの現況調査：受け入れるために必要な日本語レベルを持って入学している学生はどの程度の割合、入学後の日本語レベルが足りない学生の対応、最低限望む日本語能力レベル、基礎的な専門用語の習得についてなど
- ・受け入れ環境：学内環境の課題、日本語学校とのやり取りに関する課題など（3校実施予定）

■自働車関連企業調査（求人・在籍等）

- ・外国人留学生の受け入れについて：採用の有無、採用数、今後の展開、現状の受け入れ態勢状況と課題・改善点（労務環境・福利厚生など）
- ・自動車整備系専門学校に求めること：日本語レベル、整備士（技術習得）レベル、勤続年数に関することなど（2社実施予定）

■受入れ～就職・定着のキャリア・マップモデル骨子案作成

- ・各調査の結果を参考に、キャリア・マップモデル骨子案を作成など
- ・ゲーミフィケーション、e-learning 骨子検討など

■入学前準備補助教材アプリ開発案の作成（シラバス・コマシラバス骨子案開発）

- ・専門学校入学前までに必要な自動車整備分野の基礎的な専門用語含む日本語スキルの習得、コミュニケーション、メンタルケアといったコンテンツで外国人留学生に留まらず、教職員や企業の従業員も対象となるような内容を考えていくなど

（2）在学中【教育指導】

入学前の骨子案をブラッシュアップし開発。実証実験の反応から検証を重ねる。また、企業連携による企業インターンシップの検討と開発、実証実験を実施。

■現状の確認（実証実験による評価の確認）

- ・日本語学校に自動車整備士系の専門学校から求められている日本語レベル
- ・日本語学校が卒業生を送り出している日本語能力レベルの確認（十分か足りていないかの把握）
- ・教職員における日本語指導の負担軽減に寄与するかの確認 等

■周知と留学生確保増

- ・日本の自動車整備士資格取得に向けた必要な日本語レベルを現地と日本国内の日本語学校への周知
- ・必要な日本語能力を知ることで現地と日本国内日本語学校自体も強みを生かす環境を作り出すことができ、連携強化につなげ、留学生増を図る
- ・日本の自動車関連企業における自動車整備士業として働くイメージ強化 等

■実施年度

- ・令和7～9年度

～課題と具体的なタスク内容～

【課題1. 留学生受入れのための環境整備（その1）：現地日本語学校、日本国内の日本語学校との連携】

〈具体的なタスク内容〉

■日本語学校における実証実験と課題抽出と改善点の明確化（シラバス・コマシラバス開発）

- ・テキスト骨子案の作成、自動車整備分野へ進むための日本語レベルの周知・指導
- ・実証実験による入学前事前学習教材の活用における知識の定着・指導方法など

※受講学生・講師アンケート実施

【課題2. 留学生受入れのための環境整備（その2）：自動車整備士養成施設の専門学校の環境整備】

〈具体的なタスク内容〉

■専門学校における実証実験と課題抽出と改善点の明確化（シラバス・コマシラバス開発）

- ・テキスト骨子案の作成、意欲的に外国人留学生受入れ対応に関する専門学校教職員教育体制の指導
- ・外国人留学生の理解度に対する教育方法のアドバイス（成績が思わしくない学生に対するアプローチ方法など）
- ・外国人留学生の学校生活に関する相談の受け方、メンタル面を踏まえた接し方（充実した行政サポートの利活用など）
- ・教職員へのメンタルケアなど　※受講学生・教職員アンケート実施など

【課題3. 留学生受入れのための環境整備（その3）：専門学校と企業との連携体制の構築（実証実験による連携強化）】

〈具体的なタスク内容〉

■企業連携授業実証実験と課題抽出と改善点の明確化（シラバス・コマシラバス開発）

- ・企業連携授業インターン・プログラム開発、テキスト骨子案の作成
- ・外国人留学生受入れ対応に備える体感授業：専門学校の教場で講師となって座学・実習を行い、自動車整備士を目指している外国人留学生がどのような反応をするかなどを体験・体感してもらい、外国人留学生を採用する際に備えてもらう実証実験
- ・社員教育のメンタル部分や学び直しの補助教材として、開発する入学前事前学習教材の導入の検討を促すなど　※受講学生・講師アンケート実施

■教育内容に関する企業評価調査（外国人留学生の就業者数増加を目指見）

- ・開発したシラバス・コマシラバスの内容に対して、企業の評価を伺う
- ・体感授業を求める企業を増やし、外国人留学生の就業者数の安定を恒久的に導く一助とするなど

- 受入れ～就職・定着のキャリア・マップモデル作成
 - ・各調査と実証実験の結果を参考に、キャリア・マップモデルを作成など
- 入学前準備補助教材アプリの開発
 - ・実証実験の結果をもとに、さらなるブラッシュアップを図り、検討・改良を行うなど
- 就職前準備補助教材アプリ開発案の作成（シラバス・コマシラバス骨子案開発）
 - ・企業連携による社会人となった際にコミュニケーションをとるために必要な日本語能力レベル、外国籍社員に対しての指導方法のケーススタディなど
 - ・実証実験の結果をもとに、さらなるブラッシュアップを図り、検討・改良を行うなど

（3）在学中【在籍管理、生活支援サポート】

入学前の骨子案と企業連携による企業インターンシップ骨子案を実証実験の反応を通して検証と改良を重ねながら開発・実証実験を実施。

- 現状の確認（実証実験による評価の確認）
 - ・日本語学校に自動車整備士系の専門学校から求められている日本語レベル
 - ・日本語学校が卒業生を送り出している日本語能力レベルの確認（十分か足りていないかの把握）
 - ・教職員における日本語指導の負担軽減に寄与するかの確認
 - ・当該地域の生活支援サポート利活用情報提供 等
- 周知と留学生確保増
 - ・日本の自動車整備士資格取得に向けた必要な日本語レベルを現地と日本国内の日本語学校への周知
 - ・必要な日本語能力を知ることで現地と日本国内日本語学校自体も強みを生かす環境を作り出すことができ、連携強化につなげ、留学生増を図る
 - ・日本の自動車関連企業における自動車整備士業として働くイメージ強化
 - ・当校サポートをはじめ、当該地域の生活支援サポート利活用状況の把握 等
- 実施年度
 - ・令和6～9年度

～課題と具体的なタスク内容～

【課題1．留学生受入れのための環境整備（その1）：日本国内の日本語学校との連携】
〈具体的なタスク内容〉

- 日本語学校における実証実験
 - ・開発・改良した自動車整備分野へ進むための日本語レベルモデルプログラムと入学前事前学習教材の実証実験実施 ※受講学生・講師アンケート実施
 - ・当該地域における生活支援サポートの周知
 - ・前年度受講した学生の反応の比較・検証を行う
 - ・当該地域の留学生のサポート体制の利活用（行政との連携）など

【課題 2. 留学生受入れのための環境整備（その 2）：自動車整備士養成施設の専門学校の環境整備】

〈具体的なタスク内容〉

■専門学校における実証実験

- ・開発・改良した自動車整備分野へ進むための日本語レベルモデルプログラムと入学前事前学習教材の実証実験実施 ※受講学生・講師アンケート実施
- ・日本の自動車整備士養成の専門学校教育についていっているかの検証、前年度受講した学生と教職員の反応の比較・検証を行う
- ・自国と環境が異なることによるメンタル面において、専門学校はもちろんのことだが、行政サポートによる生活支援サポートの周知をする。専門学校のみならず、京都府の地域全体として、外国人留学生誘致・支援を積極的に取り組んでいる地域であることを伝えていくことで不安要素を軽減し、日本国内で働く自動車整備士を目指す人材を増やす
- ・教職員へのメンタルケア
- ・当該地域の留学生のサポート体制の利活用（行政との連携）など

【課題 3. 留学生受入れのための環境整備（その 3）：専門学校と企業の連携体制の構築】

〈具体的なタスク内容〉

■企業連携授業インターン・プログラム開発と実証実験

- ・外国人留学生を採用している、採用予定がある就職先となり得る企業の仕事場を体験 ※受講学生・講師アンケート実施
- ・外国人留学生自身が安心できる場かどうかの雰囲気を事前に体感してもらい、企業選択の幅を広げることができるようになる
- ・逆に、企業側としても言葉や文化が異なる外国人留学生を事前に知ることで自社の企業風土に合った人材を選ぶことができるようになり、長く自社に就業できる人材を採用することが見込めれる。
- ・当該地域の留学生のサポート体制の利活用（行政との連携）など

■入学前準備補助教材アプリ改良

- ・実証実験の結果をもとに、さらなるブラッシュアップを図り、検討・改良を行うなど

■就職前準備補助教材アプリ開発

- ・社会人となった際にコミュニケーションをとるために必要な日本語能力レベル、外国籍社員に対しての指導方法のケーススタディなど
- ・実証実験の結果をもとに、さらなるブラッシュアップを図り、検討・改良を行うなど

（4）就職・定着支援

入学前の骨子案と企業連携による企業インターンシップ骨子案を実証実験の反応を通して検証と改良を重ねながら開発・実証実験を実施。

■現状の確認（実証実験による評価の確認）

- ・日本語学校に自動車整備士系の専門学校から求められている日本語レベル

- ・日本語学校が卒業生を送り出している日本語能力レベルの確認（十分か足りていないかの把握）
- ・自分にとって働きやすい環境の企業があることを知る（どの企業でも環境は同じではない）
- ・当校、企業のサポートをはじめ、当該地域の生活支援サポート利活用情報提供 等

■周知と留学生確保増

- ・必要な日本語能力を知ることで現地と日本国内日本語学校自体も強みを生かす環境を作り出すことができ、連携強化につなげ、留学生増を図る
- ・日本の自動車関連企業における自動車整備士業のイメージ強化
- ・当校、企業のサポートをはじめ、当該地域の生活支援サポート利活用状況の把握 等

■実施年度

- ・令和 7～9 年度

～課題と具体的なタスク内容～

【課題 1．留学生受入れのための環境整備（その 3）：専門学校と企業の連携体制の構築】

〈具体的なタスク内容〉

■企業別定着状況調査

- ・本事業で開発した自動車整備分野へ進むための日本語レベルモデルプログラムと企業連携授業インターン・プログラムを受講した外国人留学生が、就職した後の職業定着状況調査
- ・人事担当者等へのヒアリング：日本語レベルをはじめとする自動車整備士としての知識習得レベル、外国人留学生との接し方など
- ・当該地域の留学生のサポート体制の利活用の推進、相談頻度状況のヒアリングと行政へのフィードバックによる改善案提出など

【課題 2．留学生の就職・定着のための環境整備：就労環境や福利厚生等の労働環境整備】

〈具体的なタスク内容〉

■就労環境調査

- ・外国人卒業生の就職先環境状況のヒアリング
- ・外国人卒業生からのヒアリング結果を就職先にフィードバック：環境改善が必要な内容に関しては、企業に要望書の作成をするなど外国人卒業生をサポート支援
- ・当該地域の留学生のサポート体制の利活用の推進、ヒアリングと行政へのフィードバックによる改善案提出など

■本事業モデルプログラム完成形：日本語学校と企業連携による実証実験を通して、下記のプログラム等の完成形を目指す

- ・日本語学校モデルプログラム、専門学校モデルプログラム、企業連携授業インターン・プログラム
- ・キャリア・マップモデル
- ・入学前準備補助教材アプリ
- ・就業前準備補助教材アプリ

■普及展開

- ・本事業への問い合わせ窓口を設け、担当者が対応する。必要に応じて指導など説明に行く体制を整える
- ・本事業の委員の協力を仰ぎながら進める

4. 開発する講座の概要（対話型音声アプリ）

（1）初級編（海外の日本語学校学生向け）…

〈シチュエーション〉

- ・朝起きてから登校するまで
- ・学校での生活
- ・下校から帰宅後、夕食前まで
- ・夕食から就寝まで
- ・日本でのマナーや日本文化 等

（2）中級編（日本国内の日本語学校学生向け）…

〈シチュエーション〉

- ・移動のこと
- ・買い物のこと
- ・病気のこと
- ・自動車の基礎
- ・入国後すぐに学ぶ内容
- ・アルバイトや役所の手続き など

（3）上級編（自動車整備系専門学校学生・社会人向け）…

〈シチュエーション〉

- ・自動車整備士資格取得に向けた専門用語
- ・専門学校の学習環境
- ・自動車整備業界
- ・基礎自動車工学や各自動車メーカーによる部品名称等の違い
- ・ビジネスマナー（BtoB、電話や窓口での話し方など） 等

5. 構成機関・構成員等

(1) 教育機関と役割・協力事項

【役割・協力事項】

- ▶調査関する手法と検討協力
- ▶シラバス・コマシラバスのアドバイス
- ▶実証実験への協力
- ▶開発する入学前～就職・定着支援教育カリキュラム・プログラム構成の提案・アドバイス・検討
- ▶補助教材アプリ構成の提案・アドバイス・検討
- ▶G P A 開発協力
- ▶普及に関するアドバイス 等

名称		役割等	都道府県名
1	専門学校 YIC 京都工科自動車大学校	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	専門学校国際情報工科自動車大学校	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福島県
3	専門学校穴吹工科カレッジ	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	香川県
4	専門学校麻生工科自動車大学校	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福岡県
5	学校法人 YIC 学院	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県

(2) 企業・団体と役割・協力事項

【役割・協力事項】

- ▶実証実験への協力
- ▶テキスト開発協力（内容の精査、アドバイス等）
- ▶開発する入学前～就職・定着支援教育カリキュラム・プログラムへのアドバイス
- ▶補助教材アプリ開発の協力とアドバイス
- ▶企業に就職するための心構え等のポイントのアドバイス 等

名称		役割等	都道府県名
1	YIC 京都日本語学院	留学事情・日本国内進路事情状況調査	京都府
2	京都民際日本語学校	留学事情・日本国内進路事情状況調査	京都府
3	トヨタカローラ京都株式会社	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
4	株式会社スズキ自販京都	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
5	いすゞ自動車近畿株式会社	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
6	リクルート進学総研	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
7	筑波大学教学マネジメント室	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
8	デジタルハリウッド大学アライアンスグループ	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
9	株式会社さんぽう	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
10	ミャンマー連邦共和国国内の日本語学校 ZARZAR SUGOI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL	教育事情・留学マーケット調査	ミャンマー
11	ネパール連邦民主共和国国内の日本語学校 SINDHU EDUCATION FOUNDATION	教育事情・留学マーケット調査	ネパール

12	スリランカ民主社会主義共和・国内の日本語学校 JAPAN STUDY SUPPORT CENTER	教育事情・留学マーケット調査	スリランカ
----	--	----------------	-------

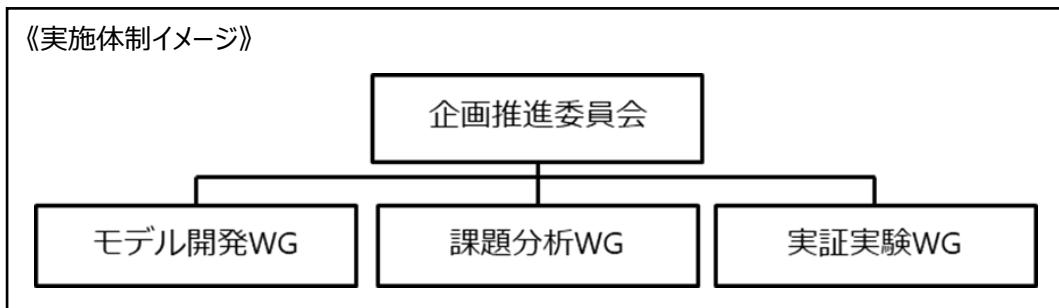
(3) 行政機関と役割・協力事項

【役割・協力事項】

- ▶開発した入学前～就職・定着支援教育カリキュラム・プログラムの評価
- ▶テキスト・補助教材アプリ・実証実験等の評価・アドバイス
- ▶汎用性の妥当等に関する評価・アドバイス 等

名称	役割等	都道府県名
1 一般社団法人 京都府自動車整備振興会	プログラム全体の諮問・分析・評価	大阪府

(4) 実施体制イメージと各会議体の役割



《各会議体の役割》

■企画推進委員会……

- ・事業方針の策定・進捗状況管理・事業全体運営管理
- ・成果検証、成果報告書編集まとめ 等

■モデル開発 WG……

- ・外国人留学生エンロール・マネジメントモデル開発
　外国人留学生確保のための留学ルート／現地日本語学校と我が国の日本語学校の連携／
　養成施設専門学校の環境整備／専門学校と企業連携体制の構築／就労環境、福利厚生等
　の労働環境整備などの検討（キャリアマップ）／アプリなどの開発 等

■課題分析 WG……

- ・実態調査と課題分析
　現状の外国人留学生の日本語レベル状況と必要レベルの調査・分析／実証実験結果の分析
　といった本事業の取り組み内容に関しての調査と課題の分析 等

■実証実験 WG

・実証実験の実施・運営管理

実証実験によるモデルプログラムの検証／受講アンケート実施・分析など 等

(5) 各会議体の構成委員

①企画推進委員会

	氏名	所属先・役職等	役割等	都道府県名
1	佐々木 章	学校法人YIC学院 理事 〈専〉YIC京都工科自動車大学校 校長	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	阿部 一則	専門学校国際情報工科自動車大学校 副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福島県
3	大門 剛	専門学校穴吹工科カレッジ 副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	香川県
4	永江 貴史	専門学校麻生工科自動車大学校 校長代行	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福岡県
5	上田 直紀	株式会社京都民祭 京都民際日本語学校 代表取締役社長兼副理事長	留学事情・日本国内進路事情状況調査	京都府
6	平岡 俊弥	トヨタカローラ京都株式会社 営業企画部 人材開発グループ 係長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
7	川村 哲史	株式会社スズキ自販京都 サービス本部 部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
8	杉本 康幸	いすゞ自動車近畿株式会社 経営管理室 採用教育部 部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
9	脇崎 敏幸	いすゞ自動車近畿株式会社 経営管理室 採用教育部 採用課 課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府

10	細谷 昭央	トヨタ L&F 近畿株式会社 総務部 部長	採用・就労環境整備 のプログラム検討・開 発	大阪府
11	小林 浩	リクルート進学総研 所長 リクルート「カレッジマネジメント」編集長	プログラム全体の諮 問・分析・評価	東京都
12	稻永 由紀	筑波大学教学マネジメント室	プログラム全体の諮 問・分析・評価	東京都
13	細野 康男	デジタルハリウッド大学 アライアンスグループ プロデューサー	プログラム全体の諮 問・分析・評価	東京都
14	入江 剛	株式会社さんぽう 教育マーケティング部 次長	プログラム全体の諮 問・分析・評価	東京都
15	ZIN MAR LYNN	ZARZAR SUGOI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL	教育事情・留学マー ケット調査	ミャンマ ー
16	RAI BHABINDRA	SINDHU EDUCATION FOUNDATION	教育事情・留学マー ケット調査	ネパー ル
17	JANAKA JEEWANA	JAPAN STUDY SUPPORT CENTER	教育事情・留学マー ケット調査	スリラン カ
18	矢川 賢治	一般社団法人京都府自動車整備 振興会 専務理事	プログラム全体の諮 問・評価	京都府
19	乗地 博之	一般社団法人京都府自動車整備 振興会 教育課 課長	プログラム全体の諮 問・評価	京都府
20	岡村 慎一	学校法人 Y I C 学院 専務理事	プログラム全体の諮 問・分析・評価	山口県
21	田中 秀樹	学校法人 YIC 学院 経営管理部 経営戦略課 教務広報室・教育力向上室 室長 Y I C 公務員専門学校 教務課長	プログラム全体の諮 問・分析・評価	山口県

22	三浦 晃平	学校法人 YIC 学院 社会事業本部 事業企画推進室 係長	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県
23	土井 宏美	学校法人 YIC 学院 総合支援課 課長補佐	プログラム全体の諮問・分析・評価	京都府
24	小林 建次	〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
25	池田 希	YIC 京都日本語学院 教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
26	喜多 好洋	学校法人 YIC 学院 事業開発推進役 〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 参事	事務局	京都府

②モデル開発 WG

	氏名	所属先・役職等	役割等	都道府県名
1	佐々木 章	学校法人 YIC 学院 理事 〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 校長	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	阿部 一則	専門学校国際情報工科自動車大学校 副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福島県
3	大門 剛	専門学校穴吹工科カレッジ 副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	香川県
4	永江 貴史	専門学校麻生工科自動車大学校 校長代行	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福岡県
5	平岡 俊弥	トヨタカローラ京都株式会社 営業企画部 人材開発グループ 係長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府

6	川村 哲史	株式会社スズキ自販京都 サービス本部 部長	採用・就労環境整備 のプログラム検討・開 発、実証講座実施	京都府
7	杉本 康幸	いすゞ自動車近畿株式会社 経営管理室 採用教育部 部長	採用・就労環境整備 のプログラム検討・開 発、実証講座実施	大阪府
8	脇崎 敏幸	いすゞ自動車近畿株式会社 経営管理室 採用教育部 採用課 課長	採用・就労環境整備 のプログラム検討・開 発、実証講座実施	大阪府
9	細谷 昭央	トヨタ L&F 近畿株式会社 総務部 部長	採用・就労環境整備 のプログラム検討・開 発	大阪府
10	岡村 慎一	学校法人 YIC 学院 理事	プログラム全体の諮 問・分析・評価	山口県
11	土井 宏美	学校法人 YIC 学院 総合支援課 課長補佐	プログラム全体の諮 問・分析・評価	京都府
12	小林 建次	〈専〉YIC 京都工科自動車大学 校 教務課長	採用・就労環境整備 のプログラム検討・開 発、実証講座実施	京都府
13	池田 希	YIC 京都日本語学院 教務課長	採用・就労環境整備 のプログラム検討・開 発、実証講座実施	京都府
14	喜多 好洋	学校法人 YIC 学院 事業開発推進役 〈専〉YIC 京都工科自動車大学 校 参事	事務局	京都府

③課題分析 WG

	氏名	所属先・役職等	役割等	都道府県名
1	佐々木 章	学校法人YIC学院 理事 〈専〉YIC京都工科自動車大学校 校長	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	小林 浩	リクルート進学総研 所長 リクルート「カレッジマネジメント」編集長	プログラム全体の諮詢・分析・評価	東京都
3	岡村 慎一	学校法人YIC学院 専務理事	プログラム全体の諮詢・分析・評価	山口県
4	田中 秀樹	学校法人YIC学院 経営管理部 経営戦略課 教務広報室・教育力向上室 室長 YIC公務員専門学校 教務課長	プログラム全体の諮詢・分析・評価	山口県
5	三浦 晃平	学校法人YIC学院 社会事業本部 事業企画推進室 係長	プログラム全体の諮詢・分析・評価	山口県
6	土井 宏美	学校法人YIC学院 総合支援課 課長補佐	プログラム全体の諮詢・分析・評価	京都府
7	小林 建次	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
8	池田 希	YIC京都日本語学院 教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
9	喜多 好洋	学校法人YIC学院 事業開発推進役 〈専〉YIC京都工科自動車大学校 参事	事務局	京都府

④実証実験 WG

	氏名	所属先・役職等	役割等	都道府県名
1	佐々木 章	学校法人YIC学院 理事 <専>YIC 京都工科自動車大学校 校長	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	阿部 一則	専門学校国際情報工科自動車大学校 副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福島県
3	大門 剛	専門学校穴吹工科カレッジ 副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	香川県
4	永江 貴史	専門学校麻生工科自動車大学校 校長代行	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福岡県
5	上田 直紀	株式会社京都民祭 京都民際日本語学校 代表取締役社長兼副理事長	留学事情・日本国内進路事情状況調査	京都府
6	平岡 俊弥	トヨタカローラ京都株式会社 営業企画部 人材開発グループ 係長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
7	川村 哲史	株式会社スズキ自販京都 サービス本部 部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
8	杉本 康幸	いすゞ自動車近畿株式会社 経営管理室 採用教育部 部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
9	脇崎 敏幸	いすゞ自動車近畿株式会社 経営管理室 採用教育部 採用課 課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
10	細谷 昭央	トヨタL&F 近畿株式会社 総務部 部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発	大阪府
11	ZIN MAR LYNN	ZARZAR SUGOI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL	教育事情・留学マーケット調査	ミャンマー

12	RAI BHABINDRA	SINDHU EDUCATION FOUNDATION	教育事情・留学マーケット調査	ネパール
13	JANAKA JEEWANA	JAPAN STUDY SUPPORT CENTER	教育事情・留学マーケット調査	スリランカ
14	岡村 慎一	学校法人 YIC 学院 専務理事	プログラム全体の諮詢・分析・評価	山口県
15	田中 秀樹	学校法人 YIC 学院 経営管理部 経営戦略課 教務広報室・教育力向上室 室長 YIC 公務員専門学校 教務課長	プログラム全体の諮詢・分析・評価	山口県
16	三浦 晃平	学校法人 YIC 学院 社会事業本部 事業企画推進室 係長	プログラム全体の諮詢・分析・評価	山口県
17	土井 宏美	学校法人 YIC 学院 総合支援課 課長補佐	プログラム全体の諮詢・分析・評価	京都府
18	小林 建次	〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
19	池田 希	YIC 京都日本語学院 教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
20	喜多 好洋	学校法人 YIC 学院 事業開発推進役 〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 参事	事務局	京都府

6. 令和6年度取り組み概要

(1) ヒアリング調査（企業、専門学校、日本語学校）

- ①目的：より多くの留学生を受け入れる環境を作り出すため、送り出し国の現地が考えている日本語能力をはじめ、受け入れるために必要な日本語レベルを持って入学している学生はどの程度の割合や入学後の日本語レベルが足りない学生の対応、最低限望む日本語能力レベル、基礎的な専門用語の習得、受け入れ環境（学内環境の課題、日本語学校とのやり取りに関する課題）といったそれぞれの機関が捉えている日本語能力の入学レベルに関する現況調査
- ②手法：オンライン、直接訪問 等
- ③実施期間：令和6年11月14日～令和7年2月6日
- ④実施件数：自動車ディーラー7社、自動車整備系専門学校5校、日本国内日本語学校5校、海外日本語学校6校 計23件

(2) コマシラバス骨子案

①自動車整備系専門学校編

- ・授業時間：90分／コマ×4コマ 6時間
- ・各コマの内容：自動車整備に関する内容

1コマ	– 自動車整備士資格取得に向けた専門用語 – ①漢字表記の自動車部品 ②「適切な」「不適切な」などの日本語特有の言い回し言葉の理解 ③加減乗除 等
2コマ	– 専門学校の学習環境で使用される日本語 – ①工具のいろいろな名前（呼び方） ②和製英語 等
3コマ	– 自動車整備士に必要な計算の基礎 – ①四則計算 ②トルク・駆動力の計算 ③電圧、電流、抵抗力の計算 等
4コマ	– 自動車整備業界で必要な日本語 – ①ビジネスマナーの基礎 ②接客用語 ③整備士が使う日本語 ④電話や窓口での聞き方や言葉の選び方 等

②日本語学校編

- ・授業時間：45分／コマ×4コマ 3時間
- ・コマの内容：日本での生活と自動車

1コマ	– 移動のこと – ①駅やバス停などにおいて必要な知識 ②電車内やバス車内のマナー 等
2コマ	– 買い物、病気のこと – ①コンビニやスーパー等における買い物の仕方 ②店舗内でのマナー ③生活のマナー（ゴミの出し方、部屋の清掃、騒音など） 等
3コマ	– 日本の小学校で習う算数・理科 –

	①お金の考え方（生活費と授業料についてなど）②加減乗除 ③分数 ④電気の流れ方（+から-に流れるなど） 等
4コマ	-自動車の基礎- ①呼び方が違っても同じものを指すこと（「自動車と車や四輪車」「バイクと二輪車」など）②簡単な自動車部品の名称（ハンドル、ワイパー、サイドミラーなど） 等

（3）対話型音声AIアプリ開発（デモ版）

下記シチュエーションをAIに事前設定し、対話型音声AIアプリの開発を進める。実際に直接音声による吹き込みやテキスト入力によるやり方で学習できるように開発。当校ホームページ上に公開。

①STEP1：初級編（海外の日本語学校学生向け）…

「朝起きてから登校するまで」「学校での生活」「下校から帰宅後、夕食前まで」「夕食から就寝まで」「日本でのマナー・日本文化」など

②STEP2：中級編（日本国内の日本語学校学生向け）…

「移動に関すること」「買い物に関すること」「病気の時」「自動車の基礎」「入国後すぐに学ぶ内容」「アルバイトや役所の手続きのこと」など

③STEP3：上級編（自動車整備系専門学校学生・社会人向け）…

「自動車整備士資格取得に向けた専門用語」「専門学校の学習環境のこと」「自動車整備業界のこと」「基礎自動車工学や各自動車メーカーによる部品名称等の違いのこと」「ビジネスマナー、BtoB、電話や窓口に関すること」など

（4）テキスト骨子案

令和6年度では、対話型音声AIアプリの仕様書をテキスト骨子として作成。

7. 会議実績

会議名	第1回企画推進委員会会議
会議日時	令和6年10月11日（金） 14:00～16:00
会場・形式	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場での対面とオンライン
出席者数	17名
会議次第	1_ 14:00 開会（事業責任者挨拶） 2_ 14:10 委員自己紹介 3_ 14:10 議事 (1) 事業全体の概要について (2) 2024年度事業の調査と分析のスキーム (3) 各委員からの質疑応答

	(4) 今後のスケジュールについて 4_ 15:50 その他（連絡事項等） 5_ 16:00 閉会
--	---

会議名	第1回モデル開発WG・課題分析WG・実証実験WG合同会議
会議日時	令和6年10月25日（金） 14:00～16:00
会場・形式	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場での対面とオンライン
出席者数	14名
会議次第	1_ 14:00 開会（事業責任者挨拶） 2_ 14:10 委員自己紹介 3_ 14:15 議事 (1) 令和6年度 具体的な取り組み内容 (2) 令和6年度 事業実施に伴うアウトプット・成果物 (3) 各委員からの質疑応答 (4) 今後のスケジュールについて 4_ 15:50 その他（連絡事項等） 5_ 16:00 閉会

会議名	第2回モデル開発WG・課題分析WG合同会議
会議日時	令和6年11月21日（木） 14:00～16:00
会場・形式	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場での対面とオンライン
出席者数	12名
会議次第	1_ 14:00 開会（事業責任者挨拶） 2_ 14:10 議事 (1) 令和6年度 日本語学校・専門学校・企業の環境づくり (2) 令和6年度 成果物「入学前準備教材アプリケーション」について (3) ヒアリング調査中間報告 (4) 各委員からの質疑応答 (5) 今後のスケジュールについて 4_ 15:50 その他（連絡事項等） 5_ 16:00 閉会

会議名	第3回モデル開発WG・第2回実証実験WG合同会議
会議日時	令和6年12月13日（金） 14：00～16：00
会場・形式	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場での対面とオンライン
出席者数	15名
会議次第	<p>1_ 14：00 開会（事業責任者挨拶）</p> <p>2_ 14：10 議事</p> <p>(1) 令和6年度 成果物「AIアプリのシミュレーション」の説明と意見交換</p> <p>(2) ヒアリング調査中間報告と意見交換</p> <p>(3) シラバス・コマシラバス骨子案【専門学校編】【日本語学校編】の説明と意見交換</p> <p>(4) 今後のスケジュールについて</p> <p>3_ 15：50 その他（連絡事項等）</p> <p>4_ 16：00 閉会</p>

会議名	第3回課題分析WG・実証実験WG合同会議
会議日時	令和7年1月14日（火） 14：00～16：00
会場・形式	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場での対面とオンライン
出席者数	14名
会議次第	<p>1_ 14：00 開会（事業責任者挨拶）</p> <p>2_ 14：10 委員自己紹介</p> <p>3_ 14：15 議事</p> <p>(1) 令和6年度 成果物「AIアプリのシミュレーション」について</p> <p>(2) ヒアリング調査中間報告</p> <p>(3) シラバス・コマシラバス骨子案【専門学校編】【日本語学校編】</p> <p>(4) 各委員からの意見</p> <p>(5) 今後のスケジュールについて</p> <p>4_ 15：50 その他（連絡事項等）</p> <p>5_ 16：00 閉会</p>

会議名	第2回企画推進委員会会議
会議日時	令和7年1月24日（金） 14：00～16：00

会場・形式	〈専〉Y I C京都工科自動車大学校 教場での対面とオンライン
出席者数	22名
会議次第	<p>1_ 14:00 開会（事業責任者挨拶）</p> <p>2_ 14:10 議事</p> <p>(1) 令和6年度事業成果報告書目次（案）</p> <p>(2) AIアプリ開発（モバ版紹介）</p> <p>(3) ヒアリング調査報告</p> <p>(4) 各委員からの質疑応答</p> <p>4_ 15:50 その他（連絡事項等）</p> <p>5_ 16:00 閉会</p>

■ MEMO

第2章 令和6年度活動詳細

第2章 令和6年度活動詳細

1. ヒアリング調査

【目的】

より多くの留学生を受け入れる環境を作り出すため、送り出し国（現地）が考へている日本語能力をはじめ、受け入れるために必要な日本語レベルを持って入学している学生はどの程度の割合や入学後の日本語レベルが足りない学生の対応、最低限望む日本語能力レベル、基礎的な専門用語の習得、受け入れ環境（学内環境の課題、日本語学校とのやり取りに関する課題）といったそれぞれの機関が捉えている日本語能力の入学レベルに関する現況調査

（1）対象先と実施数：

- ①自動車整備関係企業 …… 7社
- ②自動車整備系専門学校 … 5校
- ③日本国内日本語学校 …… 5校
- ④海外現地日本語学校（ターゲット国（地域）：ミャンマー、ネパール、スリランカ）… 6校

（2）実施手法：オンライン、直接訪問 等

（3）実施期間：令和6年11月14日～令和7年2月6日

（4）ヒアリング結果

①自動車整備関係企業ヒアリング項目と回答

- 1) 外国籍の方の採用についてお聞きします。外国籍の方を採用している企業様は、採用するきっかけとなった経緯などお聞かせください。外国籍の方の採用を見送っている企業様はその理由をお聞かせください。

- ・現時点では国籍の方は在籍しておりません（技能実習生5名のみ）。
- ・特に採用を見送っているわけではなく、応募なし（応募があった場合、日本人と同じ内容での試験を想定）。

1. 採用を検討する背景

現在、自動車整備士の人口は年々減少しており、少子高齢化や若年層の他業種への流出が加速する中、採用難易度がますます高まっています。特に、自動車販売業界においては、整備士の確保が顧客満足度（CS）向上や事業継続に直結する課題となっています。また、グローバルな視点での人材獲得やダイバーシティ推進は、企業としての持続的成長に欠かせない要素です。当社としても「いち、はやく」のビジョンのもと、柔軟性と適応力を高めるために多様な人材の採用を検討してきました。

2. 専門学校訪問を通じた取り組み

採用に向けた具体的な取り組みとして、国籍の学生が多く在籍する専門学校を積

極的に訪問し、以下の内容を実施しました。

- ・業界理解の促進：自動車整備業界の魅力や、弊社のキャリア形成について説明。
- ・実習機会の提供：店舗見学や説明会を通じ、実際の現場体験を提供。
- ・受け入れ体制の構築：現場のスタッフが語学や文化の違いを受け入れられるよう、説明を実施。

こうした活動の結果、外国籍の学生から「弊社で働きたい」という声を多くいただき、採用に至ったケースもあります。

3. 採用後の成果と今後の課題

採用した外国籍社員は、整備士として技術力の向上心を持って、異文化交流を通じて職場の活性化にも寄与しています。また、彼らの成長意欲や新しい視点が、既存社員の刺激にもなっています。一方で、言語や文化の壁が完全になくなるわけではないため、継続的なフォローアップや、異文化理解を深める取り組みが今後の課題です。

4. 外国籍採用を見送る企業様への視点

採用を見送る理由としては、「言葉や文化の違いへの不安」や「受け入れ体制の不足」が多く挙げられます。しかし、専門学校との連携や社内研修を通じて、これらの課題は解決可能です。現代の採用市場では、多様な人材が企業の競争力を高める一助となるため、前向きに検討していくことをお勧めします。

5. 結び

当社は今後も「いち、はやく」時代に柔軟に未来に向かってゼロをイチにするというビジョンのもと、多様な人材の活躍を支援し、地域に貢献してまいります。

- ・日本人（人手）不足から。国へ行って採用するより日本語・整備を勉強されている。
- ・当初は外国人留学生の採用をしていませんでしたが、関係先専門学校運営の「留学生支援会」に加入し、外国人社員採用の検討を始めました。その後、日本人学生数の減少、整備士希望者の減少を受け、日本人整備士の採用が困難になってきたため、外国人社員の採用を決定しました。
- ・整備専門学校へ入学する日本人が減っている事実があり、将来を考え外国人雇用に踏み切った
- ・日本人整備士枯渇（特に弊社地域出身者減少）により海外人材の検討を進める段階で、関係学園より適性に秀でた優秀な人材がいるので紹介され試用をかね採用。これが見事に日本人以上に優秀であり見る目が変わった。現在はコミュニティーを使いながらすこしづつ増員している。
- ・国内での少子化や労働力不足を背景に優秀な人材を確保するためです。また、組織内のダイバーシティを推進する企業文化の一環でもあります。

= 要点の整理 =

■ 採用背景

自動車整備士の人口減少と少子高齢化により、採用難易度が上がっている中、顧客満足

度向上や事業継続のため、整備士の確保が重要である。そのため、ダイバーシティ推進といった多様な人材の採用を通じて、企業の持続的成長していくには、外国籍人材の採用がさらに促進していく傾向である。

■専門学校との連携強化効果

留学生が多くいる専門学校との連携強化を図り、実習機会などを提供するとともに、業界の理解や会社のキャリア形成の説明会の場を設け、採用に結びつける。

■採用後の成果と課題

外国籍社員の成長意欲は職場を活性化し、日本人社員に刺激を与えているが、言語や文化の壁の克服には継続的なフォローアップ体制を構築することが必要。

■採用見送る企業への提言

言語や文化の違いに対する不安を軽減するための専門学校などとの連携をはじめ、研修の重要性や多様な人材が競争力を高めることを認識し、前向きな姿勢に促す。

2) 外国籍の方を受け入れている企業様にお聞きします。日本語検定資格取得レベルと日本語でコミュニケーションがとれるレベルは一致していると感じていますか。

・日本語検定資格取得レベルと実際の日本語コミュニケーション能力は若干差があると感じます（個人差あり）。

・日本語検定資格「N 2」レベルでも、聞く・話すことについては平易な言葉を使うなど配慮する必要があると感じます。

・弊社在籍の外国籍の社員はN 3がほとんどです。

○以下、日本語能力検定 H P より認定目安と比較しての評価

・読む

①日常的な話題について書かれた具体的な内容を表わす文章を、読理解することができる。

②新聞の見出などから情報の概要をつかむことができる。

③日常的な場面で目にする難易度がやや高い文章は、言い換表現が与られれば、要旨を理解することができる。

比較⇒漢字が読めない方が多い、読めれば日常的な文章の理解は可能。

・聞く

①日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。

比較⇒概ね理解できている。

・一致しているとは思わない。特に、N 1の方は「え！」となる事が多い。

・一致していないと感じます。日本語検定資格のない方でも、本人のコミュニケーション能力が高ければ、十分に日本語でコミュニケーションが取れている印象です。

・一致しています。

・そもそも書く力と会話力が測れない日本語検定資格はあてにしていない。実際に担当者と

の会話やアンケートの記述等で判断している。N 2 の方でも会話が成立しないケースも多い。

・概ね、一致していると考えます。ポジティブなことですが、資格を保有していない方でも日本語コミュニケーションが高い方もいます。

= 要点の整理 =

■ 日本語検定資格の限界

日本語検定資格（例：N 2、N 3）は、文法や語彙の知識を測る指標であるが、実際のコミュニケーション能力を完全に反映しているわけではない。N 2 レベルでも会話が成立しないケースが多いとの指摘がある。

■ 個人差の影響

日本語の理解力や表現力には個人差があり、資格の有無にかかわらず、実際には日常会話が可能な高いコミュニケーション能力を持つ人もいる。日本語検定上級者であっても読解能力、聽解能力には個人差がある。

■ 実践的な評価

書く力と会話力は日本語検定では測れないため、実際の会話やアンケートなどの記述で判断することが重要とされる。コミュニケーション能力を評価する際には、検定資格だけではなく、実際のやり取りを重視することが重要。

3) 募集方法についてお聞きします。自動車整備系の専門学校と連携して行っていますか。

・募集については随時自動車整備系専門学校からの応募を受け付けておりますが、専門学校と連携して募集活動を行うといったことは特にありません。

・日本人と同じ方法で募集しております。

○スキーム

・専門学校開催企業セミナー参加(学校によっては無し)⇒専門学校へ会社説明会案内、開催⇒入社試験⇒専門学校へ合否通知

・はい。

・新卒採用に関しては自動車整備系の専門学校と連携をとり募集を行なっています。専門学校との連携以外に、特にツール等は使用していません。

・毎年整備体験会や会社説明会を行い関係性構築を行っている。

・入社採用選考：学校と連携しています。校内で説明会、会社見学。等

・連携で行っています。こちらとしては、非常に助かります。

= 要点の整理 =

■ 募集方法

自動車整備系の専門学校からの応募を随時受け付けていて、新卒採用においては連携をとっている。

■ 取り組みと関係構築

専門学校との関係性を構築しているため、毎年、整備体験会や専門学校での会社説明会を開催し、学生との接点を増やすことが可能となっている。

4) 給与・昇格についてお聞きします。外国籍の方への給与や手当をはじめ、昇給・昇格のチャンスなど日本人正社員と同じでしょうか。

- ・現時点では外国籍の方は在籍しておりませんが、外国籍の方独自の給与・昇格テーブルは作成しておりませんので、日本人正社員と同じです。
- ・同じです。
- ・同じ。
- ・給与額の決定や昇給等は、本人の適性・能力に基づいて行なっており、日本人社員と外国人社員は区別していません。手当に関しては外国人社員にのみ支給している手当があり、外国人社員が家族を母国から呼び寄せて同居する場合に一時金を支給しています。それ以外の手当は日本人社員と同じです。
- ・日本人同様。
- ・まったく一緒です。資格の取得がカギとなります。
- ・外国籍の正社員は、日本人正社員と同じように評価シートにより評価されています。昇給、昇格も同じように行います。

= 要点の整理 =

■給与の面

日本人社員と外国人社員との区別はなく、評価シートによる評価といった本人の適性や能力に基づいている。

■昇格・昇格

給与と同じで、日本人社員と同様に昇給と昇格のチャンスが与えられている。

5) 研修状況についてお聞きします。外国籍の方への研修はどのような内容で行っていますか。

- ・日本語や日本文化について、本部主導で定期的に社内研修を実施しております。
 - ・新人研修、フォロー研修(1年目は毎月、2年目は2か月毎、3年目は3か月毎)※研修開催は目安です。本年度はリソースが足らずこの通りに実施できません。
- 配慮
- ・外国籍の方にはルビ付きの資料を作成し配布しております。
 - ・ペアで実施する内容については面倒見が良い同期をペアにする。
 - ・食べられない食事がないか事前に確認。
- ・日本語で日本人と一緒にテキストや講師陣を使用しながら行っている。
 - ・基本的には日本人と同様の研修を行なっています。日本語が難しい部分に関しては、丁寧に説明を行なっています。外国人社員でも日本語レベルはさまざまであるため、個々に対応しています。
 - ・新入社員から日本人同様。

- ・日本人とまったく一緒です。留学生の方が質問が多いので若干時間が押す感じです。
- ・内容は同じです。班分けを日本人と外国籍の社員で分けるなど工夫をしています。

= 要点の整理 =

■ 研修の実施状況

定期的に社内研修を実施しており、新人研修とフォロー研修のスケジュールも設定されているが、リソース不足により実施を見送ることがある。

研修スタイルにおいては、留学生の質問が多いなどの時間配分の観点から、日本人と外国籍社員とを分けて実施するなど工夫をしている。

■ 配慮事項

外国籍の方には、ルビ付き資料の配布や面倒見の良い同僚とのペアリングをはじめ、食事内容の確認、日本語での指導を行い、難しい部分は丁寧に説明すること、日本人社員と同様の研修内容で個々の日本語レベルに応じて対応をしている。

6) サポート体制についてお聞きます。外語籍の方の住まいや家族のフォロー、在留資格の管理はどのように行われていますか。

- ・現在は技能実習生のみのため、管理団体が各種サポートを行ってくれています。
- ・住まいについては会社の独身寮を提供しています。
- ・住居は社員寮もしくは会社契約のアパートへの入居です。在留資格は台帳で期限を管理し、更新する際は会社から行政書士へ手続きを依頼しています。
- ・総務に方でここに合った形で対応している。管理は日本人と同様労働者名簿と一緒に管理している。
- ・在留資格更新は、在留期日を会社で管理を行い、書類等は会社で準備し、会社担当者が一括して入管にて更新手続きを行なっています。住まいや家族のフォローに関しては、本人から相談があった場合、役所や入管に問い合わせるなどしてその都度対応しています。最近では、住まい探しのフォローとして外国人社員が担当者として在籍している不動産会社の紹介、日本での出産時の必要な手続き（役所、入管、健康保険など）、家族が病気になった際の最寄りの病院の紹介などを行ないました。
- ・総務課がサポートしているが、すでに外国人労働者がいるため外国人同士でやり取りしたり、基本的に地元の整備学校出身者なのですでにコミュニティがある。
- ・記載されているサポートはすべて総務課で取り扱っています。
- ・基本的には、本人が行っています。手続き上、必要書類等（在籍証明書等）があれば対応しています。

= 要点の整理 =

■ 住居の提供

会社の独身寮または会社契約のアパートを提供しているほか、住まいに関するフォローとして、不動産会社の紹介を行っている。

■在留資格の更新管理

在留資格の管理は台帳で行い、更新手続きは行政書士に依頼しているところや、総務が在留資格の期限を管理し、必要な書類を準備しているところ、会社担当者が入管での更新手続きを一括で実施している、本人が行っているなどそれぞれの会社によって管理方法は異なっている。

■生活のサポート

外国人社員が担当者として在籍している不動産会社の紹介や、出産・病気時の手続き支援、相談の際には役所や入管に問い合わせて対応といったサポートをしている。

7) 就労ビザへの切り替えの際に困ったことはございますか（入管管理局とのやりとりなど）。

- ・現在は技能実習生しか受入実績がなく、就労ビザ切替えの実績がありません。
- ・行政書士へ依頼したため、直接の入管管理局とのやり取りはありません。
- ・受け付ける方によってOK/NOKがある。
- ・在留期間更新手続きの際、当社では他社の外国籍社員より在留期間が短かったため、入管に理由を問い合わせましたが、明確な理由の説明を受けることができませんでした。本人から問い合わせても同様でした。入管は、本人に対してもう少し丁寧に説明する必要があるのではと感じました。
- ・特になし。
- ・近隣ではある地域だけ育成計画書を出せと厳しい要請です。統一してもらわないと流用できなくなるので準備する我々が困る。技能実習生は管理組合が間にいるので良いかもしれないが、直接雇用は準備書類等企業側が準備し学生に案内するので毎年煩雑だと感じる。次年の更新も受け付けた入管の場所で3年5年の基準が違う。もう少し簡略化かつ定量化できないものでしょうか。
- ・今のところございません。

=要点の整理=

■入管とのやり取り

行政書士を通じて手続きを行っており、直接入管管理局とのやり取りは行っていない企業や入管の受け付ける担当者によって、在留期間の更新が異なる場合がある。また、更新手続きが入管の場所によって異なる基準があり、簡略化が求められている。

■在留期間の短縮理由の説明不足

他社の外国籍社員より在留期間が短かったため、入管に問い合わせたが明確な理由を得られなかつたため、本人からの問い合わせでも同様の結果であった入管の説明が不足していると感じている。

■地域による要求の違い

ある地域のみ育成計画書の提出を求められるなど、地域によって要件が異なるため、準備が煩雑になり、企業側の負担が増している。

8) その他、ご意見がございましたらお願ひします。

- ・特にございません。
- 外国籍T Sの教育、採用も注力しなければいけませんが、日本国籍の方にもっと自動車に興味を持つていただけるような取り組みも合わせて注力して参ります。今後ご協力できることがあればよろしくお願ひいたします。
- ・外国人社員に対して文化が違うから理解してくれないなどと言う方がいますが、日本でも地域によって文化が違い、日本語を知っていてもコミュニケーションが苦手な日本人がいます。外国人だからと言って、本人の能力が否定されるようなことがあってはならないと思います。
- 外国人社員が定着するように受け入れ側の日本人の意識改革、企業の就業環境の整備が必要だと感じます。
- ・外国人は意欲が高く、優秀な方が多いので採用してよかったです。
- ・学費生活費を稼ぐために一生懸命アルバイトをしている。会話が上手な方はコンビニや飲食で働いているけど賃金が安い、体力を使う工場系のバイトは賃金は高いけど会話力が身につかないという現実があるように思う。

= 要点の整理 =

■ 外国籍社員の教育と採用

 外国籍社員の教育と採用に注力する必要があるが、日本国籍の方にも自動車に興味を持つてもらう取り組みを進める必要がある。

■ 意識改革と就業環境の整備

 外国人社員が定着するためには日本人の意識改革が必要で、コミュニケーションができないことを文化の違いで言い訳はしてはならない、日本国内でも地域によって文化が異なるため、コミュニケーションの難しさは外国人だけの問題ではない。外国人社員に対する理解不足が課題。

■ 外国人の意欲と優秀さを認める

 外国人社員は意欲が高く、優秀な人材が多い、外国人社員の能力を否定することは許されない。

【考察】

 外国籍人材の採用において、日本語のコミュニケーション能力を重視し、資格だけに頼らず実際の能力を評価する体制を整えることが重要である。

 人材募集面においては、専門学校との連携を強化し、募集活動をダイバーシティ推進といった多様化することで、企业文化の発展を心掛けることで優秀な人材を確保できる可能性が高まる。

 また、研修プログラムを魅力的にすることで、参加者が積極的に学び合い、成長できる環境を提供することが企業全体の発展に寄与する。

 さらに、現在のサポート体制を継続的に強化し、コミュニティ形成や文化理解を促進することで、外国人労働者が安心して働く職場環境を整えることが重要である。

 一方、技能実習生の受け入れ体制には入管とのコミュニケーションや手続きの複雑さといった課題が

あり、情報の共有や手続きの簡素化が求められている。このことにより、企業運営がスムーズになり、外国籍社員の定着率向上が期待される。

②自動車整備系専門学校ヒアリング項目と回答

- 1) 留学生の受け入れ状況についてお聞きします。自動車に興味がある留学生は増えていますか。また、日本語レベル（日本語検定資格レベル）はどのような状況でしょうか。

- ・本校だけでなく、日本全体で見ても自動車に興味がある若者は少ない。留学生も学生数は増えているが、自動車に興味を持って留学してきたのではなく、就職や収入、安定といった視点で自動車を選んでおり興味があつて（自動車が好きで）といった学生は多くない。近年はその傾向が強い。
- ・日本語レベルは入学時にN 2を取得している者は少ない。N 3～N 4、平均するとN 3. 5といったところ。コロナ感染症による入国制限から下がっている。
- ・自動車への興味と日本語レベル共に国により差が出ている。会話を重視している。ネパール、スリランカの留学生は日本語が上手い。N 2は年に1～2人。N 2を持っていても会話ができない人が目立つ。今まで筆記試験で数学と日本語をしていたが、オンラインで行うには、N 3～N 4の資格取得を持っているところが最低条件で日本語のテストは無くしている。
- ・N 2相当、N 3以上の資格取得者を受け入れている。日本語で日常的な会話はできるが、勉強となると読み書きがなかなかできない。N 2相当でもコミュニケーションができない留学生もいる。ビザの取得についての優位性から自動車分野を選んでいる学生も含まれている。
- ・日本人は当然に、留学生も自動車好きは減っている印象を受けていた。コロナ禍以降、ベトナムが減少しネパールが大幅に増えている。中国国籍は1名在籍。入学時の日本語レベルもコロナ前と比べると低下している。
- ・当校に入学するにはN 2レベルを義務付けている。どうしても自動車分野に入りたい興味が強い留学生には、当校の別の学科に日本語N 2レベルと自動車の専門用語を1年間学ばせて自動車の学校に入学する。その方法が良い流れになっていて、二級と一級ともに100%合格させている。

= 要点の整理 =

■自動車への興味の低下

日本全体で自動車に興味を持つ若者は少なく、留学生も就職や収入の安定を重視して自動車分野を選んでいる傾向が強い。

■日本語レベルの現状

入学時の日本語レベルは、N 2取得者が少なく、平均してN 3. 5程度。コロナ禍による入国制限の影響で、日本語レベルが低下している。

■国ごとの差異

留学生の日本語能力には国による差があり、ネパールやスリランカからの留学生は比較的日本語が上手い。N2取得者でも会話力に課題がある人もいるので、日本語の筆記試験を廃止し、会話能力を重視しているところもある。

2) 募集方法についてお聞きします。現地日本語学校や代理人、日本国内の日本語学校との連携で募集していますか。今後の展開を含めてお聞かせください。

- ・現地→関連の日本語学校→当校がゴールデンルート。日本中の日本語学校から集めている。しかし日本語学校は大都市（東京や大阪）に全体の80%が集中しているのが現状。母国からの直接入学も多少あるが、その場合は中国・台湾等の漢字圏、但し大変少ない。
- ・日本国内の日本語学校と連携している。連携するにおいて、学生にとって学費の壁があるので、どのような形にするのか検討していく必要がある
- ・日本の日本語学校と連携している。現地日本語学校との連携はしていない。日本に来て1年間は、日本の日本語学校に通うことが入学の条件としている。他の専門学校から転入してくる留学生もいる。
- ・日本国内の日本語学校から募集しており、母国からの直接入学はない。広報が日本語学校を訪問して募集している。
- ・現地の日本語学校から直接募集はしていない、地元地域の日本語学校、次に東京の日本語学校から入学してきている。

= 要点の整理 =

■ ゴールデンルートの確立と地域差

現地の関連日本語学校から当校への進学が「ゴールデンルート」とされているが、実際には大都市（東京や大阪）に日本語学校の80%が集中しているため、地方校からのアクセスが難しい状況。地元の日本語学校からの直接募集は行っておらず、主に東京の日本語学校から入学している。

■ 広報活動

日本国内の日本語学校を訪問して広報活動を行い、学生募集を行っているが、母国からの直接入学はほとんどない。

■ 入学条件と学費の壁

日本に来てから1年間は、日本の日本語学校に通うことが入学の条件となっている。また、他の専門学校からの転入生も受け入れている。日本国内の日本語学校との連携に際して、学生にとって学費が大きな壁となるため、どのようにサポートするかを検討する必要がある。

3) 留学生の学費の支払い状況はいかがでしょうか。

- ・ロータストラックネット（企業奨学金）の理由となったのが、留学生の経済状況。アルバイト収入から考えると2年間で100万円以上足りない。母国から持ってきた資金も日本語学校時に底をついている。分納を認める場合は12月末までに全額としておかないと、

例えば2月末まで分納を認めるところは回収は不可能になる。

留学生への企業奨学金としてネックとなるのが保証人について。その点については各企業に留学生への投資が必要である旨を理解してもらうように努めなければならない。

・催促しないと払わない。先生が協力的に働いてくれている。学費を納めないと期末試験を受けられないようにしたら、滞納者は減っている。試験の直前に慌てて支払いしてくる。実技試験だけは受けさせるが、筆記試験は支払い済みでないと受けられないようにしている。追試試験の費用も合わせて支払われている。

・厳しい、教職員の負担が大きい。分割できるものとできないものを分けている、学費は分割できるようにしている。前年度分の学費を払い終えていないと授業に参加できないようにしている。企業奨学金（留学生）は現在は無いが、自動車運転免許の取得費用について企業からの補助といった話はある。

・留学生の学費回収には、支払いのみならず管理にも苦労している。分納は前期後期の2期制だが、4分納も個別には認めている。各担任が学費の回収について対応。自動車の運転免許については、グループ内に自動車学校（教習所）があるためスムーズである。

・自動車に関しては、N2を取得していると授業料の免除もあることから、特に大きな問題は起きていない。自動車関連企業と連携し、企業様の善意から時給を割高にしてアルバイトさせていただいている影響もあると思う。

= 要点の整理 =

■ 学費の回収状況

学費の支払いが遅れる学生が多く、催促しないと払わないことが多い。学費未納の場合、筆記試験を受けられないルールを設けることで滞納者が減少している。

■ 経済的な課題

留学生はアルバイト収入だけでは2年間で100万円以上不足する状況。母国から持参した資金も日本語学校在学中に底をつくことが多い。

■ 教職員の負担

学費の管理や回収に教職員の負担が大きく、分納の管理にも苦労している。前年度分の学費を支払わないといふ授業に参加できないルールを設けている。

4) 入学時期についてお聞きします。留学生の入学はいつ頃でしょうか。

- ・4月入学である。秋入学は入国管理局が認めないと認識している。
- ・4月入学で行っている。
- ・4月入学で行っている。
- ・4月入学である。
- ・4月入学である。

= 要点の整理 =

■ 入学時期

本年度のヒアリング先は全て4月が入学時期で行っている。

- 5) 入学～修学期間の受け入れ環境状況についてお聞きします。留学生を受け入れるにあたり、学校全体で学習面はもちろんですが、日常生活面などの指導は行っていますか。また、その指導についての独自教育プログラムなどはございますか。

- ・特に行っていない。教育課程において日本人がパソコン等の授業を受けるタイミングで留学生には日本語や生活指導を行っている。
- ・日本語学校を通じて日本で生活してきているため、留学生用の受け入れ環境は整えていない。独自教育プログラム等もない。
- ・借り上げのアパートに入つてもらい、月に1回のアパートチェックをしている。中には個人的に借りている学生も居るが、状況に応じてチェックしている。入学前にアパートと学校の内規を理解させている。ごみの分別や出し方の指導をしている。管理会社と連携をしながらチェックしている。国ごとに文化も異なるので、国別に分けて話をするようにしている。移動がバイクや車なので、任意保険加入などの保険に関しての周知は必要。留学生は事故を起した後の金銭問題などは軽くみている。
- ・独自のプログラムはないが、入学時のオリエンテーション時に警察署から担当者を招き講演してもらっている。各国独自の文化によっては就職活動で注意すべき態度（日本ではマナー違反）があるので就活に合わせて指導している。
- ・留学生1人に対して日本人4人のグループで組んでいる。母国語禁止、実習に入る前にオアシス運動をしてから入る。あとは、祭りなどのイベントに積極的に参加させている。留学生支援室による個人面談も実施している。

= 要点の整理 =

■ 住居の管理と指導

借り上げアパートに留学生を入居させ、月1回のアパートチェックを実施している。入学前にアパートや学校の規則について説明し、ごみの分別などの生活指導を行っている。

■ 文化理解と生活指導（保険面の軽視）

国ごとの文化の違いを考慮し、国別に話をするようにしている。移動手段に関する保険の重要性を周知しているが、事故後の金銭問題については軽視されがち。

■ グループ支援とイベント参加

留学生1人に対して日本人4人のグループを組み、母国語禁止のルールを設けている。実習前にオアシス運動を実施し、祭りなどのイベントに積極的に参加させている。留学生支援室による個人面談も行われている。

- 6) 留学生のコミュニケーションについてお聞きします。日本語検定資格取得レベルと実際の日本語でのコミュニケーション能力のバランスは取れていると感じていますか。

- ・取得している日本語検定資格レベルと実際の日本語力との差異が大きい場合がある。特に会話については出身国によって違いがあり、日本語検定のレベルが低くても会話が上手

なのはスリランカ。

但し、留学生は解らなくても（理解していないでも）「ハイ」「ワカリマシタ」と返事をしてしまう。彼らにとって「ハイ・ワカリマシタ」も「コンニチワ」も同じ。留学生には解らないときは「ワカリマセン」と正直に言うように指導している。

- ・日本語で話せる留学生ばかりなので、コミュニケーション的には特に問題ないと感じている。日本語能力検定等の取得している資格レベルと実際のコミュニケーション能力の相関関係は低い。
- ・N2相当でもコミュニケーションができない留学生もいる。JLPTの結果はあくまで参考値と思っている。段階を踏めない年2回の受験回数を改める必要があると感じる。試験慣れしている学生が合格している感じがする。実力が備わっていないと感じることがある。
- ・取得している日本語能力検定と実際のコミュニケーション力については差異を感じている。授業は標準語に近い言葉で話すようにしているが、学生の中には博多弁を流暢に話す者もいる。
- ・面接の際に、確認する。N2を持っていてもコミュニケーションは怪しい。国によって様々な状況。読み書きが得意な国の留学生と会話ができる国の留学生と分かれる。N2を持っていても会話ができる留学生はコミュニケーションを取りやすい。ベトナムからの留学生の日本語力低下は顕著である。

= 要点の整理 =

■ 資格レベルと実力の差

日本語検定資格と実際の日本語力に大きな差異があることが多い。特に会話能力については、出身国による違いが顕著で、スリランカの学生は会話が得意な傾向がある。JLPTの結果は参考値に過ぎず、試験慣れしている学生が合格する傾向があるため、受験回数の見直しが必要と感じている。

読み書きが得意な国の学生と会話が得意な国の学生に分かれ、特にベトナムからの留学生の日本語力が低下している状況が見られる。

■ 反答の習慣

留学生は理解していない場合でも「ハイ」や「ワカリマシタ」と返事をすることが多く、正直に「ワカリマセン」と言うよう指導している。

■ コミュニケーションの問題

日本語で話せる留学生は多いが、資格レベルとコミュニケーション能力の相関関係は低い。N2相当の資格を持っていても、実際のコミュニケーションに不安がある学生が多い。

7) 就職・進路指導についてお聞きします。御校ではどのようなサポートを行っていますか。

- ・学校単体での就職ガイダンス（合同企業説明会）を開催している。期間は1日半かけて校内外の会場にて「県内」「県外」「留学生」といった区分けにして実施している。
- ・付き合いがある会社の中で、興味がある、聞いてみたい会社を紹介しながら話をして進め

ている。例年 1 月に約 60 社の企業に集まつていただき合同企業説明会を実施している。

- ・就職先に迷惑が掛からないように、自身が持つ日本語検定取得レベルに到達できる会話能力、電話で話ができる能力まで高めることを指導している。
- ・学内企業説明会を 1 月に実施、会場（教室）の関係で順番に約 30 社が全員に対して話す形式をとっている。履歴書の書き方と添削、面接練習、入社試験の過去問といったサポートを行っている。
- ・面接指導や履歴書の書き方、就職斡旋などは学校が行っている。ビザの切り替え（技人国）等、企業対応は留学生支援室が行っている。

= 要点の整理 =

■ 就職ガイダンス実施と企業紹介

学校単体での就職ガイダンス（合同企業説明会）を開催しており、1 日半の期間をかけて「県内」「県外」「留学生」といった区分で実施。毎年 1 月に約 60 社の企業が参加している。付き合いのある企業を紹介し、学生が興味を持つ企業についての情報を提供している。

■ 日本語能力の向上指導

留学生が就職先に迷惑がかかるないように、日本語検定取得レベルに達するための会話能力や電話応対能力の向上を指導している。

■ 学内企業説明会の実施

学内企業説明会では、約 30 社が順番に全員に対して説明を行う形式をとっている。履歴書の書き方、添削、面接練習、入社試験の過去問を用いたサポートを行っている。

■ 専門的なサポート体制

面接指導や履歴書作成、就職斡旋などは学校が行い、ビザの切り替えに関する対応は留学生支援室が担当している。

8) 留学生の就職先についてお聞きします。望んでいる企業に就職できていますか。

- ・就職率、国家試験合格率は毎年 100% である。日本人はほぼ全員が希望の企業に入社しているが、留学生は 7 ~ 8 割が希望通り。その理由は学費の支払い状況にあり、卒業までに学費を支払うことが困難な学生に関しては企業奨学金を活用できる進路指導を行っている。
- ・留学生が気になる会社を紹介すると多くは就職できている。派遣会社等による留学生向けの合同企業説明会を使って選んでいる留学生も居る。
- ・大手企業が一括採用してくれているのもあり、75% は第一志望の企業に就職できている。トラック関係は留学生の人気は高い。
- ・留学生の就職先については 70 ~ 80% の学生が第一希望に就職している。
- ・ほとんど第一希望で決まっている。1 年生の夏休みと冬休みにインターンシップ（1 ~ 3 日間）に行かせる。多い学生だと 3 社とか行っているので、その影響かもしれない。

= 要点の整理 =

■ 留学生の第一志望の就職率

ほとんど第一希望で決まっている。留学生は7～8割が希望先に就職している。大手企業が一括採用してくれているのもあり、75%は第一志望の企業に就職できている。70～80%の学生が第一希望に就職している。

■ 留学生の就職先

大手企業やインターンシップ先、トラック関係。トラック関係は人気が高い。

9) 留学生の就職先の仕事の定着についてですが、長く勤務できていますか。それとも短い期間で転職していますか。年数が分かりましたらお教えください。

- ・毎年、卒業生が就職先に在籍しているかの確認はしていないが、凡そ3～5年である。本校が留学生を受け入れ始めた頃の学生は短期間で辞めてしまった者もいるが割と長く務めている。
離職までの期間を延ばす手段としても企業奨学金は有効である。貸与した奨学金を給与天引き等せずに、他の従業員と同じ給与額を支給。但し例えば7年間は在籍するといった方法。コロナ禍以降で自動車整備士の新卒給与が急速にかつ、大幅に上がったことにより残債を一括で支払い転職してしまう例はある。
- ・期間はつかんでいない、国籍に関わらず、辞める子は辞める。
- ・5年以上の定着率は25%程度、近年は金銭面を理由に短期間で転職している者が多い、人材の流動性が高い。
- ・具体的に離職率・定着率を把握しているわけではないが、企業の担当者や卒業生からの情報では定着率は下がってきていると感じている。それは日本人も同様である。学生の離職防止に一役かっているのが夏休みに開催する同窓会。卒業して1年目と2年目の県内に就職した卒業生を対象に行っている。2日間に分けて卒業年度ごとに行っている。参加者は両日とも50～60名（卒業生70名中）同会の中で旧友や母校の教員と話すことでリフレッシュとなる、自分と同じ悩みを持つ者と話し、共有することで離職を踏みとどまる者もいる。就職先の企業に協力を願い、休日ではなく就業として参加できるようにしている。在留カードの切り替えによる年数は1回目（卒業時）が1年間で次からは5年のパターンが大半である。
- ・日本人の卒業生の離職率は6%と大変低い。留学生についても全てを把握はできていないが1年以内に離職した者は過去1名のみ。ほとんどの留学生は卒業の就職先で働き続けている。

= 要点の整理 =

■ 卒業生の定着率

卒業生の就職先に在籍している期間は概ね3～5年で、特に初期の留学生は短期間で辞めた者もいるが、最近の卒業生は比較的長く務めている。5年以上の定着率は約25%

で、全体的に離職率が上昇している。企業担当者や卒業生からの情報では、定着率が下がっているという感触がある。また、留学生の1年以内の離職者は過去1名のみで、ほとんどの留学生は卒業後の就職先で働き続けているというところもあった。

■企業奨学金の効果

企業奨学金を利用することで、在籍期間を延ばすことが可能。奨学金を給与天引きせず同額支給とし、例えば7年間の在籍を条件とする方法が提案されている。

■離職の要因

コロナ禍以降、自動車整備士の新卒給与が急上昇し、残債を一括で支払い転職するケースが増加。全体的に金銭面を理由に短期間で転職する者が多い。

■同窓会の役割

夏休みに開催される同窓会は、卒業生同士の交流の場となり、悩みを共有することで離職を踏みとどまる効果がある。県内に就職した卒業生を対象に、参加者は50～60名。

【考察】

留学生の受け入れ状況を改善するためには、教育とサポートの強化が急務であるとともに、自動車分野への興味を高める施策を講じ、留学生が充実した経験を得られる環境を整えることが重要である。海外と国内の日本語学校との連携を強化し、学費や地域差の課題に対処することで、より多くの留学生を受け入れられるようにし、多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れることで、学校の国際性と教育の質を向上させることが期待される。

また、留学生の経済的課題を解決するためには、企業奨学金の導入や支払いルールの見直しが必須で検討していく必要があると同時に、独自の教育プログラムや生活指導を強化し、文化理解を深めることで、留学生の適応を支援していく環境整備を行う。

一方では、日本語検定資格と実際のコミュニケーション能力のギャップを埋めるために、実践的な教育プログラムの導入が重要である。そのためには、企業との連携をさらに強化なものにし、個別指導を充実させることで、就職活動を成功に導く環境を整える必要がある。

さらに、企業奨学金制度の強化や給与体系、企業のキャリア形成の在り方などを発信することで、留学生の就職先の定着状況改善に導く。そのためには、定期的なデータ収集と分析を行い、具体的な課題を把握し、卒業生同士の交流を促進することで、離職を防ぐ環境を整えることも考えられる。

③日本国内日本語学校ヒアリング項目と回答

1) 受入れ状況についてお聞きします。留学生が求める分野は、入学当初から決まっていることはございますか。

- ・例えば「ビジネス」という括りで考えている者は多くいますが、特定の職種を考えている者は少ないです。
- ・入学当社から決めているのは、介護や自動車整備を学びたいという学生に多いように感じ

- ます。ただ、日本で生活する中で気持ちが変わるものも多いです。
- ・あります。特に、自動車分野を希望する学生は決まっていることが多いです。その他の分野（観光・IT・ビジネスなど）は少ない傾向にあります。
 - ・当校日本語科に入学した留学生の進路先として推薦入学ができるグループの専門学校を通して就職まで世話をしている。すべての学生に当てはめるようなことはしてはいないが、6割～7割がグループの専門学校に進学する。
 - ・当学園は日本語教育機関を保有しておらず、専修学校の専門課程としての留学生受入れとなります。したがいまして、各分野、各学科に進学意志を持った留学生を受け入れていますので、入学時点で希望している分野となります。留学生対象の1年課程「ビジネスキャリア学科」の学生につきましては、1年間の日本語および進学準備の中で、進路を確定することになりますが、約半数の学生が入学時の希望とは違う分野への進学に変更する傾向が見られます。

= 要点の整理 =

■ 進路の多様性

多くの留学生は「ビジネス」という広い括りで考えるが、特定の職種を明確に希望する学生は少ない。介護や自動車整備を学びたいという学生は多いが、日本での生活を通じて進路への気持ちが変わることがある。

■ 自動車分野の人気

自動車分野を希望する学生は比較的具体的な希望を持っているが、観光やIT、ビジネスなど他の分野への希望は少ない傾向がある。

■ 専門課程の受入れ

専修学校の専門課程として留学生を受け入れているため、各分野に進学意志を持った留学生を受け入れている。入学後1年間の日本語学習と進学準備を経て進路を確定するが、約半数の学生が入学時の希望とは異なる分野に進学する傾向がある。

2) 学生が進路先を決定する時期はいつ頃が多いですか。

- ・卒業年度の7月～9月が最も多いです。
- ・学生が決定するというより、学校の動きとして、毎年7月のJLPTが終わってすぐの進学ガイダンスに参加するために、6月後半頃から本格的に進路希望調査を行います。それから、夏休みに個人面談を行い、個々の志望校の出願時期など具体的に見ていきます。
- ・早い学生で5～6月頃のAO入試で決まります。多くの学生は8～10月ごろに決定し、進学先確定のピークは9月頃になります。
- ・1年生の1月に自動車のキャンパスツアーを参加させている。1年生の後期に説明会に参加させている。
- ・ビジネスキャリア学科の学生については具体的に進路を固め始めるのは夏休み明け頃から

10月頃にかけてです。実際に動き始めるのは11月に入ってからという学生も少なくありません。

=要点の整理=

■進路の決定時期

卒業年度の7月～9月や毎年7月のJLPTが終わり、すぐに進学ガイダンスに参加するため6月後半頃、早い学生は5～6月頃のAO入試で決まる、多くは8～10月頃に決定し、進学確定のピークは9月頃、夏休み明けから10月頃で11月に入ってからという学生もいる。

- 3) 募集方法について、学生募集はどのような方法で行っていますか。また、受け入れ国はどのようなところが多いでしょうか。

- ・当校の受入国は80%がネパール、10%が中国、その他としてスリランカ、ミャンマー、ベトナムになります。学生募集は、送り出し国の紹介機関を通して行うことがほとんどです。
- ・ベトナム：現地大学・短大との提携、仲介機関（日本センター）からの紹介、卒業生等の口コミ、ネパール：現地で留学セミナー開催、提携仲介機関からの紹介者を面接（オンライン含む）、その他の国、バングラデシュ、ミャンマー、スリランカなど 現地の仲介機関から募集の問い合わせがあり、協定の後、面接（オンライン含む）。
- ・以前より付き合いのあるエージェントさんからの紹介で定員が埋まります。その他、問い合わせをいただき入学する場合もありますが、営業をかけることはほぼありません。
 - ①スリランカ ②バングラデシュ ③ミャンマー …①～③で90%を占めます
 - ④ベトナム、ネパール、中国、インドネシアが数名ずついます。
- ・現地のエージェントを介して希望を募る方法が多い。自校の教員が現地へ出張し募集活動に加わっている。卒業生・在校生の身内や友達も来るケースもある。県内に在住している外国籍の方を通して入学するケースもある。
- ・主に日本にある日本語教育機関からの受け入れとなるため、北海道内はもとより、東京首都圏の日本語教育機関にもアプローチをかけ募集を行っています。最近は、ネパールからの留学生が圧倒的に多い状況ですが、アジアの国からの学生を中心に15の国、地域の学生が在籍しています。

=要点の整理=

■募集方法

主に送り出し国の紹介機関を通じて募集を行っている。具体的には次の方法が挙げられる。ベトナムは、現地大学・短大との提携や仲介機関（日本センター）からの紹介、卒業生の口コミ。ネパールは留学セミナーの開催、提携仲介機関からの紹介者とオンライン面接。その他の国（スリランカ、バングラデシュ、ミャンマーなど）は、現地の仲介機関からの問い合わせを受け、協定後に面接を行う。

日本にある日本語教育機関（特に北海道や東京首都圏）へのアプローチを行い、募集を

行っている。最近特にネパールからの留学生が増加しているが、アジアの15カ国・地域からの学生が在籍している。

■エージェントとの関係

以前から付き合いのあるエージェントからの紹介で定員が埋まることが多く、営業活動はほぼ行っていない。スリランカ、バングラデシュ、ミャンマーのエージェントが主要な情報源であり、これらの国が90%を占めている。

■卒業生や在校生の影響

卒業生や在校生の身内、友人を通じて入学するケースも多い。県内に在住している外国籍の方からの紹介もある。

4) 留学生を受け入れる時期についてですが、いつ頃に入学を受け入れることが多いでしょうか。

- ・入学時期は年二回（4月、10月）で、学生の来日は3、4月と9、10月に集中しています。
- ・4月生が一番多いです。次に7月生、10月生を受け入れています。ときどき1月生がありますが、いても数名です。
- ・4月に80%、10月に20%程度を受け入れています。
- ・4月と10月に受け入れている。4月期生60%・10月期生40%。ミャンマー・ネパール・バングラデシュの順に多く合計で80%次いでスリランカ・ベトナムである。
- ・月入学のみとなるため、10月から出願受付となります。

=要点の整理=

■入学時期

4月が一番多く、次に10月が多かった。それぞれの入学比率は4月80%や60%と過半数を超える受け入れ時期で行われている。

5) 学習スケジュールについてお聞きします。どのような内容でどれほどの時間かけて行っていますか。概要で構いません。

- ・2年コースの場合、初年度で初級を終了（テキスト2冊）、2年目で初中級、中級の中盤まで進むのが一般的です。1年半コースの場合は初中級が終了します。使用テキストは、『みんなの日本語』IとII、初中級は『中級へ行こう』、中級は『中級を学ぼう』。
- ・4月生の1年間で760時間以上の授業を行うことが国の決まりになっています。メインテキストは『できる日本語』を使っており、授業は、「自分のこと、自分の考えを伝える力」が身に付くような内容になっています。
- ・N5…3ヶ月 N4…3ヶ月
N3…3~6ヶ月（3~4ヶ月が多い） N2…3~6ヶ月（4~5ヶ月が多い）
N1…3~6ヶ月（3~4ヶ月が多い）
- ・100時間を掛けてN4レベルまで上げる。日本語能力試験、検定対策は初級クラスが授業時間の50%、中級・上級クラス80~90%を占めている。

・ビジネスキャリア学科の教育課程

全30科目 1065時間【内日本語関連科目 18科目（720時間）】

=要点の整理=

■授業時間の決まり

4月生の1年間で760時間以上の授業を行うことが国の決まりになっている。

■日本語能力試験対策

N5からN4までの学習期間はそれぞれ3か月、N3は3～6か月、N2は3～6か月、N1は3～6か月。N4レベルまでの習得には約100時間を要する。初級クラスでは授業時間の50%、中級・上級クラスでは80～90%が検定対策に充てられている。

■ビジネスキャリア学科の教育課程

全30科目、1065時間の授業が行われ、その内で日本語関連科目は18科目（720時間）。

6) 学習内容についてお聞きします。日本語検定取得を中心で行われていますか。授業以外の日常的なことも盛り込んで教えていますか。

・テキストにある内容で日本事情に関係するものがあれば取り上げて教えますが、日本事情として独立した授業はありません。生活全般に関する情報は、入学当初のオリエンテーションと、定期的に開催する学生ミーティングで伝えています。

・日本語はあくまでも学生が将来の夢を叶えるための手段なので、日本語を使って何ができるかに焦点をあてて学んでいます。また、日本文化を体験したり、プロジェクトワークで調べたことをまとめて、発表会を行ったりしています。JLPT対策も行っていますが、学びの中心ではありません。

・レベルによって異なりますが、平均してJLPTが60～70%、日常に繋がる内容が30～40%です。専門学校の日本語学科（告示校）のため、日本事情や、ビジネスに繋がる内容をカリキュラムに組み込んでいます。

・生活面・マナーは入学時のオリエンテーションにて実施。別日に法律などは警察講和として実際に警察の方に来ていただいて行っている。警察署の方にはあえて制服で来てもらっている。それによって留学生も引き締まる。

・ビジネスキャリア学科の教育課程

日本語願蓮科目以外に、情報基礎、ビジネススキル、異文化コミュニケーション、日本文化交流等の総合系科目も設置しています。

=要点の整理=

■JLPT対策

JLPT対策も行うが、学びの中心ではなく、レベルによって異なるが、全体の60～70%がJLPT関連、30～40%が日常生活に繋がる内容。

■日本事情の教育

日本事情に関する独立した授業はないが、テキスト内容に関連する情報は取り上げて教える。生活全般に関する情報は入学時のオリエンテーションや定期的な学生ミーティングで提供している。

■生活面・マナー教育

入学時のオリエンテーションで生活面やマナーについて指導。法律に関する講和は警察の方を招いて実施し、制服での訪問により留学生の意識を引き締める。

- 7) 留学生の学費の徴収に苦労されていると思いますが、支払い状況はいかがでしょうか。学生が工夫していることなど分かる範囲で構いませんので教えてください。

- ・現状で、目立った学費の滞納はありません。入学時オリエンテーションで学費や進学先でかかる費用を見越した資金計画を立てるように指導しています。
- ・2年目の学費は分納を可能にしている、支払期限前の長期休み前に学費の請求書を渡す際に、現状の貯金額やアルバイトの収入による見込みを計算し、家族から支弁が必要な場合は、早めに相談することを伝える。学費締切が2月末の場合、12月冬休み前に案内。支払期限を超える場合は、延納願いを提出させてカウンセリングを行っている。また、後期学費が完納しないと、証明書などの発行ができないことを通知している。
- ・弊校は比較的裕福な家庭の学生も多く、一部の学生を除けば、他校に比べ、学費の支払いが遅れる学生は少ないように思います。決して裕福ではない家庭の学生でも、堅実な学生は、無駄遣いをしないよう外出を控えたり、安いスーパーで食材を買う、自炊するなど、節約を心がけているようです。また、余談ではありますが、学費が滞る学生に限って、外出が多く、新しいスマホが出ると購入するなど浪費癖があるといった問題を抱えていることもあります。
- ・1年目はあまり心配ないが、2年目になると苦労する。日本語学校と専門学校の学費が重なるところは気を付けています。進路を先に決めたがる留学生がいる。日本語学校卒業のことを考えていない学生が一部いる。日本語学校を卒業しないと進学できないことを分かせる。
- ・基本、前期、後期の年2回に分けての分割が原則ですが、規定の金額の納入が難しい学生には、一部分割納入もしくは延納を認めることがあります。その際は事務的に各種願い届を提出し、誓約書を交わしたうえでの対応となります。

= 要点の整理 =

■学費の滞納状況

現在、目立った学費の滞納はなく、入学時のオリエンテーションで資金計画の重要性を指導している。

■分納制度の導入

2年目の学費は分納が可能で、支払期限の前に請求書を渡し、貯金やアルバイト収入を基に見込みを計算するよう指導している。支払期限を超える場合には延納願いを提出させ、

カウンセリングを行う。後期学費が完納しないと証明書が発行されないことを通知している。基本的に前期・後期に分けた分割納入が原則だが、規定の金額が納入できない学生には、一部分割納入や延納を認めている。その際は事務手続きが必要。

■ 学生の経済状況

比較的裕福な家庭の学生が多く、学費の支払いが遅れる学生は少ないが、堅実な学生は節約を心がけている。学費が滞る学生は外出が多く、浪費癖が見られることがある。

8) 留学生の管理状況についてお聞きします。最も大変なこと、時間のかかることはございますか。

- ・特定の学生の出席、生活指導です。また、学生寮を運営しており、そこで生活指導も手間がかかります。
- ・交通ルール、（交通事故）：オリエンテーションや隨時交通安全を注意しているが、交通事故率が日本人に比べ高い。自転車のマナーが悪い場合も、近隣住民の方から注意を受けることもある。
- ・出席管理が大変です。他校では学生が共同で入寮しているため、今日は行きたくないな、という日でも、周りに流され、何となく登校してくる学生も多かったのですが、弊校は基本的に一人暮らしのため、さぼり癖のある学生は「このぐらいなら出席率も大丈夫だろう」という微妙なラインについて欠席します。担任や教務で指導はしていますが、進学の取り消しなどのペナルティでもなければ、治らないんだろうな、と感じています。学校によって指導法、厳しさは異なり、ただ厳しく縛り付けることが正解だとも思いませんが、自主性に任せるというのも問題で、学校として対応も見直すべきだと感じています。
- ・アパートに集まってパーティーしてしまって周りに迷惑をかけたりする。授業の中で対応するようしている。アルバイトの時間数に関しても危機感が無いので、しっかりと指導する。指導は担任がメインだが、アルバイトを管理する人を設置している。書類の請求申し込み、書類の作成、面接等に時間を相当数かけている。
- ・報連相の習慣づけに大きき時間を割かれます。メールや携帯、L I N Eなど、連絡を取れる手段が多くあるにもかかわらず、必要な時に連絡が取れなかったり、連絡をそのまま放置したりするケースが多いです。

= 要点の整理 =

■ 出席管理の課題

一人暮らしの学生が多く、出席率が低下する傾向が見られる。さぼり癖のある学生は微妙なラインについて欠席することが多い。担任や教務による指導は行われているが、ペナルティがないため改善が難しいと感じている。

■ 生活指導の重要性

学生寮の運営において、生活指導に手間がかかる。特に、交通ルールや自転車のマナーに関する指導が必要で、近隣住民からの苦情もある。アパートでのパーティーによる近隣への迷惑行為が発生していることがある。授業内で対応するようにしている。

■ アルバイト管理の必要性

アルバイト時間数に対する危機感が薄く、しっかりとした指導が必要。担任が主に指導を行い、アルバイトを管理する担当者も設置している。

9) 進路状況についてお聞きます。就職・進学状況と斡旋先はどのような業種が多いでしょうか。また、その際に大変なことはございますか。

- ・ネパールの学生を始め、非漢字圏の学生は専門学校への進学が中心で、中国籍の学生は大学進学が殆どです。一番大変なのは進学先を決めさせることです。進学フェアなどに参加させることで情報は提供していますが、その時点の日本語力で学校の情報を完全に理解することは難しいです。その次は、提出書類を揃えたり記入させたりすることです。きちんと読まずに記入する学生が多く書き間違いの訂正に時間がかかります。余りにも微細な書類（アルバイト先の就労証明や、在留カードがあるのに住民票などを要求する場合）を要求する専門学校や大学については、積極的な進学指導対象の学校から外しています。
- ・昨年度の進学は、1. 経済/経営/ビジネス、2. 進学コース、3. IT/コンピュータ、4. 観光/ホテル のような順で多かったです。以下、流通、自動車整備、介護などがありました。進路指導で大変なことは、将来のことがまだ漠然としている学生への指導や、入試前の面接指導などです。
- ・就職に関しては、母国で大卒の場合、「技人国」での就職を目指し、ホテル、販売、建築関係へ就職、また、高卒（一部大卒を含む）の場合、「特定技能」で「外食」「飲食料品製造」での就職が多い、一部「介護」分野もいる。
- ・技人国の場合、日本語能力と就職活動、日本の大学・専門学校を卒業する場合、就職活動等を入学当初から意識できるが、大卒で日本語学校の在籍者は、まず日本語能力を上げる必要があり、進路決定が遅くなる。特定技能の場合、特定技能試験の申込枠が少なく抽選で外れると就職活動が遅れる。
- ・【就職】貿易会社、ホテル（※担当者より、大変なことは特にないと回答を得ております）
【進学】
◎専門学校 95%
①IT ②自動車整備 ③ビジネス（国際、観光、ITなど） ④ホテル、観光 ⑤介護
◎大学 5%
①経営、経済、データサイエンス ②語学（英米学部など） ③観光系、工学系
進学に関しては、学生によって動くスピードが異なるので、困っています。また、関東の日本語学校は動き出すスピードが早く、関東圏は関東圏での繋がりもあり、関西から関東の生の情報を得ることが困難なケースもあります。加えて、九州なども情報が少なく、進学指導の際に学校のレベルがわからず学生を受験させてしまうこともあります。学校によっては新しいコースを開設していたりもしますが、そういう情報を得ることも、地方の情報は進学をメインに担当する者がいない学校は出遅れるように思います。
- ・専門学校が一番多い、自動車、IT関連、ビジネス・ホテル関係など。

- ・進学先としてはビジネス・IT・コンピュータ系・自動車整備・介護・CG/ゲームなど、就職等は主に外食・宿泊・観光

= 要点の整理 =

■ 進学先の傾向

ネパールの学生を含む非漢字圏の学生は専門学校への進学が中心で、中国籍の学生は大学進学が多い。昨年度の進学先としては、経済・経営・ビジネス、進学コース、IT・コンピュータ、観光・ホテルが多く、次いで流通、自動車整備、介護などが続く。

■ 進学決定の難しさ

学生が進学先を決めることが難しく、進学フェアに参加させることで情報提供を行っているが、日本語力不足で完全に理解するのが難しい。提出書類の整理や記入に時間がかかり、誤記入が多い。

■ 進学の情報収集の課題

進学先の情報を得るのが難しく、関東圏の日本語学校は動きが早いため、関西や九州からの情報収集が困難。学校によっては新しいコースが開設されても、地方の情報が不足し、進学指導が適切に行えないケースがある。

- 10) 最後に文部科学省の認定校(※認定日本語教育機関制度)になるための取り組みについてお聞きします。認定校となるために大変なことはございますか。

- ・現時点で参考枠に沿ったカリキュラムを採用していないので、全面的な変更をしなければならず、それが大変です。変更したカリキュラムについても常勤、非常勤講師への説明、実際に運用してフィードバックをとつてからの改変なども時間と手間がかかると予想しています。
- ・認定校の申請の準備はこれからです。目標が進学の場合すべてのクラスをB2レベルまで引き上げるカリキュラムを作らなければならず、その点が特に大変だうと思っています。
- ・また、移行期間中に教員の方に認定日本語教員の登録をしていただけなければなりません。書類が煩雑で、今まで（法務省）と違った角度で、学校理念からカリキュラム、教育体制まで見られるので、教務と事務系のすり合わせが必要な点も一仕事です。
- ・弊校は進学コースですが、特にカリキュラム（各科目のゴール）、評価が難しいと感じています。これまでの日本語学校でもCan-doを意識してカリキュラムを組んでいる学校がほとんどだと思いますが、文科省の求めているものが、日本の大学や小中高と同じような、主体的、自立的な学習を求めているのであれば、それはすでに日本語をある程度習得している上級の学生に当てはまるのであって、そもそも同様の主体性を日本語を操れない初級の学生に求められることの難しさを感じずにはいられません。現行のカリキュラムであっても、一つの文型を学べばどんなことができる、どんな場面で使える、といった、言葉を借りれば「Can-do」目線で導入していますが、各科目に同じように当て嵌めて考えることは、科目ごとが密接に

関係している日本語教育の場合、独立してそれぞれのゴールや目的を明文化することはとても難しいと感じています。

また、文科省が考えるような評価方法を、どのように組み込み、実践すればいいのか頭を悩ませている学校は多いです。弊校も同じです。近年、大学などをはじめとした日本の教育機関すでに取り組まれている「主体性・自主性を育み評価する」。その実践例をもっと発信してもらえれば、現場で試行錯誤する良い教材になると思います。

・具体的な準備は着手できていないのが現状で、2年後（2026年度）あたりに手を挙げる予定。現在は、準備のための準備といった下準備をしているところ。設置するコース、どのような課程、学習、シーンの作り込みは大変を感じている。日本語教員資格について専任教員は一人ずつ確認している。非常勤については不明であるが、取得する者が多いと考えている。

※認定日本語教育機関認定基準（令和5年文部科学省令第40号。以下「認定基準」という。）第2条に規定するとおり、認定日本語教育機関には「留学のための課程」、「就労のための課程」、「生活のための課程」の3分野の日本語教育課程があり、分野別に課程の審査を行った上で、機関について認定を行う。

=要点の整理=

■カリキュラムの全面的な変更

現在、参考枠に沿ったカリキュラムを採用しておらず、全面的な変更が必要。新しいカリキュラムの説明や運用、フィードバックを得てからの改変に時間と手間がかかると予想される。

進学を目指すためには、すべてのクラスをB2レベルまで引き上げるカリキュラムを作成する必要があり、特にこの点が課題とされている。

■認定日本語教員の登録

移行期間中に教員が認定日本語教員の登録を行う必要があり、書類作成が煩雑である。学校理念からカリキュラム、教育体制まで法務省とは異なる視点で評価されるため、教務と事務系のすり合わせが重要。

■評価方法の難しさ

特にカリキュラムのゴールや評価についての明文化が難しいと感じている。文科省が求める主体的・自立的な学習が初級の学生に適用されることに疑問を持っている。

■準備の現状

現在は具体的な準備に着手していないが、2026年度に認定校としての申請を予定している。準備のための下準備を進めている段階。

【考察】

留学生の受け入れるには、留学生が希望する進路を見つけやすいサポート体制を整えることが必要である。日常生活に関する支援も重要であり、生活指導や地域の情報提供を強化することで、留学生が安心して生活できる環境を提供できるようにする。

次に、多様な募集チャネルを活用し、卒業生ネットワークを強化することで、より多くの留学生を受け入れる体制を整える。学習スケジュールの改善には、カリキュラムの柔軟性や実践的なコミュニケーション

ン能力の強化が求められると同時に、日本事情やビジネス教育を強化し、異文化体験やキャリア支援を充実させることも大切なことである。

学費の支払い状況を改善するためには、資金計画の強化や分納制度の周知が必要で、定期的なフォローアップにより、問題を早期発見できる体制を整えることは重要である。

出席管理や生活指導を強化し、学生の自主性を尊重しながら適切なサポートを提供しながら進学指導の体系化や日本語力向上の支援を行い、進学先との連携を強化していくことで、留学生が自分に合った進路を選べるように、安心して学び、充実した日常生活を送る環境を整えることが求められる。

④海外現地日本語学校ヒアリング項目と回答

1) 留学先として日本への興味状況についてお聞きします。留学生にとって日本はどのように魅力的に映っていますか。また、学びたい分野や業種はどのようなところが人気ですか。

- ・(スリランカ) 最近は日本に留学したいという学生はたくさんあります。日本とスリランカの関係も良くて日本に行けば就職先がたくさんあるという話がよく聞きます。IT系は非常に興味を持っています。
- ・(スリランカ) スリランカでは日本に留学及び特定技能(SSW)の希望者が毎日増えています。日本はアジアの経済大国です。日本に行けば自分も家族も豊かにできると思っているスリランカ人は多くあります。留学生はホテルやITの仕事は興味が持っています。
- ・(スリランカ) 安全・安心、優れた医療体制、本の文化、歴史、自然工学、報技術、医学、護のところが人気あります。
- ・(ネパール) 日本は高品質な教育、先進技術、文化の魅力でネパール人留学生に人気です。特にIT、エンジニアリング、ビジネス分野が人気で、就職を目指す学生も多いです。
- ・(ミャンマー) 日本は世界中で技術が進歩し、基本賃金が上昇することなど。
- ・(ミャンマー) 勉強したい事ができる。情報技術（IT）や自動車に関する技術

= 要点の整理 =

■留学希望者の増加

日本に留学したい学生が増えており、特にIT系への関心が高い。特にIT、エンジニアリング、ビジネス分野が人気で、留学生は就職を目指している。

■日本とスリランカの関係

両国の良好な関係が就職機会の増加につながっている。

■魅力的な要因

安全・安心な環境、優れた医療体制、文化・歴史・自然、高品質な教育と先進技術。

■経済的な期待

日本の学びが家族や自身の豊かさにつながるという信念。

2) 近年、日本へ留学する学生数はどのような状況でしょうか。

- ・（スリランカ）毎年増えています。当校は最近、日本語能力試験以外にNAT試験等もありますので、進学の機会が増えています。
- ・（スリランカ）交付率も良くなっていますので、当校では年間150人ぐらい留学の機会を与えています。
- ・（スリランカ）日本へ留学する学生数はだんだん増えています。入学するたびに生徒の成長が増します。
- ・（ネパール）近年、日本へ留学する学生数は増加傾向にあり、特にネパール、中国、ベトナムなどの国からの学生が多いです。しかし、コロナ禍の影響で一時的に減少しましたが、現在は回復しつつあります。
- ・（ミャンマー）国の調子がどんどん悪くなってくるので、海外へ行って留学や働きたい人が増えてきた。
- ・（ミャンマー）年々増えている。

=要点の整理=

■留学希望者の増加

毎年、日本へ留学する学生が増えており、特にネパール、中国、ベトナムからの学生が目立つ。日本語能力試験に加え、NAT試験などの選択肢が増え、進学の機会が広がっている。

■交付率の改善

学校の交付率が向上しており、年間約150人の留学機会を提供している。

■コロナ禍からの回復

コロナ禍の影響で一時的に減少したが、現在は留学希望者が回復しつつある。

■経済状況の影響

自国の経済状況悪化に伴い、海外留学や就職を希望する人が増加している。

3) 留学先希望の国はどこがが多いでしょうか。

- ・（スリランカ）イギリス、日本、マレーシア。
- ・（スリランカ）日本、オーストラリア。
- ・（スリランカ）現在のデータによると、留学先に最も多く選ばれる国は、アメリカ、イギリス、ニュージーランド、カナダ、オーストラリア、ドイツです。また、フランス、スペイン、日本、イタリアも主な留学先として挙げられる人が多くいます。
- ・（ネパール）留学先として人気の国は、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、日本などです。特に日本は学費が比較的安く、奨学金制度も充実しているため、アジア圏の学生に人気があります。
- ・（ミャンマー）アメリカ、日本、タイ、韓国など。
- ・（ミャンマー）日本。

= 要点の整理 =

■ 人気の留学先

留学先として最も選ばれる国には、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、日本、ニュージーランド、ドイツなどがある。フランス、スペイン、イタリアなども留学先として人気があり、特に文化や言語を学ぶ学生に選ばれている。

■ アジア圏の選択

日本、タイ、韓国など、アジア圏の国々も留学先として注目されている。

■ 日本の魅力

学費が比較的安価である。奨学金制度が充実しており、アジア圏の学生にとって魅力的な選択肢。

4) 日本に留学する目的はどのような考えをもった学生が多いですか。

- ・ (スリランカ) 日本語学校は一番多く、専門学校に行き、早く就職探したいという学生は最近多くています。
- ・ (スリランカ) 最初に日本語学校、卒業後専門学校に行きたいという学生が多い。
- ・ (スリランカ) 学生たちは日本の伝統、歴史、ライフスタイルを直接体験することに魅力を感じています。日本は常に世界で最も安全な国の一としてランク付けされています。日本は優れたインフラと公共交通機関を備え、高い生活水準を提供しています。
- ・ (ネパール) 日本に留学する学生は、日本語を学びたい、日本企業で働きたい、日本の技術や文化を学びたいという目的を持つことが多いです。特に I T やエンジニアリング分野で専門知識を身につけ、将来のキャリアに活かしたいと考える学生が増えています。
- ・ (ミャンマー) 日本でちゃんと勉強して働きたい人が多い。
- ・ (ミャンマー) 就職のため。

= 要点の整理 =

■ 日本語学校から専門学校へ

学生の多くは日本語学校を経て、専門学校に進学し、早期に就職を目指している。

■ 文化体験の魅力

日本の伝統や歴史、ライフスタイルを直接体験することに魅力を感じている。

日本は安全な国であり、優れたインフラと高い生活水準を提供している。

■ 就職希望

日本での勉強を通じて、将来のキャリアに役立てたいと考える学生が多い。日本語を学びたい、日本企業で働きたい、日本の技術や文化を学びたいという明確な目的を持つ学生が多い。特に I T やエンジニアリング分野での専門知識を身につけたいと考える学生が増加している。

5) 募集方法について、学生募集はどのような方法で行っていますか。また、その中で日本の紹介はどのようにしていますか。

- ・ (スリランカ) クチコミ、卒業生の紹介、F A C E B O O K 等の宣伝です。日本の紹介

はみんなの日本語教科書を参考しながら、勉強を進めています。日本の紹介はY o u t u b e や動画を使用します。

- ・（スリランカ） F A C E B O O K 、新聞広告、等の宣伝です。日本の紹介はY o u t u b e や日本学校の情報を使用して教えています。
- ・（スリランカ） 日本は東アジアの島国であり、北海道、本州、四国、九州を主な島とする列島と呼ばれる一連の島々で構成されていると説明し、その独特な文化やおいしい料理（寿司、ラーメン）などを強調するとともに、その技術力と社会の礼儀正しさに対する評判に言及します。
- ・（ネパール） 日本の学校は、オンライン広告、留学エージェント、教育フェア、SNS などを通じて学生を募集しています。日本の教育水準の高さ、安全な生活環境、就職のチャンスなどを強調し、留学先としての魅力を伝えています。
- ・（ミャンマー） 日本は世界でいろいろなイメージがあるし、アニメも若者たちの中人気あるし、特には平和な国ですから。
- ・（ミャンマー） ソーシャルメディアや口コミなど。

= 要点の整理 =

■ 募集方法

クチコミと卒業生の紹介（実際の体験を基にした信頼性の高い情報源）。

SNS とオンライン広告（Facebook や YouTube を活用した宣伝が行われている）。

新聞広告や教育フェア（伝統的なメディアも使用して広報活動を行っている）。

留学エージェント（専門のエージェントを通じた情報提供）。

■ 若者向けのアプローチ

アニメや日本のポップカルチャーを通じて若者にアプローチ。日本の平和なイメージを強調することで、安心感を提供。

■ 日本の紹介

地理と文化（日本は東アジアに位置し、四つの主要な島から成る国であることを説明）。料理の魅力（寿司やラーメンなどの日本食を強調）。社会の特徴（技術力や礼儀正しさ、安全な生活環境について言及）。教育水準（高い教育水準や就職のチャンスを強調し、留学先としての魅力を伝える）。

6) 学習スケジュールについてお聞きします。どのような内容でどれほどの時間をかけて行っていますか。

概要でかまいません。

- ・（スリランカ） 基本的には320時間コースです。一ヶ月8回週末の授業です。
- ・（スリランカ） 基本的には180時間コースです。一ヶ月4回の授業です。
- ・（スリランカ） 初心者の典型的な日本語学習スケジュールは、通常、ひらがな、カタカナ、基本的な語彙などの基礎を学習するために週に約2~4時間費やすことであり、継続的な練習により、習得するには約3~6か月かかります。ただし、流暢に話せるようになるに

は、文法、漢字、会話の練習など、さらに多くの時間と熱心な学習が必要です。

- ・（ネパール）日本語学校では、1日4～6時間の授業があり、日本語能力試験（J L P T）対策、会話練習、作文、文法学習などが行われます。大学や専門学校では、専門科目と日本語学習を組み合わせたカリキュラムが組まれています。
- ・（ミャンマー）学習は週4回で1日1時間半ぐらいです。
- ・（ミャンマー）N5コースもN4コースも週5回で1回2時間で3か月（約120時間）、N3コースは週5回で1回2時間で4か月（約160時間）

= 要点の整理 =

■コース概要

320時間コース：一ヶ月に8回の週末授業。

180時間コース：一ヶ月に4回の授業。

N5およびN4コース：週5回、1回2時間で3か月（約120時間）。

N3コース：週5回、1回2時間で4か月（約160時間）。

■学習頻度と時間

初心者向けスケジュール：ひらがな、カタカナ、基本語彙を学ぶために週2～4時間、習得には約3～6か月かかる。

授業内容：1日4～6時間の授業で、J L P T対策、会話練習、作文、文法学習が行われる。

週4回で1日1時間半の授業。

Nコースは週5回の授業を提供。

7) 学習内容についてお聞きします。日本語検定取得を中心で行われていますか。授業以外の日常的なことも盛り込んで教えていますか。

- ・（スリランカ）J L P T試験やN A T試験5級を目指しています。日本語会話練習もしています。
- ・（スリランカ）はい、J L P T試験やN A T試験5級を目指しています。日本から先生をスリランカに来てもらって体験授業も行っています。
- ・（スリランカ）日本語のカリキュラムには日本語能力試験（J L P T）の準備が組み込まれている場合もありますが、通常はもっと幅広い内容に重点が置かれており、試験特有のスキルだけでなく、日本の日常生活で必要な実用的な知識や語彙も含まれ、生徒が現実の世界で効果的にコミュニケーションをとれるようにしています。
- ・（ネパール）日本語の学習は、日本語能力試験（J L P T）取得を中心に進められますが、日常会話やビジネスマナー、日本文化なども授業に取り入れられています。特に、日本での生活や仕事に役立つ実践的な日本語も重視されています。
- ・（ミャンマー）日本語の能力試験J L P TとN e t t e s tを受けるために、みんな頑

張っています。

- ・(ミャンマー) 日本語検定取得が中心ですが、日常的なことも盛り込んで教えています。

= 要点の整理 =

■カリキュラム内容

J L P Tの準備が組み込まれているが、幅広い内容に重点を置いている。実用的な知識や語彙を含め、日常生活で必要なスキルを重視している。

■実践的な日本語

日常会話やビジネスマナー、日本文化も授業に取り入れられている。日本での生活や仕事に役立つ実践的な日本語が重視されている。

■学習環境

日本語検定取得を中心に、日常的な会話も教えられている。

8) 留学を考えている学生の学費の支払いは問題ありませんか。

- ・(スリランカ) 大丈夫です。学費を払える学生を選んでいます。
- ・(スリランカ) 大丈夫です。銀行ローン等で払っている子もおります。
- ・(スリランカ) そのような問題はありません。すべての生徒は時間通りに支払われます。そのため、私たちは生徒に非常に厳格な支払い方法を紹介しています。
- ・(ネパール) 学費自体は大きな問題ではありませんが、日本とネパールでは時間やカレンダーが異なるため、ネパールから親が支払う場合、送金の遅れが問題になることがあります。また、多くのネパール人学生は一定の年齢になると親からお金をもらわないという考え方を持っているため、自分で努力して 学費を払おうとし、その過程で困難に直面することがあります。
- ・(ミャンマー) 現在の政治情勢により、日本円両替するのは大変です。
- ・(ミャンマー) はい。問題ありません。

= 要点の整理 =

■全体的な支払い状況

学費自体は大きな問題ではなく、時間通りに支払われるケースが多い。学費を支払える学生を選定している。銀行ローンなどをを利用して学費を払う学生もいる。

■支払いの厳格さ

学校は生徒に対して厳格な支払い方法を紹介し、時間通りの支払いを促している。

■送金の遅れ

日本語検定取得を中心に、日常的な会話も教えられている。日本とネパールでは時間やカレンダーが異なるため、親が送金する場合に遅れが生じることがある。

多くのネパール人学生は一定年齢になると親からの支援を受けず、自分で学費を払おうとする傾向があるため、困難に直面することがある。

■両替の難しさ

現在の政治情勢により、日本円の両替が難しくなっている。

9) 日本にある日本語学校との連携状況はどのようなスタイルをとっていますか。

- ・(スリランカ) 直接電話、メールや第三者の紹介等により連携です。
- ・(スリランカ) 親戚は日本に就職しているので基本的には彼を通じて日本語学校との連携や学生トラブルの解決を行っております。
- ・(スリランカ) 日本の日本語学校との連携では、通常、教師中心のアプローチが採用され、構造化された学習、詳細なカリキュラム、頻繁な評価が重視され、暗記と練習問題に重点が置かれることが多い一方、文化体験活動やネイティブスピーカーとの交流の機会も取り入れられます。連携には、学生に現実世界の学習体験を提供するために、地元の企業、大学、文化団体とのパートナーシップが含まれることもあります。
- ・(ネパール) 日本にある日本語学校と密接に連携し、学生がスムーズに留学できるようサポートしています。具体的には、日本語能力試験（JLPT）対策、日本の生活習慣や文化の指導、進学相談、ビザ申請のサポートなどを行っています。また、日本の日本語学校とも定期的に情報交換を行い、最新の入学条件や奨学金制度について学生に正確な情報を提供できるよう努めています。
- ・(ミャンマー) ありません。
- ・(ミャンマー) 家庭教師なので、留学の希望がある学生には日本にある日本語学校との連携がある送り出し機関などにしょうかいするスタイルをとっています。

=要点の整理=

■連携方法

親戚が日本に就職しているため、彼を通じて日本語学校との連携やトラブル解決を行っている。日本の日本語学校との定期的な情報交換を行い、最新の入学条件や奨学金制度について正確な情報を提供している。直接電話、メール、第三者の紹介を通じて連携を行っている。留学希望の学生には、日本にある日本語学校との連携がある送り出し機関を紹介するスタイルを取っている。

■サポート体制

日本にある日本語学校と密接に連携し、学生がスムーズに留学できるようサポートしています。具体的には、日本語能力試験（JLPT）対策、日本の生活習慣や文化の指導、進学相談、ビザ申請のサポートなどを行っている。

■教育の質からのアプローチ

教師中心のアプローチが採用され、構造化された学習や詳細なカリキュラムや頻繁な評価が行われ、暗記と練習問題が重視されていることに対応している。

【考察】

日本への留学希望者が増加しているこの背景には、日本への進学と就職の機会が広がっているころ

が見受けられる。日本の魅力には、安全な環境、優れた医療体制、豊かな文化、高品質な教育もある。また、現地日本語学校の学費の支払いについては、経済的に余裕がある、もしくは借りられる比較的裕福な環境で育っている学生が多いことが分かる。

ただし、日本語教育面においては、想定していた通りの日本語能力試験（JLPT）を中心になっている状況である。日本に留学するには、N5以上の日本語能力の資格取得が必要であるが、それとともに、日本の日常生活における様々なシチュエーションを感じながら日本語で会話できる能力を身に付ける授業や環境が見受けられない。留学生が留学する前に母国の中である程度日本語で会話ができる補完する教材が必要と考えられる。

2. シラバス・コマシラバス

①自動車整備系専門学校編

・授業時間：90分／コマ×4コマ 6時間

・各コマの内容：自動車整備に関する内容

1コマ	– 自動車整備士資格取得に向けた専門用語 – ①漢字表記の自動車部品 ②「適切な」「不適切な」などの日本語特有の言い回し言葉の理解 ③加減乗除 等
2コマ	– 専門学校の学習環境で使用される日本語 – ①工具のいろいろな名前（呼び方） ②和製英語 等
3コマ	– 自動車整備士に必要な計算の基礎 – ①四則計算 ②トルク・駆動力の計算 ③電圧、電流、抵抗力の計算 等
4コマ	– 自動車整備業界で必要な日本語 – ①ビジネスマナーの基礎 ②接客用語 ③整備士が使う日本語 ④電話や窓口での聞き方や言葉の選び方 等

②日本語学校編

・授業時間：45分／コマ×4コマ 3時間

・コマの内容：日本での生活と自動車

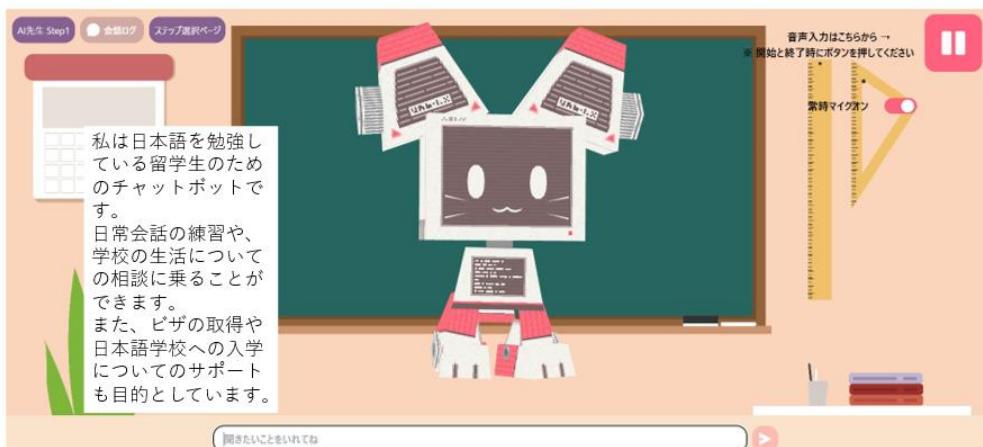
1コマ	– 移動に関する事 – ①駅やバス停などにおいて必要な知識 ②電車内やバス車内のマナー 等
2コマ	– 買い物、病気に関する事 – ①コンビニやスーパー等における買い物の仕方 ②店舗内でのマナー ③生活のマナー（ゴミの出し方、部屋の清掃、騒音など） 等
3コマ	– 日本の小学校で習う算数・理科 – ①お金の考え方（生活費と授業料についてなど） ②加減乗除 ③分数 ④電気の流れ方（+からーに流れるなど） 等

4コマ	<p>–自動車の基礎–</p> <p>①呼び方が違っても同じものを指すこと（「自動車と車や四輪車」「バイクと二輪車」など） ②簡単な自動車部品の名称（ハンドル、ワイパー、サイドミラーなど） 等</p>
-----	--

3. 対話型音声AIアプリ概要

下記シチュエーションをAIに事前設定し、対話型音声AIアプリの開発を進める。実際に直接音声による吹き込みやテキスト入力によるやり方で学習できるように開発。当校ホームページ上に公開。

■事前に様々なシチュエーションを設定（下記事例）



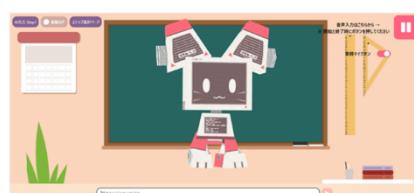
留学生のためのチャットボットは、特に日本に留学している学生向けに設計されています。
以下に、その目的や機能、具体的なサポート内容を詳しく説明します。

1. 会話の練習

- **日本会話のシミュレーション**: 朝の挨拶、学校での友達との会話、授業中のやり取りなど、実際のシチュエーションを基にした日本語会話を練習できます。
- **日本語表現の習得**: 日常生活の中で使う日本語のフレーズや表現を学ぶ機会を提供します。

2. 情報提供

- **ビザ取得のサポート**: 学生ビザの申請手続き、必要書類、申請場所などについての基本的な情報提供します。
- **入学手続きの案内**: 日本語学校への入学方法や必要な手続き、入学試験についての情報を伝えます。 - **生活情報**: 食事の選び方、交通手段の使い方、生活費の目安、日本の文化や慣習についてのアドバイスを行います。



3. 質問への回答

- **個別の悩みや疑問に対応**: 留学生が抱える特有の悩み（寂しさ、文化の違い、学校生活のストレスなど）について解説策を提案することができます。
- **具体的なアドバイス**: 宿題の進め方、友達との関係の築き方、授業内容についてのフォローアップなど、リアルタイムでのサポートを提供します。

4. サポート方法

- **フレンドリーな対応**: 留学生が気軽に質問できるような雰囲気を大切にし、人間らしい応答を目指しています。
- **文化的な insights**: 日本の文化やビジネスマナーなど、日常生活を送る上で重要な情報を共有し、よりスマートな生活をサポートします。

5. 対象となる留学生

- **日本に新しく来た留学生**: 新しい環境に慣れる手助けをします。
- **日本語の上達を目指す学生**: 実際の会話を通じて、日本語を上達させるための練習相手になります。
- **日本での生活に不安を抱える学生**: 生活全般に関する助言や情報を提供し、不安を軽減します。

このように、留学生のためのチャットボットは、様々なシーンで役立つ存在です。留学生が日本でより良い生活を送り、学校での勉強を充実させるためにサポートしますので、何か質問や相談があれば遠慮なくどうぞ！

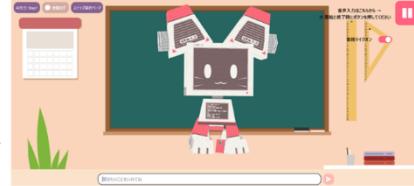
私(AI)は主に以下のことをサポートします。

1. **日常会話の練習:**

日本語の会話を練習したい方に、日常のシチュエーションに合わせた会話相手になります。朝の挨拶や学校の授業、友達との会話などを通じて、自然な日本語を学ぶことができます。

2. **学校生活の相談:**

日本の学校生活についての質問に答えたり、授業や宿題、友達との関係について相談に乗ります。



3. **ビザの取得や学校への入学:**

日本でのビザの取得方法や、日本語学校への入学手続きについての基本的な情報を提供します。

4. **生活のアドバイス:**

日常生活の中での食事、交通手段、天気などに関するアドバイスもできます。日本での生活がより快適になるようサポートします。

… どんなことでも気軽に聞いてくださいね！あなたの質問にできるだけ分かりやすくお答えします。

1. **日常会話の練習:** 日本語の会話を練習したい方に、日常のシチュエーションに合わせた会話相手になります。朝の挨拶や学校の授業、友達との会話などを通じて、自然な日本語を学ぶことができます。

日常シチュエーションの例

1.朝の挨拶**:**

- 留学生: おはようございます！
- 私: おはようございます。今日はいい天気ですね

2. **学校の授業:**

- 留学生: 今日の授業は何を勉強しますか？
- 私: 漢字の勉強です。がんばりましょう！

3. **友達との会話:**

- 留学生: 昨日のドラマ見た？
- 私: 見たよ！とても面白かったね。

4. **お昼ごはんの相談:**

- 留学生: お昼ごはん何食べる？
- 私: 今日はお弁当を持ってきたよ。君は？

5. **授業の合間:**

- 留学生: 次の授業なんだっけ？
- 私: 次は実習だから実習棟に移動だよ！



…これらの会話を通じて、日本語の表現や言い回しを自然に学ぶことができます。

2. **学校生活の相談:** 日本の学校生活についての質問に答えたり、授業や宿題、友達との関係について相談に乗ります。

学校生活に関する相談の例

1. **授業についての相談:**

- 留学生: 今日の数学の授業が難しかったんだけど、みんなできるのかな？
- 私: そうだね、数学は難しいよね。でも、友達に聞いたり、一緒に勉強するといいかも！

2. **宿題の進捗:**

- 留学生: 宿題がたくさんあって、どうしよう…。
- 私: 時間を分けて少しずつやるといいよ。どの宿題が一番先に終わらせたい？

3. **友達との関係:**

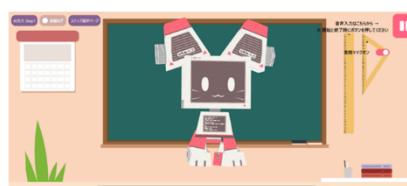
- 留学生: 最近、友達とあまり話せていないんだ。どうすればいい？
- 私: 笑顔で挨拶してみるといいよ。それから、話題を見つけて話しかけてみて！

4. **クラブ活動について:**

- 留学生: クラブ活動に参加したいんだけど、どんなクラブがあるのかな？
- 私: 日本の学校にはいろいろなクラブがあるよ。運動系や文化系など、興味のあるものを探してみてね。

5. **テスト勉強の方法:**

- 留学生: 次のテストの勉強方法が分からなくて困ってるんだ。
- 私: 過去のテストを見たり、友達と一緒に勉強するのが効果的だよ。また、ノートを見返すのもいいね。



…このように、学校生活に関するさまざまな相談に乘ります

3. **ビザの取得や学校への入学**: 日本でのビザの取得方法や、日本語学校への入学手続きについての基本的な情報を提供します。

ビザの取得や日本語学校への入学手続きに関する基本的な情報を以下に示します。

1. **ビザの取得方法**:

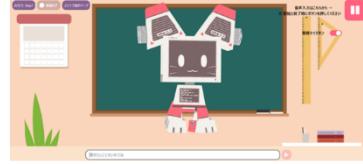
- 留学生: 日本の学生ビザを取得したいんだけど、どうすればいいの？
- 私: まず、入学したい日本語学校を決めて、入学許可証をもらう必要があります。その後、ビザ申請書類を準備して、最寄りの日本大使館や領事館に提出します。

2. **必要な書類**:

- 留学生: ビザの申請にはどんな書類が必要ですか？
- 私: 一般的には、入学許可証、パスポート、財政證明書（学費や生活費を賄えることを示す）、申し込み用紙などが必要です。

3. **日本語学校への入学手続き**:

- 留学生: 日本語学校に申し込みたいけど、手続きは難しいのかな？
- 私: 学校によって手続きが少し違うけど、一般的にはウェブサイトから申し込みフォームを提出して、必要書類を送付する形式が多いです。



4. **入学試験**:

- 留学生: 入学試験はありますか？
- 私: 多くの日本語学校では、入学試験や面接があります。もし、具体的な学校があれば、その学校の詳細を確認してください。

5. **外国人登録**:

- 留学生: 日本に着いたら、何をしなきゃいけないの？
- 私: 日本に住む場合、外国人登録が必要です。一定期間内に市区町村の役所で手続きをしてください。

4. **生活のアドバイス**: 日常生活の中での食事、交通手段、天気などに関するアドバイスもできます。日本の生活がより快適になるようサポートします。

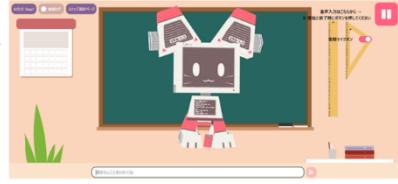
日本の生活に関するアドバイスの例をいくつか挙げます。

1. **食事についてのアドバイス**:

- 留学生: 日本の食事はどうすればいいの？
- 私: 日本にはたくさんの美味しい食べ物がありますよ。和食や寿司、ラーメンなどを試してみてください。食材も新鮮で健康的です！

2. **交通手段**:

- 留学生: 日本ではどの交通手段が便利ですか？
- 私: 電車やバスが便利です。特に都市部では電車が発達していて、移動がスマーズですよ。ICカードを使うと、さらに楽になります。



3. **天気について**:

- 留学生: 日本の天気はどんな感じですか？
- 私: 四季がはっきりしていて、冬は寒く、夏は暑いです。季節に応じた服装や準備が必要です。特に梅雨の時期は雨具を持っておくといいですよ。

4. **生活費の管理**:

- 留学生: 日本での生活費はどのくらいかかりますか？
- 私: 都市によって異なりますが、家賃、食費、交通費などを考慮して、月に15万円から20万円くらい必要と言われています。計画的にお金を使うと良いですよ。

5. **買い物の仕方**:

- 留学生: どこで買い物をすればいいの？
- 私: コンビニやスーパーは便利です。特にコンビニは24時間営業で、軽食や日用品が揃っていて助かります

■事前にシチュエーションを設定することで、下記のような具体的なシチュエーションで会話ができる

①STEP1：初級編（海外の日本語学校学生向け）…

「朝起きてから登校するまで」「学校での生活」「下校から帰宅後、夕食前まで」「夕食から就寝まで」
「日本でのマナーや日本文化」など

②STEP2：中級編（日本国内の日本語学校学生向け）…

「移動のこと」「買い物のこと」「病気の時」「自動車の基礎」「入国後すぐに学ぶ内容」
「アルバイトや役所の手続きのこと」など

③STEP3：上級編（自動車整備系専門学校学生・社会人向け）…

「自動車整備士資格取得に向けた専門用語」「専門学校の学習環境のこと」「自動車整備業界のこと」「基礎自動車工学や各自動車メーカーによる部品名称等の違いのこと」「ビジネスマナー、BtoB、電話や窓口のこと」など

■対話型音声 AI アプリそれぞれの場面の反応例（※中級編と上級編は開発中）

【トップページ】



【レベル選び】

・自分にあったレベルを選びましょう！　ここでは初級編です。



【留学生】

- ・「おはよう」の挨拶



【生成 AI の返事①（言い回しを変えて 2 回返事します。1 回目）】

- ・「おはようございます！ 今日もいい天気ですね。朝ごはんは何を食べる予定ですか？」



【生成 AI の返事②（言い回しを変えて 2 回返事します。2 回目）】

・「おはようございます！今日はどんな予定がありますか？」



【留学生】

・「学校へ何を持っていけばいいですか」



【生成 AI の返事①（言い回しを変えて 2 回返事します。1 回目）】

・「学校には教科書、ノート、筆記用具～もし特別な授業があるなら～」



【生成 AI の返事②（言い回しを変えて 2 回返事します。2 回目）】

・「学校には教科書、ノート、筆記用具～授業によって必要なものが変わるので～」



【留学生】

・「やっとお昼だね」



【生成 AI の返事①（言い回しを変えて2回返事します。1回目）】

・「そうだね！やっとお昼の時間だね。お昼ご飯は何を食べる予定？一緒に食べに行く？」



【生成 AI の返事②（言い回しを変えて 2 回返事します。1 回目）】

・「やっとお昼ですね！お昼ご飯は何を食べますか？一緒に食べるのも楽しそうですね！」



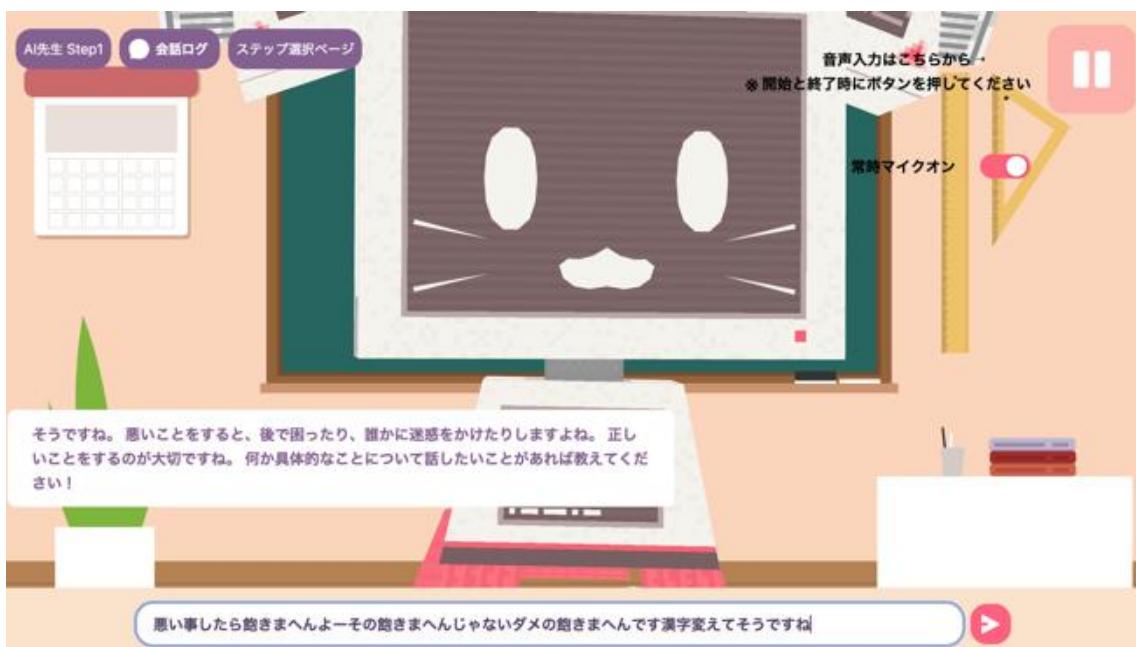
【留学生（関西弁で）】

・「悪い事したらあきまへん」



【生成 AI の返事（普通に返すパターン）】

・「そうですよね。悪いことをすると、後で困ったり、誰かに迷惑をかけたりしますよね。～」



【生成 AI の返事（「あきまへん」を学ぶ）】

・「ああ、そういうことですね。『飽きまへん』って言うのはやってはいけないことだという意味なんですね。～」



【生成 AI の返事（「あかんがなあ」をはどうか）】

- ・「それしたらあかんがなあ」と言うと



【生成 AI の返事（「あかんがなあ」をはどうか）】

- ・「そうですね、それをしたらダメですね！ちゃんとルールやマナーを守る～」言葉の意味を理解して反応！



【生成 AI の返事（「あきまへん」を学ぶ）】

- ・「すみません、わかりました！『それはあきまへんわ』ですね。ひらがなで表現すると、柔らかい～」



【生成 AI の返事（「あきまへん」を学ぶ）】

- ・再度『あきまへん』を入れてみる ひらがなではなかなか出ないので、直接打ち込み



【生成 AI の返事（「あきまへん」を学ぶ）】

- ・「あきまへん！何かダメなことがあったのかな？～」 言葉の意味を理解して反応！



【留学生】

- ・「今日の夕食は何にしようか」



【生成 AI の返事①（言い回しを変えて 2 回返事します。1 回目）】

・「今日の夕食は何が食べたいですか？和食や洋食、何か特別なものがありますか？～」



【生成 AI の返事②（言い回しを変えて 2 回返事します。2 回目）】

・「今日の夕食は何が食べたいですか？おにぎりやカレー、パスタなど色々選べますよ！～」



■仕様書

AIチャットボット使用方法

実際に会話を通じて、リアルなコミュニケーションを体験しながら日本語を上達させることができるAIチャットボットです。
日本での生活、学習、仕事など、様々なシチュエーションや状況での専門用語や日本語の使い分けを学習することができます。

画面をクリックするとメニューが開きます。



STEP 1～3まで選ぶことができます。

※現在はSTEP1のみ使用可能です。



STEP 1

日本語を学び始める留学生に日本で学ぶ上で、重要な要素となる生活習慣として起床してから帰宅までの文化ルールやマナーなど様々なシーンを想定。

STEP 2

日本に留学してから日常生活を送る上で、交通手段や買い物アルバイトに必要なルールやマナー。

また、病院・保険・警察・役所の手続きなど様々なシーンを想定。

STEP 3

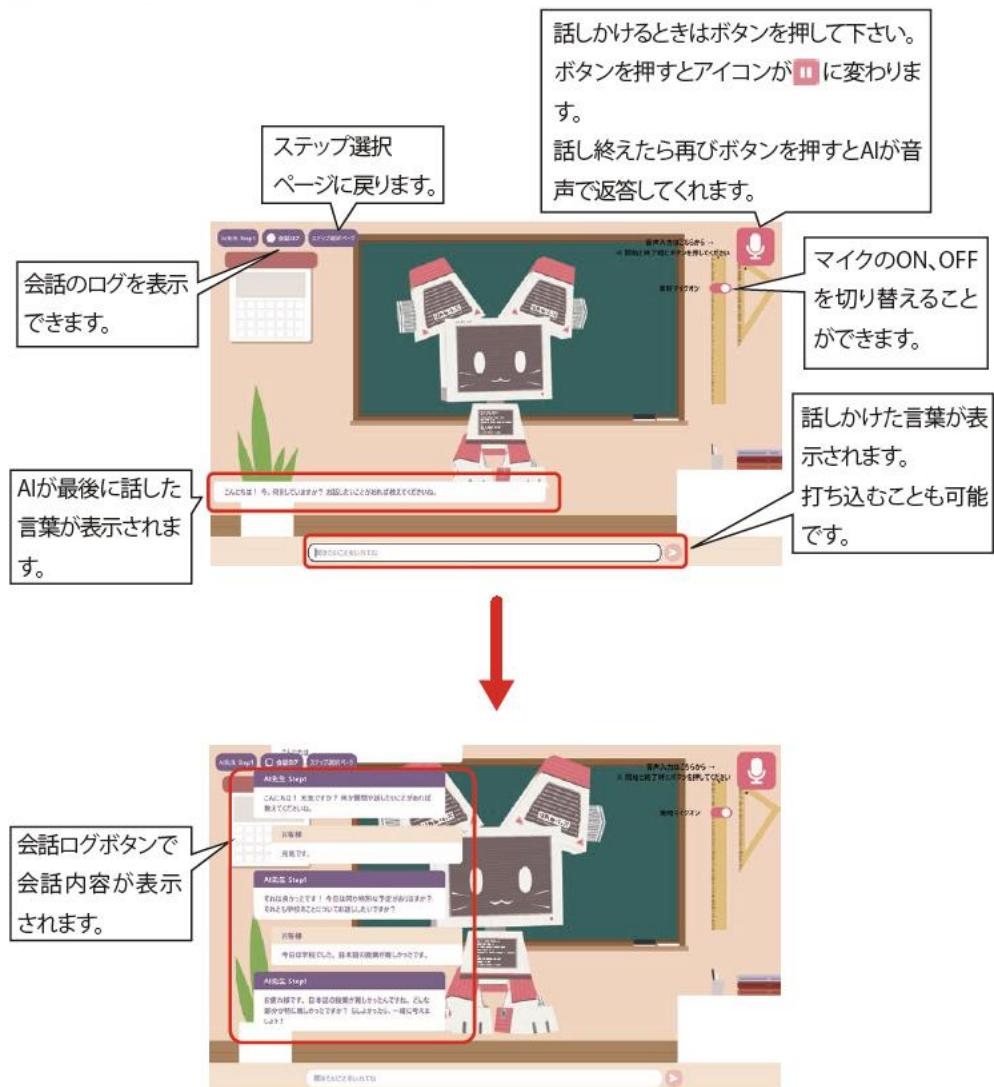
専門学校での学習用語や業界用語、就職希望先での就活・労働契約・雇用保険のこと就職後の定着に向けたコミュニケーションなど様々なシーンを想定して開発します

STEP 1 のAIチャットボットとの会話ページです。

PCのマイク仕様の許可を求められるので許可してください。

AIチャットボットが声を認識してくれます。

文字の打ち込みも可能ですので、お好きな方法で会話できます。



■ MEMO

第3章 まとめ

第3章 まとめ

1. ヒアリング調査（企業、専門学校、日本語学校）

（1）実施目的と実施期間

【目的】より多くの留学生を受け入れる環境を作り出すため、送り出し国や現地が考へている日本語能力をはじめ、受け入れるために必要な日本語レベルを持って入学している学生はどの程度の割合や入学後の日本語レベルが足りない学生の対応、最低限望む日本語能力レベル、基礎的な専門用語の習得、受け入れ環境（学内環境の課題、日本語学校とのやり取りに関する課題）といったそれぞれの機関が捉えている日本語能力の入学レベルに関する現況調査

【実施期間】令和6年1月14日～令和7年2月6日

（2）実施手法と件数

- ・オンライン、直接訪問 等
- ・自動車整備関連企業 7社、自動車整備系専門学校 5校、日本国内日本語学校 5校、海外日本語学校 6校 計 23 件

（3）ヒアリング結果から導き出した考察

①自動車整備関係企業

外国籍人材の採用において、日本語のコミュニケーション能力を重視し、資格だけに頼らず実際の能力を評価する体制を整えることが重要である。

人材募集面においては、専門学校との連携を強化し、募集活動をダイバーシティ推進といった多様化することで、企業文化の発展を心掛けることで優秀な人材を確保できる可能性が高まる。

また、研修プログラムを魅力的にすることで、参加者が積極的に学び合い、成長できる環境を提供することが企業全体の発展に寄与する。

さらに、現在のサポート体制を継続的に強化し、コミュニティー形成や文化理解を促進することで、外国人労働者が安心して働く職場環境を整えることが重要である。

一方、技能実習生の受け入れ体制には入管とのコミュニケーションや手続きの複雑さといった課題があり、情報の共有や手続きの簡素化が求められている。このことにより、企業運営がスムーズになり、外国籍社員の定着率向上が期待される。

②自動車整備系専門学校

留学生の受け入れ状況を改善するためには、教育とサポートの強化が急務であるとともに、自動車分野への興味を高める施策を講じ、留学生が充実した経験を得られる環境を整えることが重要である。海外と国内の日本語学校との連携を強化し、学費や地域差の課題に対処することで、より多くの留学生を受け入れられるようにし、多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れることで、学校の国際性と教育の質を向上させることが期待される。

また、留学生の経済的課題を解決するためには、企業奨学金の導入や支払いルールの見直しが必須で検討していく必要があると同時に、独自の教育プログラムや生活指導を強化し、文化理解

を深めることで、留学生の適応を支援していく環境整備を行う。

一方では、日本語検定資格と実際のコミュニケーション能力のギャップを埋めるために、実践的な教育プログラムの導入が重要である。そのためには、企業との連携をさらに強化なものにし、個別指導を充実させることで、就職活動を成功に導く環境を整える必要がある。

さらに、企業奨学金制度の強化や給与体系、企業のキャリア形成の在り方などを発信することで、留学生の就職先の定着状況改善に導く。そのためには、定期的なデータ収集と分析を行い、具体的な課題を把握し、卒業生同士の交流を促進することで、離職を防ぐ環境を整えることも考えられる。

③日本国内日本語学校

留学生の受け入れるには、留学生が希望する進路を見つけやすいサポート体制を整えることが必要である。日常生活に関する支援も重要であり、生活指導や地域の情報提供を強化することで、留学生が安心して生活できる環境を提供できるようにする。

次に、多様な募集チャネルを活用し、卒業生ネットワークを強化することで、より多くの留学生を受け入れる体制を整える。学習スケジュールの改善には、カリキュラムの柔軟性や実践的なコミュニケーション能力の強化が求められると同時に、日本事情やビジネス教育を強化し、異文化体験やキャリア支援を充実させることも大切なことである。

学費の支払い状況を改善するためには、資金計画の強化や分納制度の周知が必要で、定期的なフォローアップにより、問題を早期発見できる体制を整えることは重要である。

出席管理や生活指導を強化し、学生の自主性を尊重しながら適切なサポートを提供しながら進学指導の体系化や日本語力向上の支援を行い、進学先との連携を強化していくことで、留学生が自分に合った進路を選べるように、安心して学び、充実した日常生活を送る環境を整えることが求められる。

④海外現地日本語学校（ターゲット国（地域）：ミャンマー、ネパール、スリランカ）

日本への留学希望者が増加しているこの背景には、日本への進学と就職の機会が広がっていることが見受けられる。日本の魅力には、安全な環境、優れた医療体制、豊かな文化、高品質な教育もある。また、現地日本語学校の学費の支払いについては、経済的に余裕がある、もしくは借りられる比較的裕福な環境で育っている学生が多いことが分かる。

ただし、日本語教育面においては、想定していた通りの日本語能力試験（JLPT）を中心になっている状況である。日本に留学するには、N5以上の日本語能力の資格取得が必要であるが、それとともに、日本の日常生活における様々なシチュエーションを感じながら日本語で会話できる能力を身に付ける授業や環境が見受けられない。留学生が留学する前に母国の中である程度日本語で会話ができる補完する教材が必要と考えられる。

（4）ヒアリング結果から

留学生の日本語能力に関して、自動車整備企業と自動車整備系専門学校の捉え方は、日本語能力試験（JLPT）で取得した資格ランクとの乖離があることが分かった。もちろん、能力以上を持ち合わせた留学生も多く存在する。この調査で明確にできたことは、日本語能力試験（JLPT）は、

あくまで参考でしかないことという結果であった。

また、留学生の日本語での会話力と書く力の指導が足りていない状況でもあった。本事業で開発するアプリは、様々なシチュエーションを事前にA Iにセッティングすることにより、アプリとの会話がよりスムーズにできるよう開発を進めている。

そのため、開発を進めている対話型音声A Iアプリは、留学生にとって日本に来るまでに日本語を勉強はしているが、たくさん話す会話のキャッチボール、壁打ちの機会が少ない今の状況を開拓する可能がある。日本の環境や文化を想定した様々なシチュエーションに対しての日本語の会話力を身に付ける効果が生まれると考えられる。

一方、自動車整備系専門学校においては、生活面、法律をはじめとするルール、学費の支払いなどのサポート体制の環境整備強化を図る必要がある。特に、近隣トラブルにならないルールの理解やお金に関する事をしっかりと身に付ける必要がある。日本語学校や専門学校がその役割を担い、社会人として送り出すことが求められる。

企業では、給与面や昇給・昇格のチャンス、研修などは、日本人の正社員と同じ扱いをする環境整備はヒアリング協力をいただいた企業は整っていた。仕事の定着率に寄与する取組を行っている。このような能力を評価する体制・環境整備を継続してもらいたい。ただし、入管とのコミュニケーションなど地域に違いがあることから、情報共有などの取り組みが必要である。

2. 対話型音声A Iアプリ制作の方向

本事業で開発する対話型音声A Iアプリは、日本語能力試験（J L P T）の資格取得に沿ったものではなく、外国人留学生が日本で日常生活を送ることに困らない日本語能力を身に付けることを補完する教材開発である。様々なシチュエーションに対してそれにあてはまる適当な日本語を選び、会話ができる部分を埋めるものである。そのため、令和6年度では、そのシチュエーションをコマシラバス化して骨子案を作成し、その方向で対話型音声A Iアプリを開発する。

（1）コマシラバス骨子案

①自動車整備系専門学校編

・授業時間：90分／コマ×4コマ 6時間

・各コマの内容：自動車整備に関する内容

1コマ	– 自動車整備士資格取得に向けた専門用語 – ①漢字表記の自動車部品 ②「適切な」「不適切な」などの日本語特有の言い回し言葉の理解 ③加減乗除 等
2コマ	– 専門学校の学習環境で使用される日本語 – ①工具のいろいろな名前（呼び方） ②和製英語 等
3コマ	– 自動車整備士に必要な計算の基礎 – ①四則計算 ②トルク・駆動力の計算 ③電圧、電流、抵抗力の計算 等
4コマ	– 自動車整備業界で必要な日本語 –

	①ビジネスマナーの基礎 ②接客用語 ③整備士が使う日本語 ④電話や窓口での聞き方や言葉の選び方 等
--	---

②日本語学校編

・授業時間：45分／コマ×4コマ 3時間

・コマの内容：日本での生活と自動車

1コマ	– 移動に関する事 – ①駅やバス停などにおいて必要な知識 ②電車内やバス車内のマナー 等
2コマ	– 買い物、病気に関する事 – ①コンビニやスーパー等における買い物の仕方 ②店舗内でのマナー ③生活のマナー（ゴミの出し方、部屋の清掃、騒音など） 等
3コマ	– 日本の小学校で習う算数・理科 – ①お金の考え方（生活費と授業料についてなど） ②加減乗除 ③分数 ④電気の流れ方（+からーに流れるなど） 等
4コマ	– 自動車の基礎 – ①呼び方が違っても同じものを指すこと（「自動車と車や四輪車」「バイクと二輪車」など） ②簡単な自動車部品の名称（ハンドル、ワイパー、サイドミラーなど） 等

（2）対話型音声AIアプリ開発（デモ版）

下記シチュエーションをAIに事前設定し、対話型音声AIアプリの開発を進める。実際に直接音声による吹き込みやテキスト入力によるやり方で学習できるように開発。当校ホームページ上に公開。

①STEP1：初級編（海外の日本語学校学生向け）…

「朝起きてから登校するまで」「学校での生活」「下校から帰宅後、夕食前まで」「夕食から就寝まで」「日本でのマナーや日本文化」など

②STEP2：中級編（日本国内の日本語学校学生向け）…

「移動に関する事」「買い物に関する事」「病気の時」「自動車の基礎」「入国後すぐに学ぶ内容」「アルバイトや役所の手続きのこと」など

③STEP3：上級編（自動車整備系専門学校学生・社会人向け）…

「自動車整備士資格取得に向けた専門用語」「専門学校の学習環境のこと」「自動車整備業界のこと」「基礎自動車工学や各自動車メーカーによる部品名称等の違いのこと」「ビジネスマナー、BtoB、電話や窓口に関する事」など

3. 考察

海外現地日本語学校、日本国内日本語学校、自動車整備系専門学校、自動車関連企業をヒアリングし、現状と環境についてヒアリング調査を行った。海外現地日本語学校、日本国内日本語学校、

自動車整備系専門学校では、各々留学生への生活面指導や教育はしているものの、日本語能力が日本語能力試験（J L P T）資格取得レベルにとどいていないなど、資格レベルと実際のレベルの乖離が浮き彫りとなっている。それぞれの課題をクリアする環境整備が整ってはいない状況であると考えられる。留学生が職業に定着しているのは企業環境整備が整っているところがある。

その打開策の一つとして、留学生が本事業で開発する対話型音声A I アプリを活用することで、しっかりと日本語での会話力を武器として身に付ける。つまり、シチュエーションごとに違う話し方、言葉の選び方を身に付ける。そのトレーニングしてきた会話力が日本に入国した際に活きて、自信につながり、日本で安心して学びながら、日常生活が送れる確信が持てる。このような効果が生まれると考えられる。

4. 令和6年度の成果及び次年度の活動について

（1）令和6年度成果

①コマシラバス骨子案

自動車整備系専門学校編と日本語学校編のコマシラバス骨子案を作成

②対話型音声A I アプリ（デモ版）の作成

初級編、中級編、上級編の3段階のステップにし、それぞれシチュエーションを分けて作成。初級編のデモ版を作成し、Web上に展開し、実際に会話ができるようにした。

（2）次年度の活動

①対話型音声A I アプリ開発

初級編の見直し改善を含め、中級編、上級編に着手する。

②コマシラバスの充実

令和6年度作成した骨子案を精査し、実証実験で実施できる内容改善する。

③実証実験の実施

コマシラバスをもとに、対話型音声A I アプリを取り入れた実証実験を実施する。

実施先：日本国内の日本語学校1～2校、自動車整備系専門学校1～2校（予定）

④環境整備の検証（日本国内の日本語学校、自動車整備系専門学校）

作成したコマシラバスをもとに、日本国内の日本語学校と自動車整備系専門学校に実証実験を行い、アンケート結果等による評価から、環境整備の課題や構築等について検証する。

⑤企業インターンシップ編コマシラバス骨子案作成

就職から定着を目的に、留学生とのマッチングを想定したコマシラバスの骨子案を作成。

⑥教員メンタルストレス負担軽減となる教材の骨子を作成

普段の学校生活指導において、特に負担となる部分を抽出し、その骨子案を作成する。等

■ MEMO

第4章 会議録

<会議録>

事業名	令和6年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備 「自動車整備分野の外国人留学生(受け入れ/在学/就職/定着)のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」
会議名	第1回企画推進委員会会議
開催日時	令和6年10月11日（金） 14：00～16：00
場所	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場
出席者	<p>【会場参加】</p> <p>委員：佐々木 章、杉本康幸、細谷昭央、川村哲史、平岡俊弥、上田直紀、池田 希、小林建次、土井宏美（計9名）</p> <p>オブザーバー（請負業者）：吉川隆治（計1名）</p> <p>【オンライン参加】</p> <p>委員：永江貴史、稻永由紀、細野康男、入江 剛、ジャナカ・ジーワナ、田中秀樹（計6名）</p> <p>事務局：喜多好洋（計1名）</p> <p>（合計17名）</p>
【議事内容】	
<p>【目的】</p> <p>本事業の取り組み内容の共通認識を行うことを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次第】</p> <p>1_ 14：00 開会（事業責任者挨拶）</p> <p>2_ 14：10 委員自己紹介</p> <p>3_ 14：10 議事</p> <p>（1）事業全体の概要について</p> <p>（2）2024年度事業の調査と分析のスキーム</p> <p>（3）各委員からの質疑応答</p> <p>（4）今後のスケジュールについて</p> <p>4_ 15：50 その他（連絡事項等）</p> <p>5_ 16：00 閉会</p> <p><配布資料></p> <p>【資料1】議事次第</p> <p>【資料2】会議出席表</p> <p>【資料3】事業概要（PPTX）</p>	

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開会

【喜多事務局】本日はお忙しい中会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。令和6年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備「自動車整備分野の外国人留学生（受け入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」第1回企画推進委員会会議を開催いたします。よろしくお願ひいたします。

【佐々木事業責任者】お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。YIC京都の専門学校校長をしております佐々木と申します。皆様方におきましては、今後留学生という日本人以外の新たな学生、それから就業者をどのように確保していくか、本事業を通して、皆様のお役に立てればと思っています。本事業は4年間事業となります。入学、在学、就職、定着という流れをどのように作り上げるかということで、タイトルにエンロールメント・マネジメントという名称にしました。皆様方の立場から忌憚のない意見をいただければと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

2. 委員自己紹介

【佐々木事業責任者】本事業は、自動車分野としてYIC京都自動車大学校で受託しましたが、本学院では、ペットの学校やビューティーの学校、日本語学校という四つの学校がございます。その中で自動車整備の学校では、非常に留学生が多くなってきています。日本語学校においては、10月生という入学式を行っています。普通の日本語学校とは違い、4月入学、10月入学と年2回行っています。日本人、留学生の教育をしていますが、企業様にとってみれば、留学生の採用や教育もございます。日本語学校様にとってみれば、どのようにして諸外国から留学生を受け入れていくのか、日本語を学ばせて進学にどのように結び付けていくのかが課題となります。我々専門学校でも留学生を受け入れて、実際に教育し、資格を取らせてどのように就職に結び付けていくのかという流れを作っています。留学生という日本とは環境が違うところから来ている人々の相手をするには、それぞれの立場で連携を組み、結んでいかないことには、接することが難しい状況となってくると思われます。そのためには、新たな教育の環境、職場の環境それぞれの環境を作っていくことが大事になると思います。皆様には是非ともお知恵を絞ってご協力いただきながら、本事業を成功できるようにしたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

【永井委員】オンラインで参加しています。福岡にある麻生工科自動車大学校で校長代行しています永井です。自動車の整備の学科をはじめ、自動車工学・機械設計科という自動車の業界で活躍する人材育成をしている学校です。留学生は学生全体の30%程度占めている状況です。5年前から留学生に絞った学科を立ち上げていますが、増加傾向にあり、留学生の数は現状の割合となっています。国別の留学生の数の状況は、ネパール、次に地域の特徴柄

中国からの留学生が多く来ています。その他大きなところでは、ベトナムやスリランカといった国々から来ています。留学生ならではの苦労はやはりあり、資格取得に関しても少しでも負荷を軽減できるような工夫をしていきたいと考えています。無事就職して職場で活躍できるように教育をしていきたいと思っています。微力ながらご協力をしていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【上田委員】京都民際日本語学校で副理事長をしています上田と申します。今回は、このような機会をいただきまして誠にありがとうございます。現在、京都市内でキャンパスを構えています。中国やベトナムの学生が多かったのですが、現在では、50か国的学生が在籍しています。5~6年前まではベトナムの学生が多かったが、現在はかなり変わり、ミャンマー、ネパール、インドネシア、タイ、スリランカ、バングラディッシュというようなかなか国籍構成が変わってきています。当校では、進学のみならず、就職コースや日本の文化を学ぶコースを設けていて幅広く学生のニーズに合わせて展開しています。日本語学校の周辺環境で大きく変わったことは、昨年までは法務省の管理下でしたが、今年の4月からは文部科学省の傘下に入ることになりました。今年からは日本語学校の質を上げていくため、非常に厳しい文科省の審査が始まっています。日本語学校は文科省の認定を取得しなければならなく、その教師も国家資格になったのがいいのですが、文部科学省が求める能力を備えなければならない状況になってきています。よろしくお願ひいたします。

【杉本委員】いすゞ自動車近畿採用教育部部長の杉本です。弊社はトラック、バスを中心に戸販売からメンテナンス事業を中心に行ってています。外国籍の方の状況ですが、5年ほど前の採用を皮切りに、毎年10名程度採用し続けています。専門学校卒業の方が多いのですが、その他にも派遣の方も受け入れています。整備士部門の約15%が外国籍の方です。の中でもネパールの方が一番多い、数年前まではベトナムの方でした。ネパールとスリランカの外国籍が多くなってきています。その他の国としましてはバングラディッシュ、インドネシア、フィリピンとなっています。弊社にいる外国籍の方は、日本語がある程度できる方が多いのですが、特定技能の方などは日本語がほとんどできない方が多く、社内では日本語対応が課題となっています。色々と受け入れる側としての研修はしてはいますが、コミュニケーションをとれるところを徹底的に検討しているところです。よろしく願ひいたします。

【川村委員】スズキ自販京都の川村です。サービス本部の責任者をしています。外国籍の方は、ネパールが多く、過去はベトナムの方が在籍していました。スズキ自動車全体ですと各都道府県に外国籍の方は数名います。ほとんどの方は日本語が伝わるレベルですので、コミュニケーションがとりづらいなどの話は聞いていません。今のところ日本語ができる方には合っていないため、日本国内で働く外国籍の方は、日本語ができる印象を持っています。ご協力できるところはしていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

【平岡委員】トヨタカローラ京都の平岡と申します。サービスエンジニアの採用と教育に携わっています。6年ほど前から外国人の採用をしています。トヨタの販社の中では比較的早く採用をはじめました。留学生特有の問題点はこの6年の期間で起こっています。この部分を共有しながらより良い状況が構築できればと考えています。よろしくお願ひいたします。

< 会 議 錄 >

【細谷委員】トヨタ L & F 近畿の細谷と申します。このような機会をいただき誠にありがとうございます。航空機構をはじめとする様々な物流商品を京都、滋賀、大阪で販売とサービスを展開しています。L & Fはロジスティクスとフォークリフトの頭文字をとった名称です。ロジスティクスは、物流、システム商品を扱っており、近年の人手不足により、物流業務を機械化できないかなどの相談を受けています。フォークリフトは荷物を運ぶ機械を扱っています。当社では留学生の採用は今のところ行っていません。全従業員の内、サービスの割合は半数を占めています。自動車整備系の専門学校卒や高校卒、中途採用の方々はすべて日本人という状況です。今後、留学生の受け入れも視野にいれないといけない状況になると想われます。その中でご協力できることはしていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

【細野委員】デジタルハリウッド大学の細野と申します。分野としてはデジタル・クリエイティブ、CG、映像といった分野に特化した大学・大学院、社会人向けのオンライン教育をしています。何か貢献できるようにと思います。よろしくお願ひいたします。

【ジャナカ委員】ジャパンスタディサポートスリランカの日本語学校を経営しているジャナカ・ジーワナと申します。このような貴重な機会に参加させていただきましてありがとうございます。この機会を通して、より一層、スリランカと日本との橋渡しをしていきたいと思います。自動車関連を希望している学生も増えてきています。そのような方々に就職や進学といったチャンスを与える機会が作れると思います。よろしくお願ひいたします。

【入江委員】株式会社さんぽうの入江と申します。本日は、このような貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございます。高校や日本語学校、専門学校、大学、短期大学、企業を回っており、イベントや雑誌媒体など広告的なことから色々な橋渡しをしています。私は東京に居ますが、東京の専門学校では、留学生の受験が増えてきていて、コロナ前に戻っている状況です。東京の中でも留学生の話題は高まっています。本日はよろしくお願ひいたします。

【田中委員】Y I C学院山口の田中です。よろしくお願ひいたします。

【土井委員】Y I C学院総合支援課の土井と申します。京都にございます当校自動車とビューティ、ペットの3校の専門学校の就職の支援をしています。その中でも自動車が早期に就職が決まります。就職状況も好調です。留学生の受け入れは難しいという企業が多かったのですが、ありがたいことに現在では多くの企業から受け入れられるようになりました。現在の課題としましては、日本語能力の低下があり、色々な企業から話をいただいているこのような課題が解決できればと考えています。よろしくお願ひいたします。

【小林委員】Y I C京都工科自動車大学校の小林です。自動車の整備士を育てる学校で、学生に自動車整備士の資格を取得してもらって世の中に送り出しています。本校の留学生の占める割合は、約4割程度になっています。来年4月に入学てくる留学生はもう少し増え、割合的にも今後さらに大きくなってくると思われます。留学生にとっては、自動車分野は魅力的なものになっているようで、それが今の状況を反映している形になっていると思います。留学生の出身国としては、以前はベトナムが多かったが、現在はネパール、バングラデ

<会議録>

イッショ、スリランカ、ベトナムという順位になっています。また、少数ですが、ラオスからも来ています。多くの国から留学生が来ています。色々な話ができればと考えています。よろしくお願ひいたします。

【池田委員】YIC京都日本語院の池田と申します。よろしくお願ひいたします。当初は当校自動車大学校の付帯事業として始めましたが、現在は特殊学校として運営しています。留学生の出身国はアジア圏が多く、ミャンマー、ネパール、スリランカ、ベトナムの順で受け入れています。立ち上げの頃はベトナムが多かったのですが、今はミャンマー、ネパールが増えています。近年は、多くの学生は自動車大学校に内部進学しています。日本語教育をする立場として日々行っていることは、卒業して社会に出た後にどのように活かされているのか、現場で必要とされている日本語能力がどのようなものかを教えていただき、より良い環境づくりの参考につなげていければと思っています。よろしくお願ひいたします。

【稻永委員】筑波大学の稻永です。教育社会学が専門です。東京の専門学校に将来のことを考えるお手伝いをしています。よろしくお願ひいたします。

【吉川オブザーバー】株式会社RISOHの吉川と申します。よろしくお願ひいたします。弊社は、法律系全般や知的財産などの実務書の制作をはじめ、教育のアプリ開発等も携わっています。本事業の取り組みの成果の報告書や音声AIを取り入れた対話型アプリ開発のお手伝いをします。よろしくお願ひいたします。

【喜多事務局】最後になりましたが、YIC学院の喜多と申します。よろしくお願ひいたします。YICグループの特に京都におきまして事業の開発推進役、主に参事をしています。2015年度から2023年度の期間、YIC京都工科自動車大学校で教鞭していました。自動車業界を取り巻く環境を考えますと、本事業は業界を下支えしています整備専門学校におきましても大変重要な教育と考えています。よろしくお願ひいたします。等

3. 議事

(1) 事業全体の概要について

【佐々木事業責任者】令和6年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備「自動車整備分野の外国人留学生（受け入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」が本事業の正式名称ですが、長すぎるため、「自動車整備分野の外国人留学生EM事業」と呼ぶようにしていきたいと思います。

本日は全大会としての企画推進委員会会議の第一回目となりますが、ご都合が合わず、ご欠席の方もいらっしゃいます。本事業は福島、京都、香川、福岡と4地域を跨いだ専門学校から、日本国内外の日本語学校、大学、地域である行政関係、企業、有識者と色々な立場の方が集まって構成されているのが本企画推進委員会会議です。

配布資料の3ページが文部科学省委託事業の全体像となります。専修学校の国際化推進事業です。何が問題になっているかと申しますと18歳人口が減り、高齢者が増えてきていて、就労人口が減ってきてているという皆様がご存じの通りのことが問題です。就

労人口を維持するため、外国人の力を得ていかなければならぬのですが、それぞれの分野において知識習得のための学習が必要となります。そして日本国内で働いてもらう。そのスキームを作ることが狙いです。

国際化推進事業は3つの事業に分かれています。その中の①が本事業となります。特に人材不足が深刻な事例として挙げられています介護分野、宿泊業、自動車整備、外食、ITなどで、今年度は7分野が対象となっています。その内の自動車整備分野が我々の本事業です。

4～5ページには委託申請の結果を明記しています。事業計画書を企画書として文部科学省へ提出しました審査の結果です。自動車整備分野では他にも申請している学校さんはございますが、結果的には当校が採択されました。

本事業の背景と目的ですが、6ページを見てください。日本の基幹産業である自動車産業における自動車整備士の減少です、なり手が少ないと平均年齢が上がっていることという状況です。平均年齢も50歳に届くところまでであります。今後、さらに年齢が上がると思われます。有効求人倍率は、令和3年度のハローワークの調査で少し古いものではございますが、5倍になっています。企業の皆様はとても人材の不足感があると思います。企業様へ送り出す専門学校はこれ以上8～9倍にはなってい、それほど人手不足の状態です。自動車整備系の専門学校に入ってくる入学してくる学生が減ってきてているのも現状です。人手が足りないが、勉強する人が減ってきてる悪循環の状態となっています。

よって、日本人だけに頼ることを見直していく必要があります。自動車整備分野のみに限ったことではなく労働人口が減ってきてます。外国の方の労働に頼らざるを得ないことになっています。

ではそれをどのようなやり方で確保していくのかということが非常に問題・課題となってきますので、それを解消するために、モデルプログラムを作成していくことが本事業の中身となります。

次に7ページに記載していますが、特定技能の在留資格の受け入れ状況の資料で今年度国土交通省より発信されています。その中で受け入れ見込み数が書いてあります。令和6年度の1年間で1万人増やす計画がございますが、7月に実施された特定技能試験でのネパールの合格は受験者29名の内1名が合格という状況です。ミャンマーは今月に試験があります。国ごとに特定技能の試験があります。試験の内容は、自動車整備であれば3級程度レベルで、日本語能力でいえばN4～N3レベルです。特定技能1号、2号は非常に難しい試験です。特定技能に頼っていてはハードルが高い分、なかなか人材が増えない状況です。日本の自動車整備系の学校に送り、しっかりと教育を受ければ、自動車整備士資格取得もできる、日本語もできるようになる、日本人に劣ることがない人材を企業へ就職という形で輩出し、確保できるようになります。

本事業の対象国は、8ページに記載されていますように、ネパール、ミャンマー、スリランカを選びました。いずれの国も増加率が高いことから選びました。右上にイメー

ジがございます。現地の日本語学校から日本の日本語学校に入学するケース、現地から直接日本の日本語学校に入学するケースがあり、日本の日本語学校が進学先として専門学校、大学、就職といったケースがあります。

特に、自動車整備分野ですと日本の日本語学校から専門分野の専門学校に入学させて、日本語も合わせて専門学校で専門知識と技術を教育して就職に結びつけるという流れがあります。それをさらにどのように体系づくりしていくか、現地の日本語学校、日本の日本語学校、自動車整備系の専門学校、企業それぞれの立場で課題があり、どのようにクリアしていくかと思います。

また、参考として2023年～2024年にかけてASEAN諸国のODAを参考として記載しています。ミャンマー、ネパール、スリランカ各国増加していて、日本にとって投資価値がある国々であると考えられます。

次に事業概要と課題ですが、9ページをご覧ください。専門学校の立場からですが、いくらN2、N3を取得していても入学して大丈夫かというとそうではない。日本語検定は専門の用語を学ぶわけでもない。日常的に困らない程度のレベルをコンセプトとして認定する資格だからです。自動車整備に関わらず、専門学校に入学してきた際には、特に専門用語や独特の言い回しをするところが日本人と違うため苦労するところで課題となっています。

例えば、「エンジンかけて」という言葉一つでも日本人は分かりますが、外国人は通じません、日本に慣れてくると分かるようになります。日本人が学ぶ環境と留学生が学ぶ環境が違うことも影響していると思われます。

ただし、専門学校に入学すると日本人でも外国人でも関係なく日本の教材を使って、日本の環境で授業を行いますので、留学生に教えることは大変苦労するところです。入学前の環境をつくること、日本の日本語学校で次に進むための環境をつくること、専門学校で学ぶ留学生の環境をつくること、企業は留学生を採用するにあたって在留資格、就労ビザを取得しないといけないなど日本人と異なる環境の職場・待遇の環境づくりを用意しなければならないことになります。

このようなことから課題として、①外国人留学生確保のための外国から日本への留学ルートの確保として、継続的に行える課題の解決。②現地日本語学校、日本の日本語学校との連携と環境づくり。③養成施設の専門学校の環境整備。④専門学校と企業との連携体制の構築。⑤就職の定着率向上のための留学生の就職・定着のための環境整備。これらを円滑に回すためにコンソーシアムの体制構築と検証システムの開発を進めていきたいという流れです。

事業の実施計画としては10ページをご覧ください。本事業は4年の計画です。留学する前、留学してからということで、現地の日本語学校の教育、日本国内の日本語学校の教育、専門学校の教育を経て企業に就職する流れということを考えると4年間の流れという事業となっています。今年度は、この流れに対してのエビデンスを受けるということで、調査と分析が必要となります。

つまり、4年で取り組む全体のスキームの検証を今年度は進めていきたいと考えています。当然、進めながら課題は生まれます。その課題を一つ一つ実証実験を通してクリアしながら進めていくことになります。それぞれの立場で実際に流れを体験してもらいながら判断していただければと思います。単なる日本語検定を取得するだけに留まることなく進学先の分野の言葉を学ぶ日本語検定プラスαを日本語学校で学ぶことの必要性を示すことができればと考えています。

それには、その分野に行きたくなるようなスキームづくりが求められます。足がかりとしてホームページやPR動画などで発信し、興味関心を引くようにする必要があります。専門学校としては入学してくる留学生に対して、これまでとは違う留学生専用の教材づくりが必要になってくると思われます。企業にとっては、福利厚生など日本人とは違った方法で行われていると思われますが、もっと公開しながら進めてくことが求められてくると思われます。

留学生は国によってネットワークが強いため、流れをつくることができれば人材募集についてそこまで苦労することはなくなってくると思われます。本事業を通して実証実験のご協力をいただければと思います。委員の皆様には、調査分析の結果などについてご意見を賜りたいと思っています。等

(2) 2024年度事業の調査と分析のスキーム

【佐々木事業責任者】11ページをご覧ください。調査分析のスキームとなります。日本語学校、専門学校、企業にヒアリングする方向を記載しています。詳しい項目につきましては、事務局から連絡させていただきます。このようなヒアリングを行い課題と解決策を考えていきたいと思いますので忌憚のないご意見をいただければと思います。10ページの実施計画に詳しいことは記載していますので、読んでいただければご理解できると思います。等

(3) 各委員からの質疑応答

【佐々木事業責任者】技能実習生など受け入れられている方もいらっしゃいますので、苦労話などがございましたらお聞かせください。

【平岡委員】留学生の方はそれほど多くないが、特定技能の方は申請書類などが膨大なため管理する総務は大変である。

【杉本委員】技能実習生については、受け入れに問題がある。もともと企業単独で行っていたが、すごく大変で管理が難しかった。業者を入れて軽減策をとっている。在留資格の申請についても取りに行ったりと受け入れについては社内ですべて行っているが、負荷がすごく大きく、特定技能実習生についてはあまり前向きには行っていないのが現状である。コミュニケーションの状況を見ながら判断していくという感じである。

【佐々木事業責任者】留学生を採用するルートとしては専門学校から採用するのか、高校から直接採用するのか、特定技能実習生であるとかありますが、苦労していることを耳にしています。

【上田委員】技能実習生と特定技能と留学ビザで在籍している学生は、不適が違うということから分けられた方がよいと思う。特定技能実習生については、現地から直接連れて来るケースが多いと思うが、留学生の場合は、最長2年間日本で生活をして日本語を学んで進学なり就職していくということになるので、そもそも日本語能力レベルが違うと思う。

技能実習制度については、今は育成指導制度に移行していくので、今まで問題があったことに、ようやく国が動いたことになる。特定技能については、留学生の中に特定技能で就職希望をする学生がいる。今は学外の授業で介護や宿泊、外食、ビューティといった様々な業界の企業と連携をして各分野の対策をしている。そこである程度能力をつけて就職するという形で日本語学校としてバックアップしているところ。

自動車整備においても特定技能があることは把握しているが、そのニーズがどれほどあるのかが私の中で情報不足ということもあって対応していない。もし、企業の方から特定技能でも受け入れるという話があったら日本語学校の中でも対策授業を考えて準備していくことはできると考えている。

【佐々木事業責任者】企業の観点からのお話でしたが、一方、専門学校側からしますと醸成人口が減少しているとともに、通信制に通う学生が増えてきています。様々な事情で通信制に通う学生が半分以上実習授業のある環境の専門学校で学ぶことができるのかということから、自動車整備分野に関わらず、他の分野でも同じことであり、ますます専門学校は日本人の学生を獲得することが非常に厳しくなっていくと思われます。

外国の方々に労働力としてしっかりしてもらわないと成り立たなくなることは目に見えています。日本人だけでは専門学校は成り立たなくなっています。留学生比率が増えていくと考えられます。国としても外国籍の就労者を増やしていく方向です。このような背景があることも知っていただいてご協力いただければと思います。

【永江委員】留学生の教育の質をある程度担保するにはある程度の人数が必要になると思う。学校を運営していくうえでも留学生は必要。福岡の自動車整備系の専門学校はそれぞれ特徴があって、日本人のみのところもあるし、留学生に特化しているところもある。当校では留学生は3割程度だが、日本人の学生にとってもメリットはある。社会に出れば普通に外国籍の方が働いているので、日本人の学生には積極的に留学生と関わらせてやりたいと思っている。授業では留学生と一緒にグループを組んで行っているが、学生にとって異文化である外国から来た留学生と関わることは、非常にメリットが大きいと思う。一方、今のところ福岡では留学生を受け入れるまで至っていない企業が多くあるが、少しずつ増えてきている。ただ、留学生ばかりにはならないようにしていく必要があると思っている。

【佐々木事業責任者】工業高校がなくなってきた状況です。総合高校に代わってきています。工業高校の需要がなくなっています。日本人だけに頼ることが難しくなってきていました。

【入江委員】留学生を5割超えて受け入れてしまうと、語学・言葉の問題で授業が回らなくなることを耳にしている。日本人を多く入れたいという専門学校は今年かなり厳しい状況である。逆に、留学生を多く受け入れる専門学校は締め切りが早いといった状況である。

<会議録>

大学にはなるが、学費が一括なのか分割なのかといったところも入学時点でのハードルがある。特に大学は気にするということを聞いた。開催するイベントでも留学生はかなり増えてきている状況。コロナからようやく息を吹き返してきている状況である。

日本語能力試験だが、大学では漢字圏の方は取得しやすいようになっているのではという声もある。ネパールやスリランカの方からすると漢字が身近にはないため、日本語能力試験を見直すべきではないかという意見も大学では出てきている。漢字だけでもニュアンスは伝えることができるため、漢字圏の方にとっては有利になる。もう少し漢字圏ではない方への配慮が必要なのではという声が多くなってきている。

【佐々木事業責任者】今から留学生の受け入れをしようとする専門学校、企業は後手に回っている状況です。やはり、ある程度の準備期間を設けて環境づくりをしなければならないので、そこができるないと企業は採用できないし定着しない、専門学校は受け入れても授業が上手く回らないことになります。留学生に対して受け入れるサポートできる環境を整えないといけないと思います。

【上田委員】漢字圏、非漢字圏であれば、学習内容も変わる。非漢字圏の学生は話すことは上手にできるが、書くことは身に付けるには時間がかかる。別に補習授業などの枠をつくって行っている。

【細野委員】入学するにはN2取得が条件なため、日本語能力はある程度ある。日本語科目もあるし、自前で動画コンテンツを作り繰り返し日本語の勉強をする環境をつくっている。日本語が上手く話せない方は英語では話せる方が多いので、一定の基礎教育ではあるが、英語の字幕付きの動画教材を用意している。

【ジャナカ委員】色々な話を聞かせていただいた。スリランカは漢字圏ではないので、学生には動画を見せながら学習させてはいるが、それが壁と感じている。

【佐々木事業責任者】本日は全大会ということで、スキームの話をさせていただきました。これかわワーキンググループを組んで調査・分析を行っていきます。事務局から連絡が入ると思いますが、その際には、ご協力お願ひいたします。本事業の取組みで、現地の日本語学校、日本の日本語学校、企業、専門学校のためになるように進めていければと考えています。よろしくお願ひいたします。等

(4) 今後のスケジュールについて

【喜多事務局】今後につきましては、モデル開発、課題分析、実証実験のワーキンググループを中心として進めさせていただきます。それぞれのワーキンググループに所属されています委員の方々には、お忙しい中大変恐縮いたしますが、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。次回の企画推進委員会会議につきましては、2025年1月24日（金）同時刻で予定しています。なお、再来週10月25日（金）はモデル開発、課題分析、実証実験の合同会議を行います。短期間の招集となりますので、よろしくお願ひいたします。等

< 会 議 錄 >

4. その他（連絡事項）

【喜多事務局】本日の会議出席謝金、旅費交通費等の振込先を後日確認させていただきますので、よろしくお願ひいたします。等

5. 閉 会

【佐々木事業責任者】本日は長時間にわたりありがとうございます。本日の貴重なご意見は各ワーキンググループで検討していきたいと思います。個別に対応もできますので、ご質問等がございましたら、連絡ください。皆様、本日は、お忙しい中会議出席いただきまして、誠にありがとうございます。オンラインでのご出席の方は順次退出願います。今後とも、よろしくお願ひいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



<会議録>

事業名	令和6年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備 「自動車整備分野の外国人留学生(受入れ/在学/就職/定着)のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」
会議名	第1回モデル開発WG・課題分析WG・実証実験WG合同会議
開催日時	令和6年10月25日(金) 14:00~16:00
場所	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場
出席者	<p>【会場参加】</p> <p>委員：佐々木 章、細谷昭央、川村哲史、平岡俊弥、上田直紀、小林建次、土井宏美（計7名）</p> <p>オブザーバー（請負業者）：吉川隆治（計1名）</p> <p>【オンライン参加】</p> <p>委員：永江貴史、大門 剛、阿部一則、岡村慎一、田中秀樹（計5名）</p> <p>事務局：喜多好洋（計1名）</p> <p>（合計14名）</p>
【議事内容】	
<p>【目的】</p> <p>本事業の具体的な取組み内容について、各ワーキンググループ委員に共通認識を持つもらうことを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次第】</p> <p>1_ 14:00 開会（事業責任者挨拶）</p> <p>2_ 14:10 委員自己紹介</p> <p>3_ 14:15 議事</p> <p>（1）令和6年度 具体的な取り組み内容</p> <p>（2）令和6年度 事業実施に伴うアウトプット・成果物</p> <p>（3）各委員からの質疑応答</p> <p>（4）今後のスケジュールについて</p> <p>4_ 15:50 その他（連絡事項等）</p> <p>5_ 16:00 閉会</p> <p><配布資料></p> <p>【資料1】議事次第</p> <p>【資料2】会議出席表</p> <p>【資料3】事業概要（PPTX）</p>	

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開会

【佐々木事業責任者】お忙しい中会議出席いただきまして誠にありがとうございます。今回は、各ワーキンググループの合同会議として開催します。前回、全大会である企画推進委員会会議に事業の趣旨や目的といったことを共通認識いただくため、皆様にお集まりいただきました。

今回は、今年度具体的にどのような内容で取組むかといった中身についてご提案する会議です。その中で皆様からのご意見を賜りたいと思います。具体的には事務局から連絡が入りますので、その際には、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。等

2. 委員紹介

【喜多事務局】今回の会議から参加していただいている委員の方々に自己紹介をお願いいたします。

【大門委員】香川県にあります専門学校穴吹工科カレッジの大門と申します。このような会議には初めて参加いたします。よろしくお願ひいたします。

【阿部委員】福島県にございます国際情報工科自動車大学校の安部と申します。今回お声がけいただきましてありがとうございます。前回の会議は欠席しましたけれど、今回から参加させていただきます。本事業が成功できるように協力していきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【岡村委員】Y I C学院の常務理事をしています岡村です。よろしくお願ひいたします。等

3. 議事

(1) 令和6年度 具体的な取り組み内容

【佐々木事業責任者】今回はじめての参加の方もいらっしゃいますので、本事業の概要の説明を交えながら進めていきます。お手元の資料の3ページをご覧ください。本事業は、文部科学省の専修学校国際化推進事業の中の外国の日本語学校から日本の日本語学校、専門学校、そこから就職までの流れをつくる4年間のプログラム事業で、自動車整備分野におきましては私どもが取組むことになります。

次に4ページの委託事業の全体像です。記載されています通り、自動車整備分野の人材不足に関する資料となります。自動車整備分野の人材不足は相当前から言われてきていますが、日本人の入学生人口が今年度と来年度の18歳人口はわずかに微増ですが、ただし、そこから先は増加傾向ではなく減少となります。子育て支援など国が取組みしていますが、その効果が表れるのはまだ先のことになり、それまでは減少となります。労働人口は確実に減少し、同時に高齢化も進みます。

このような状況なため、諸外国から労働力を確保する必要がございます。自動車分野にお

きましても精力的に留学生の採用を考えていただきたいですし、また我々専門学校においても留学生を取り入れる流れも起こっています。そこには日本語学校の在籍が重要で、我々専門学校との連携がこの先も必要になってきます。よって、本事業は企業、専門学校、日本語学校それぞれの環境整備をつくる事業でもあります。

5ページですが、文部科学省の審査結果の点数になります。他の自動車整備系の学校も企画書を提出していましたが、当校が採択されました。

7ページをご覧ください。前回も企業の方にお聞きしましたが、留学生が自動車整備分野で働くためには、決して専門学校で知識習得と技術を学んで進むだけではございません、特定技能や技能実習生という形をとって企業に就職する方法もあります。特定技能として進むには、人数が少なく、在留資格を取得するハードルが高いのが現状です。ネパールの方の特定技能の資格取得合格率は、3. 4%です。

次に8ページについてですが、このような現状もあることから、専門学校で学んで資格を取得して就職するのがスムーズにいくと思っています。対象国は、ネパール、ミャンマー、スリランカを想定しています。日本に来る留学生の増加率が高いことで選びました。韓国、中国、ベトナムは人数は多いのですが、増加傾向でいくとやはりネパール、ミャンマー、スリランカとなります。日本が東南アジアの諸外国に支援しているODAの増加傾向から見てもこの3カ国としました。

9ページの事業概要と課題についてですが、課題部分として、外国人留学生確保のための外国から日本への留学ルートの確保があります。次に、環境整備についてですが、現地の日本語学校経由、エージェント経由などの環境整備、日本の日本語学校の環境整備、そこから自動車整備系の専門学校へ入学するための整備、それから専門学校で教育を施し、資格を取得させて送り出す環境整備、企業側でも採用した際には、就労ビザの取得、福利厚生も含めた環境整備といったそれぞれの立場の中で環境整備を整えていかないと人材確保が難しいという課題を明記しています。

10ページの説明になります。こちらは実施体制になりますが、今回の会議はモデル開発WG、課題分析WG、実証実験WGの3つのワーキンググループの合同会議です。それぞれの役割につきましては明記している通りです。等

(2) 令和6年度 事業実施に伴うアウトプット・成果物

【佐々木事業責任者】11ページのヒアリング調査についてですが、今年度は何が課題となっているか、日本の日本語学校、ターゲット国の日本語学校、自動車整備系専門学校、企業を対象にヒアリング調査をし、課題を抽出して分析して開発の方向性を見出したいと思っています。事務局中心で実施していきます。

12～15ページにそれぞれの対象先へのヒアリング項目案を記載しています。この項目につきまして皆様からご意見をいただきたいと思いますが、その前にヒアリング項目についての説明に入ります。

12ページは日本の日本語学校に対してです。自動車に興味がある学生についてなど、ど

のように募集しているのか、入学時期はいつ頃なのか、また学費のこと、学校の環境、日本語検定のレベルごとの合格状況など、在留資格の問題、アルバイトについて、住まいに関すること、法律の問題といったところをヒアリングし、問題点と課題の抽出を行い、改善案を検討します。

13ページは海外日本語学校とありますが、今回対象としている国の現地の日本語学校に対してです。直接日本の日本語学校に入学してくる方はいますが、日本に対する留学についての調査になります。日本に対してや自動車に興味がある学生の増減割合、留学先にどこの国があるのか、就労で行きたい国があるのか、当然、現地の考え方を知ることが必要になりますので、ヒアリングを行って問題点の課題の抽出と改善案の検討をします。

次は専門学校のヒアリング項目についてです14ページをご覧ください。当校も留学生を受け入れてはいますが、留学生の受け入れの状況、日本語検定のレベル、自動車整備系の状況把握が必要となってくると思われます。留学生募集方法の圧倒的なやり方としては、日本の日本語学校から専門学校へ入学することが多いと思います。専門学校のやり方としては外国に事務所を設けて募集しているところもあります。このようなことから募集に関する質問事項は必要と思われます。

入学の時期についても同じです。日本語学校も4月入学の2年課程と10月入学の1.5年課程がありますが、専門学校は4月入学です。時期のズレはありますので、その点も調査する必要がございます。

また、環境整備面において、特に在留資格や居住、アルバイト、コンプライアンスの問題もございますので、それぞれの学校に聞いてみたいと思います。就職についてもそれぞれの学校の知見から参考となるアイディアを見つけたいと考えています。

15ページの企業へのヒアリング項目についてご説明します。まず、留学生の採用状況、今までベトナムの留学生の採用が多かったと思われますが、その次、どこの国の外国籍の方を採用しているのか、日本語レベルや受け入れ環境、日本人とは違いますので、住まいの問題や在留資格、就労ビザの取り方といったことはお聞きすることが必要と思われます。

実際に採用された外国籍の方とのコミュニケーションの問題、留学生向けの研修、昇給昇格のチャンス、キャリアプラン、コンプライアンスの問題なども、日本人の新入社員にはやる必要がないものでも留学生は必要となります。このようなことをお聞きしたいと思っています。それぞれの学校、期間、時期によって受け入れの環境が違います。一貫したプログラムを開発するには、ルートを確立させてマーケットを喚起させないとスムーズに進まなくなります。

本事業では、この点を取り組んでいきたいと思います。調査結果につきましてはこれから検討を重ねていきたいと思います。

次に成果物についてですが、16ページをご覧ください。方向性としまして音声AIを取り入れたアプリ開発を考えています。

アプリ開発の目的は、入学前の準備教材としての位置づけとしてです。日本語検定資格のN3やN2を取得した人は、日本語の勉強ができる読める人といった当たり前に捉えてしま

いますが、入学してくると日本特有のニュアンスやあり苦労します。自動車整備の分野に進学、就職を目指す上でそれを解消するための教材としてAIを使ったアプリ開発を考えています。辞書や用語集はインターネット上も含め多くありますが、解説だけではなく、日本特有のニュアンスの対応が必要ですので、AIを取り入れることで少しでも解消できると考えています。

17ページに開発の方向性を記載しています。何かをしながらできるもの、日常会話のみならず、仕事上でも役に立つような用語を取り入れていきたいと考えています。

日本人同士であれば、阿吽の呼吸で「あれ」「それ」という言い方でも通じますが、N2、N3を持っていても留学生には通じません。自動車の部品名についてはその部分が特に見受けられます。テキスト文章でも、英語、漢字、カタカナが混じっていて、これは日本特有なもので留学生は混乱します。

次に18ページになりますが、シチュエーションによる日本語です。「エンジンをかける」「エンジンを切る」では留学生に伝わりません。また、「ハンドルが流れる」「ハンドルが固まる」もそうで、このような言葉は日本語検定では学びません。専門学校に入ってからこのような場面は非常に多くあり、留学生は学び始めることになります。「ジャッキを上げる」「バッテリーがあがる」「ライトを点ける」「タイヤを着ける」といった同じ発音でも意味が違ってきます。教科書を読めば分かるといったことではないことについて、AIを取り入れて開発していきたいと思います。等

(3) 各委員からの質疑応答

【喜多事務局】日本の日本語学校に対してのヒアリング項目について積極的にご意見をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【小林委員】日本国内の日本語学校についてですが、自動車に興味がある学生がどれほどいるのかは聞きたい。これまで限られた分野の中で留学生が来るといった状況でしたが、今後は広まると思うので、その点も含め聞いていただきたいと思う。

【喜多事務局】自動車に興味があるといった点においては、留学生は現在の日本人の学生に比べると興味はあると感じています。ただ、今は留学てきて就職しやすいところを選んでいるのではと感じています。

【永井委員】知りたい項目はほとんどあると思うが、特に学費に関してはとても重要と思う。進学するにしても学費に困ると学習にも影響ができる。日本語学校で学費面について掘り下げて聞いてほしいと思った。

【喜多事務局】学費に関しては苦労しています。教職員も教えるだけではなく、生活面のサポートも必要となっていますので、その点も踏まえて聞いていきたいと思います。

【大門委員】当校のグループでも日本語学校を運営しているが、永井委員と同じような意見になるが、日本語学校を卒業して専門学校に入学するための学費の捻出が留学生にとって厳しいので、日本語学校時代からどのようなことを考えているのか確認してもらえると良いと思った。4月、10月の2回入学の日本語学校が多いと思うので、受け入れる際の母国への

割合、東南アジア諸国における同時期の学生の割合も入れてほしいと思う。

【喜多事務局】母国の割合もヒアリング項目に取り入れていきたいと思います。

【阿部委員】項目につきましては特にはないが、一つ受入れ状況について、全ての学校が自動車分野を目的にしていることではないので、その他の分野状況になると思うが、学生自身が進路先を決める時期やどのような影響から進路先を選んだといったことを聞いてもらいたい。その部分が分かることで、もしかすると自動車分野へ進む学生が少しでも増える可能性が出てくると思った。

【喜多事務局】その他の分野状況につきましては、当然、自動車分野への進学を進めることになりますが、他の分野もございます。どのようなきっかけでその分野を選んだのか、その時期はいつ頃なのかといったキーワードは必要と感じました。ヒアリングの際には、このキーワードを入れながら進めていきたいと思います。

【上田委員】ここに挙げられている項目は、聞きたいことであると思う。受け入れ時期や状況について、留学生が日本に留学しようとする8カ月前に我々日本語学校は募集活動をする。入管にはその旨申請するが、その締め切りは入学5カ月前となっている。

来年4月に入学する場合は、来月11月に書類をすべてそろえて入管に提出することになる。その結果が出るのが来年の2月末になる。そこから準備をして4月に入学するといった流れになる。入学してから2年間の中で我々も進路指導を行ってはいるが、専修学校の情報などを連動してやろうと思うと日本語学校の1年間のスケジュールを共有していくことが必要と思う。このようなことをヒアリングに取り入れると良いと思う。

また、ヒアリング項目ではないのですが、日本語学校の周辺環境が今年の4月から変更した。これまで入管の法務省の管理下であったが、文部科学省の管理下に代わった。教育の質を向上するため、新しく認定校の制度が取り入れられた。今年の4月から5年の間に認定校にならなければならなくなり、認定校にならないと6年間は日本語学校の経営ができなくなる。このように厳しくなってきてるので、日本語学校の数も減少するかもしれない。この部分もヒアリング項目として取り入れると良いと思った。

【喜多事務局】確かに日本語学校の制度が変更になっています。それにより、日本語学校の数が減った場合、留学生も減ることになりますので、各校の取り組みをヒアリングできればと思います。次に、海外の日本語学校に対してのヒアリング項目について追加するもの、変更するものなどのご意見がございましたらお願いします。

【上田委員】我々も海外の日本語学校と提携しているが、その中で重視しているのは、現地の指導状況である。日本語教育をする上で、目的・目標意識をしっかりと持った姿勢があるかどうかが重要。例えば、自動車に興味があるといったことをしっかりと確認をしてもらうこと、日本に来た際に進路が変わってしまうと関係者への影響が大きくなるので、入口のところをどのようにしているか確認するうえでもしっかりと依頼をしてヒアリングすることが良いと思う。

【喜多事務局】その点はしっかりと進めていきたいと思います。次に自動車整備系の専門学校に対してのヒアリング項目についてご意見をいただきたいと思います。

【土井委員】就職サポートを担当している。進路指導に関するところになる。具体的に就職サポートの取り組みについて聞いてもらいたいと思う。当校の場合は、合同企業説明会がある。ほとんど日本人の学生と同じやり方で行っているが、他校では留学生と日本人学生とでどのようなやり方をしているのか聞きたいです。

【喜多事務局】日本人の学生と留学生とでは違うサポートをしているのかお聞きしたいと思います。

【川村委員】個人的な意見だが、採用するにあたり、面談・面接をするが、日本語能力検定のN1、N2持っているということで弊社に入社希望で来る。ただ、実際に話をしていくとコミュニケーションが取れない事実がある。自動車整備士資格は2級、1級と取得しているN1～N3という日本語検定資格を持った方が来るが、実際にコミュニケーションを取れない方を卒業させて企業に就職させるということが重要で、それに対してどのようなヒアリングをするのかそこに直結する話があればと思う。

【佐々木事業責任者】今のご質問はもっともなことです。日本語検定資格のN1～N3を取得していると自動車整備資格は合格します。ただ、資格取得しても社会に出るとギャップが生じます。日本語学校から専門学校へ入学する学生でN2を取得していても、日本語能力でいえばそれ相当なということになります。資格を持っていても仕事に結びつくかということにはなりません。この点をクリアにする形を作り上げれば就職先企業にとっては戦力となり、定着につながります。このような教育を施すことができる日本語学校、専門学校を作り上げる足掛かりとして、最終的には、留学生に安心感を伝え続けることができる日本語学校、専門学校、企業を一本化する体制作りが本事業の取り組みです。

【平岡委員】管理状況に通じるものがあると思うが、車のこと以外の勉強するところの指導というか教育、留学生の母国の文化もあるので、そういった生活面の教育プログラムがあるのか、日本国内・海外の日本語学校にもあると思うがその点のヒアリングをお願いしたい。

また、在留資格の手続きをした後に親に就業データが届くと思うが、健康保険、年金を払うべきものを払わないで差し押さえ状が届く。払わなければいけないのだが、分からぬのでほったらかしにすることがあるので、このような郵便物は無視しないでしっかりと対応するといった指導はどうするべきか、金額もかなり大きくなるので会社では立替をして、少しずつ給料から天引きして返済していく形をとっている。留学生の半数ほどこのような状況の方が居るため、その点の教育を充実させてほしい。

ヒアリング項目とは違うが、企業奨学金のことで、退職した場合、国に戻って連絡が取れなくなる、そのような辞め方をされる方が一定数いる。奨学金ということで、5年や10年かけて返済するような形をとっている。

ただ、貸金業者ではないため、追いかけることができなくなる。このような事情から現状奨学金はリスクが高すぎるため、行わないことになっている。将来的に信用度が上がればやりやすい状況になる。

日本語教育する上で、漢字が難しいという意見があったが、働いている中で漢字には困っていない。唯一困ることは、働きだしてからの資格を取るときぐらい。漢字が読めないので

資格が取れない。国の試験でもふりがなを振ってほしいところ。

【喜多事務局】ふりがなはすぐにはできない部分ですので、その部分の教育は我々専門学校の役割と思っています。

【細谷委員】当社は外国人留学生の受入れの実績はないが、応募する学生が日本で具体的にどのような仕事に就きたいのか、何年ぐらい働く予定なのかというところが知りたい部分である。その理由としては、弊社のフォークリフトの整備は、自動車整備士の有資格者が行っている。また、フォークリフトを整備するにはフォークリフトの検査者資格が必要で、その資格を取得するには経験をする期間が5年程度と一定期間の必要となり、自動車整備士の資格を持っていると実務経験の期間が1~2年と短くなる。例えば、入社後5年で帰国するといった場合、会社としては採用が難しいと判断せざるを得ない状況である。留学生に明確な目標がある場合は検討する余地はあると思うが、それがないと難しいといった状況なので、聞いてもらいたい。

【喜多事務局】専門学校卒業後に就職した先に長く定着して働いてもらいたいための取り組みもありますので、ヒアリング項目に卒業生の定着期間を入れていきたいと思います。

【田中委員】音声AIアプリ開発は非常に魅力あると思う。多くの専門学校に留学生はいるし、留学前学習としてスマホにアプリを落として数学などを中心にしているが、しっかりとしている学生とそうでない学生がいる。学習の降下や評価をすることにおいて管理の面でどのようにするのかが気になったところ。ただ、基本的には興味深いもので、楽しみである。

【岡村委員】音声AIの効果の一つとして、進捗管理と評価がどのように反映されるか、特に専門学校入学前の効果や専門学校入学後の職員負担軽減がどのような形となって表れるか楽しみ。

【喜多事務局】入学前学習の進捗の管理、学習効果の評価は必要を感じています。開発することだけを目標としないように進めていきたいと思います。次に企業に対してのヒアリング項目について意見をいただきたいと思います。

【永井委員】留学生が企業を決めるときに、家族のフォローも見ている学生も多いので、その項目もあると良いのではと思った。

【喜多事務局】長く日本で働くとなると母国から家族を呼ぶこともありますので、そのことも入れて聞きたいと思います。

【阿部委員】ヒアリング先は外国籍の方を採用した実績があるところで話す。地域によって異なると思うが、留学生や外国籍の方を採用できない、採用まで至らないという現状が福島県ではある。採用に踏み切った、採用する経緯を聞いてもらいたい。また、採用していない企業へのアーリングにでは、どのようなことがハードルになっているのかなどを聞いてもらいたい。

【喜多事務局】そのようなことを含めて聞いていきたいと思います。

【大門委員】就労ビザに切り替える際に入管の方から言われたことがある、就職先の企業が指定工場でないとビザが下りない。認証工場の企業の方が留学生を採用したいとの声があり、入管に確認したところ、認証工場では留学生を雇うことができないと言われた。入管の

< 会 議 錄 >

方にも異人国の採用は、指定工場はよくて認証工場はだめなのかといったことを聞いてほしい。そうすると外国人も就職先の幅が広がって選択肢が増えると思った。

【喜多事務局】指定・認証といったことも含めて進めていきたいと思います。等

（4）今後のスケジュールについて

【喜多事務局】次回の会議ですが、11月21日（木）本日と同時刻でモデル開発WGと課題分析WGの合同会議を開催します。お忙しい中で恐縮いたしますが、よろしく願いいたします。等

3. その他（連絡事項）

特になし

5. 閉 会

【佐々木事業責任者】お忙しい中長時間にわたり会議出席いただきまして誠にありがとうございます。また、貴重なご意見も多くいただきまして誠にありがとうございます。具体的なヒアリング調査の進捗を皆様に情報公開しながら進めています。実際のヒアリング調査は事務局中心に行っていきます。オンラインでご参加の方は順次退出願います。よろしくお願ひいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



<会議録>

事業名	令和6年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備 「自動車整備分野の外国人留学生(受入れ/在学/就職/定着)のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」
会議名	第2回モデル開発WG・課題分析WG合同会議
開催日時	令和6年11月21日（木） 14：00～16：00
場所	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場・オンラインホスト
出席者	<p>【会場参加】</p> <p>委員：佐々木 章、杉本康幸、脇崎敏幸、平岡俊弥、細谷昭央、小林建次、池田 希、（計7名）</p> <p>オブザーバー（請負業者）：吉川隆治（計1名）</p> <p>【オンライン参加】</p> <p>委員：永江貴史、阿部一則、田中秀樹（計3名）</p> <p>事務局：喜多好洋（計1名）</p> <p>（合計12名）</p>
【議事内容】	
<p>【目的】</p> <p>ヒアリング中間報告と入学前準備教材の音声アプリ開発について確認することを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次第】</p> <p>1_ 14：00 開会（事業責任者挨拶）</p> <p>2_ 14：10 議事</p> <p>（1）令和6年度 日本語学校・専門学校・企業の環境づくり</p> <p>（2）令和6年度 成果物「入学前準備教材アプリケーション」について</p> <p>（3）ヒアリング調査中間報告</p> <p>（4）各委員からの質疑応答</p> <p>（5）今後のスケジュールについて</p> <p>4_ 15：50 その他（連絡事項等）</p> <p>5_ 16：00 閉会</p> <p><配布資料></p> <p>【資料1】議事次第</p> <p>【資料2】会議出席表</p> <p>【資料3】事業概要（PPTX）</p>	

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開会

【佐々木事業責任者】お忙しい中会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。今後、どのような成果物を作るのか、現状のヒアリングはどのようにになっているのかなどのご報告と意見を賜りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

2. 参加者自己紹介

【脇崎オブザーバー】いすゞ自動車近畿の採用を担当しています脇崎と申します。入社当時から採用担当として仕事をしています。この度は、このような機会をいただきまして誠にありがとうございます。ご協力できることはしていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

3. 議事

(1) 令和6年度 日本語学校・専門学校・企業の環境づくり

【佐々木事業責任者】配布資料10ページまでは、これまでの会議で説明しました内容と重複しますので、説明は無しにします。今年度の成果物の方向性と概要について、11～12ページで作成しましたのでご覧ください。留学生を日本に導き、教育、就職、定着に結びつけるにはそれぞれの段階において動機付けが必要です。留学生にその気にさせることが必要で、そのツールや教材、コンテンツを開発します。

動機付けには、一般的には内発的なものと外発的なものがございます。内発的なものとしては、興味や関心、楽しさや喜びといったものです。外発的なものでは、報酬、お金といった物品欲みたいなものになります。

現地の日本語学校、日本の日本語学校、専門学校、企業とそれぞれの立場で人材確保に向けた行動をしています。企業におかれましては採用の際に福利厚生をはじめ、色々な面で日本の学生に対しても動機付けを行い、応募してもらっていることになります。留学生に対しても見える形で取り組んでいく必要性があると思います。

具体的には12ページに記載しています。外国の日本語学校、日本の日本語学校、専門学校、企業とそれぞれの環境づくりについて分けて作成しています。外国の日本語学校から直接日本の専門学校に入学するルートはありますが、人数的にはそれほど多くないと思います。外国の日本語学校から日本の日本語学校に入学して日本語勉強し、専門学校や大学に進学していく方が多いと思います。企業においても、技能実習生や特定技能という採用の方法はありますが、やはり専門知識を取得している有資格者など専門学校の卒業生が採用の基本だと思います。外国の日本語学校、日本の日本語学校の環境づくりとして、日本の留学段階としては、就労にどのように導くかによります。

ジャパニーズキャリアマップと称していますが、ジャパニーズドリームというように捉え

ていただければと思います。日本に留学や自動車分野で働きたいという動機付けをしないと次につながっていかないと思います。

例えば、日本の自動車産業で働く魅力として、日本は安心で安全な国であること、世界の日本自動車産業で働くステータスが持てる。日本の車は諸外国の車と違い、故障が少なく良いイメージとしてブランド価値があります。そこで働くというステータスを作ることが大切なところです。世界に通用する専門資格と国家資格、ダイバーシティなどです。次の例として留学のためのキャリアアップです。当然のことながら日本語レベルです。

次に自動車整備分野の業界用語、専門用語は辞書やインターネットなどで比較的簡単に調べることができます、業界特有の用語は難しいと思います。

専門学校授業で使われているシチュエーションの用語、専門学校の選び方です。認定校、養成校、適格校といった入管から毎年認定されますが、生活支援、アルバイト含めた環境をつくることが必要であると考えます。

次の例は、留学のための計画と準備で、留学のステップや現地日本語学校・斡旋業者・OBやOGとの関係性、それから留学資金、留学手続きなどです。このほかにあると思いますが、いきなり勉強するといったスタイルではなく、振り向いてもらうための環境づくりがベースとなると考えています。

このような方が専門学校に入学することになりますが、専門学校には多くの留学生が入ってきてています。授業以外のことでの専門学校生活を送るうえで困っている留学生が居ますので、その環境づくりが必要となります。専門学校と日本語学校とでは違いは当然のことながらあります。学び方も違いますし、90分の実習と学科の授業という時間的にも大きく違います。

キャリアアップ、日本語レベルアップです。日本語検定のN1～N3の中で上位ランクであれば望ましいのですが、実際にはそれだけではございません。資格を持っていなくても勉強している留学生は居ます。そういう留学生を含めたレベルアップは必要です。自動車整備の業界用語や授業のシチュエーション用語、資格試験用語などがあります。日本の法律はどっちつかずの表現があります。専門学校の普通の授業では使いません、法律の部分のみでしか出て来ません。資格試験はどっちつかずの言い回しで出題されますので、資格試験専用の勉強が別に必要となります。

生活環境と指導体制になります。法律、ルール、マナーの違いや学校、住まい、アルバイト、ヘルスケア、メンタルケアなどの指導が必要となります。在留資格の更新や就労資格の取得といったことの環境づくりが専門学校では必要となると思います。企業におきましては、こちらの方で作成してみました。

例えば、外国籍社員の働き方として、企業それぞれ内容ややり方が違いますので、日本の企业文化と労働規則の整備をはじめ、労働契約、雇用確認通知といった日本人社員に対してしていることが外国籍の方にも同じようにしなければならない。就業規則に関しても説明が必要です。

次にキャリアアップについてですが、一生整備士で終わることにならないように、日本語

のレベルアップ、業界・企業の用語、職場のシチュエーション用語といったことに関してフォローしていく必要があります。阿吽の呼吸は日本人とは違って留学生には伝わらないので、そのような感覚を持っていただくことが必要です。

生活環境と衛生管理です。社会保険、公租公課、マイナンバー、住まいや食事のこと、かかりつけ医、福利厚生、ヘルスケア、メンタルケアが含まれます。

次に、在留資格の取得と更新の面倒をみることが支援として必要だと思います。这样的なことを場面ごと、段階ごとで業界として事例を含めて作り込んでいくことが必要だと思います。それを使ってみることで就労支援につながると思います。

今後、事業を進めながらお聞きすることが出てくると思いますし、ヒアリングの結果で改変していくと思われますので、その際には、よろしくお願ひいたします。等

(2) 令和6年度 成果物「入学前準備教材アプリケーション」について

【喜多事務局】音声AIについて、開発する会社である吉川氏から説明していただきます。よろしくお願ひいたします。

【吉川オブザーバー】はじめましてRISOHの吉川と申します。この度、音声AIを活用したアプリ開発のお手伝いをしていきます。お手元の資料の14ページからになりますが、スマホでもパソコンでも使用できるもので、何かしながら学ぶというより、慣れるといった方向性で考えています。日本語に慣れるといったところです。私どもが海外に行きますと英語圏では周りが英語で溢れています。その場にしばらく居て慣れてきますと言葉が何となくでも分かるようになってきます。やはり、そのような場が必要でそれに代わるというよりも、近いものができればというコンセプトで考えています。

実際のイメージに近いものが、15ページになります。対話型生成AIのイメージです。資料の左側は登場人物が設定できるように考えています。女性、男性、先生方、若い方、お年寄りなどを選んで会話をすることができるように考えています。

もちろん、委員の皆様方を登場人物に設定し声を反映することも可能です。ここで、生成AIおの会話がどのように成り立つかを右下の図で示しています。簡単になりますが、音声をソフトが認識して、ソフトの中でテキスト化・文章化するそれを音として出すという仕組みで、これを繰り返して会話ができるようになります。

したがいまして、音声を入れるときに、しっかりと発音してくれないとソフトが認識できずに固まった状態になります。その対応策として、今回は音声もそうですが、テキスト入力、文章で入力するやり方でもできるように考えています。「おはよう」の発音が認識できないのであれば、文字で入力して会話を進めるといった入り口を2パターン用意することを考えています。

右上の段ですが、キャラクターを取り入れて使用できるようにしていくことも可能です。文字だけでもロボットでも、女性でも可能です。登場人物をどのようにするのかといったところも皆様のご意見をいただきながら進めていければと思います。

また、日本語の基礎的なもので考えていますので、外国の日本語学校でも使えるようなも

のを開発する予定です。日本のシチュエーション、切符を買う、道に迷ったらどうするといったシチュエーションも学ばせて、そのときの話し方はどのようにするのかといったこともアプリで学んで日本に来ていただくというイメージです。シチュエーションを設定する必要がありますので、例えば、病院や買い物、移動方法といった日常的なものをAIに学ばせつつ会話ができるようにしていきたいと思っています。

専門学校においても同じです。例えば、留学生が「わかっています」と言っても本当はわかっていない、理解していないことがあります。日本人は、何となく雰囲気を汲み取って言葉で返す能力がありますが、外国籍の方はその能力が携わっていないので、その部分を今回のアプリを使って丁寧に指導していく形として専門学校の環境づくりに必要になるのではと思っています。

企業にとっても、例えば、修理現場で「運転しているとハンドルが右に流れるということで見てほしい」と伝えて、外国籍の方は「右に流れる」が分からず、そのようなことも環境設定際のシチュエーションとして組み込んでそれを事前に使っていただければ理解できると考えています。

このように、様々な環境設定をAIに学ばせるために盛り込んで、色々なコンテンツを作つていけばと思っています。今年度におきましては、外国・日本の日本語学校、専門学校、企業のヒアリングからの導き出しが必要と思われますので、デモ的なものを成果物としてご提供できると考えています。ざっくりとですが、このような方向の進め方で考えています。

【佐々木事業責任者】付け加えさせていただきます。先々週に今回の事業に関して文部科学省と会議がありました。非常に興味を持っていただきました。トヨタとマイクロソフトで音声AIアプリの開発をする発表がございました。ベテランの技術者の声を入れていって経験値を積むという流れになっていくと思われます。学校でも企業でもこのような開発は進んでいくと思われます。

【喜多事務局】動画御開発イメージもございますので、必要な個所のみになりますが、共有させていただきます（動画視聴）。お送りしています資料にURLを明記していますので、お時間がございますときにでもご確認いただければと思います。等

（3）ヒアリング調査中間報告

【喜多事務局】これからは、ヒアリングの中間報告をいたします。19ページに記載しています通りです。ヒアリングの目的としましては、各機関の受け入れ環境状況の調査を行い、課題抽出をします。

実施先の予定件数は、日本国内の日本語学校5校、海外・ターゲット国の現地日本語学校5校、自動車整備系専門学校5校、企業5社の計20件を予定しています。実施期間は、令和6年11月下旬～令和7年1月下旬を予定しています。手法としましては、直接訪問もしくはオンライン等での実施をしています。

次に20ページをご覧ください。現在のところのヒアリング状況です。ヒアリング実施済みは記載されていますように学校と企業各4件です。実施待ち状況も記載されています通り

で、順次進めています。

次に21ページになりますが、「課題である」「困っている」という声を抜粋しました。自動車に興味がある留学生数の低下ということがございました。日本人も同様な傾向になっている状況と思われます。ビザの取得についての優位性から自動車分野を選んでいる留学生が増えているところでは、当校での近いものが感じられています。

留学生の学費の支払い状況がございました。アルバイトの時間が限られている背景もあるのではと感じました。留学生の自動車運転の取得の状況、運転免許の本試験がクリアできないことと、金額面が挙げられると感じました。

次に、留学生を対象とした企業奨学金に対して保証人の確保が難しい。日本語検定資格レベルと実際の日本語能力の差異が大きい場合があるという意見がありました。例えば、日本語検定N2、もしくはN3を持っていても実際に授業をはじめてみる、仕事をしてみると資格レベルと実際のコミュニケーション能力に差異があるということがありました。留学生の採用を躊躇している企業があるが、留学生は先輩と同じルートを進むことが多いので、早めに採用を始めてほしい。5年以上の定着率が課題になっている。業界内に含めての転職についてですが、金銭面が一番大きいということでした。以上、ヒアリングの中間報告です。等

(4) 各委員からの質疑応答

【喜多事務局】留学生を指導している立場から、入学直後の観点からどのようなシチュエーションがよいのかご意見を伺いたいと思います。

【池田委員】留学生はN5レベルがあれば日本に来ることができる。レベルが高い留学生は別であるが、日本語での会話が成り立つようなレベルではない。日本に来たときは「～したい」「これがきれい」といったレベルで何かに対しての自分の感想や思いを一方的に伝えるレベルでコミュニケーションは取れないレベルの留学生が大部分である。この点から考えると会話を前提としたものは、難しいのかなと感じる。

日本語の学習のやり方といった側面からはレベルが上がると思うが、会話のキャッチボールのレベルまで達していないと難しいと感じた。日本語特有のイントネーションで意味が変わることがあり、そこが留学生で最も苦労しているところ。

例えば、「ご飯をたべましたか」という言葉でも最後に上がるか下がるかで心配する場面とマイナスや確認する場面がある。中上級レベルになると勉強するが、この点をAIに取り入れることができれば、留学生はもっと日本社会になじめると感じた。

【佐々木事業責任者】関西の日本語学校と東京の日本語学校との違いで、卒業生が方言になってしまうことがありますか。

【池田委員】基本的には日本語学校の教員は、標準語で教えることになっているので、多少イントネーションが違うことはあるが、言い方などは標準語になっていると思う。ただ、留学生はアルバイトをしている。留学生は関西弁をしゃべりたがるので、標準語で教えていくが、意味を理解した上で関西弁をしゃべっているということはある。学校でも質問したことの返答が「はい」で良いところ「せや」と言って返てくる。

【喜多事務局】関西では、「そうだよ」が「せや」という言い方です。また、ダメなことは「あかん」と言いますが、A Iでは「開かん」といったドアが開かないということで捉えられますので、この部分もアプリに取り入れられればと考えています。

【小林委員】自動車のことを勉強しつつ、同時に日本語も身に付けていけるようにしている。どれだけ身近に日本語を話す機会が多くあるかが大切だと思う。留学生は学校の中では日本語が基本であることは理解している。日本語をしっかりと学びたい留学生は日本人としっかり会話したり、授業を受けたりしている。

このようなA Iアプリを利用することで、日本語で会話する機会が増え、身近にある。～しながらでできる自然と身に付く効果が見込める環境ができれば日本語能力の向上につながると思う。

【喜多事務局】誰の声がいいのかと考えますが、その点はいかがでしょうか。

【小林委員】学生の好みになってしまいますが、自動車整備の留学生は男性が多いので、女性であれば興味が高まって良いのかもしれません。

【永江委員】日本語レベルが低くても学校に入れてなるべく効果的に進めることができるよう業務をしていますが、先生方が積極的に指導しています。その中で一番使えそうで効果的なことは、学生が書いた文字を画像認識して採点することをしています。日本語の先生ではなく、自動車整備の先生ですが、自動車の言葉、自動車分野の漢字や言い回しなどを留学生に教えていく中で、A Iで採点し多く解かせることができ有効で突破口の一つになるのではと感じていますので、本事業で取り組む内容は有効な手段と感じています。方言などは特に感じてはいません。普段おしゃべりするとくには博多弁が出ることはありますが、普段の授業では標準語で教えていますので、特に感じることはございません。

【阿部委員】環境づくり、音声A I、ヒアリングを聞いて、音声A Iは非常に良い成果物になると感じている。日本語特有の言葉や方言などあると思うが、チャット機能もあるので、視覚と聴覚から学ぶことができるということで、非常に良いアプリと思う。相手も変えることができるので、その機能も良いと思った。

会話のトレーニングになると思うが、専門学校であれば日本語での会話はある程度成立すると感じたが、日本語学校に入ってきたばかりの留学生N 5 レベルの学生でも会話が成立するのかが気になるところ。ヒアリング項目につきましても同じ悩みのところが多く、共感するものがあった。

【喜多事務局】多くの専門学校、日本語学校に本事業で開発したアプリが活用できるように取り組んでいきたいと思います。

【平岡委員】アプリは非常に良いものだと感じている。対話のキャッチボールをする中で、整備工場のシチュエーション、事務所内のシチュエーション、お客様とお話しするシチュエーションなどが入ってくるとすごく良くなると感じた。会社ごとに専門的な言葉があるので、その点はどのようにするのか。

例えば、エンジンがあがった車を他の車のバッテリーを使ってかけるときは、「追い込む」という言葉を使うが、他の会社では使っていなかつたりするので、将来的にそこまでできる

と良いと感じた。

【喜多事務局】独自のことがあると思われますので、どこまで反映できるか考えていきたいと思います。

【細田委員】留学生の採用までは至っていないが、A Iアプリは良いものと思う。多言語も対応されているということなので、母国語で聞いて日本語で返ってくるなどができることが良いと思った。話す話力がある程度身に付いていないと難しいという意見はその通りだと思った。聞いて理解することに関しては、もうひとひねり考える必要があると感じた。

A Iアプリが普及していくことで、日本人が海外留学生に使って母国語を聞かせるような環境づくりができるようになることが必要と感じた。ご当地キャラなどが選べると地方色が出て良いのでは感じた。

【喜多事務局】ご当地キャラを入れることは可能ですか。

【吉川オブザーバー】可能な限り対応いたします。

【田中委員】A Iアプリの話を聞いて、自動車整備分野に留まらず、広い分野で汎用的な要素をもっているおのと感じた。公務員の講師をしているが、2次試験に面接試験がある。面接試験の際に、想定する地方団体の面接の担当者の性格を想定してA Iに学ばせて対応できるようになれば、練習環境も有意義になるので、効果が出てくるのではと感じた。このように、色々な分野で使えると思った。作成段階で、復元というか復習できるように設定することができれば、外国人の学生がどの程度正確にできていたのかが把握できるようになるのはと感じた。

【喜多事務局】様々な環境設定が必要であると感じます。参考とさせていただきます。

【杉本委員】弊社では留学生を社員として採用している。やはり、会話のところがハードルとしてある。お客様との会話は少ないが、特に先輩社員との会話が方言や言い回しのところで厳しいと感じた。A Iを活かすことで先輩との会話の中身が理解できるようになり、自分がしゃべっていることと先輩がしゃべっていることの捉え方の違いも少なくなって、さらにコミュニケーションが良くなることを期待している。

方言についても、標準語から入って地方の方言を学び、そこから関西弁に入ってくる、関西弁は怖いと捉えられる方もいるので、そこは伝え方の違いということを留学生も理解できればと思う。国が違うと外国人同士でのコミュニケーションも違つてくるので、その点も今回のA Iを活用し、改善できるようになればと感じた。

【喜多事務局】関西弁では、普通にお話しているところが怒っていると勘違いされてしまうケースはありますので、その点も改善できればと考えています。

【脇崎オブザーバー】エンジニアの約1割が外国籍の方。この5年で一気に人数が増えてきている。現状は、留学生が入社した際には、エンジニアとしてがんばってもらっている。

ただし、今後を見据えた際には、留学生のキャリアマップを考えると、将来的に検査員になったり、整備主任者であったり、お客様対応するアドバイザー担当としてのフロント対応、修理対応するポジションなど将来的には考えていかなければならない状況が出てくると思う。そのようなときに、今回開発するA Iアプリがお客様とのやり取りのトレーニング教材

にも非常に幅広く活用できるのかと感じた。その他、ヒアリングの中で弊社の課題だが、留学生が入社後に結婚して配偶者の方が外国籍の場合、地方であるとアルバイト先も見つけることができないことがある。都会に引っ越しをしたい、都会に転職したいという方が増えてきている状況である。

また、近所に同じ国籍の方が居ない、寂しいので友達がいるところに移動したい、引越ししたい、転職したいといった声が上がっている。このような課題に、今回開発するA Iアプリが少しでも安心できるような環境づくりの手助けになってほしいと思う。

【喜多事務局】周りに同国人がないことは、今回の中間ヒアリング調査報告の中で記載していましたが、回答はございました。専門学校のヒアリングの中で、地域差、関西方面ですと当校は京都ですが、大阪方面含め有名で都会であるため留学生の数は多い。ただし、北陸地域では都会に近くないため日本語学校が少ない。という声はありました。本事業で開発するアプリに関しては、同国人が近くに居なくとも日本語能力を身に付けることによって、少しでも寂しさを軽減できるものと考えています。

【吉川オブザーバー】今回、アプリを開発するにおいて、15ページ部分になりますが、キャラクター設定をするにおいて、ご意見をいただきたいと思います。ユーチューブのイメージは実装までのものではなく、デモ的なものでイメージ的に捉えていただければと思います。その先に関しましてこれからと詰めていくことになると思いますが、成果物のイメージ動画を考えますとキャラクターの設定が必要となってきます。その他に、例えば、身の回りについてのシチュエーションでデモ的に使える、先ほどの会社内、学校であれば座学や実習場面といったことなどを伺いして、それを反映できればと思います。今年度は、デモ的な発信ができれば、皆様にもっとイメージをお伝えすることができると思いますし、もっと皆様にとって具体的な提案を含め、作り込めるようになると考えています。

【池田委員】ネパールは古くて忍者ハットリくんぐらいで、ミャンマー、スリランカは最近鬼滅の刃などのアニメが人気である。キャラクターだが、女の子が悪いというわけではないが、当校に入学している留学生の女子学生がアニメ好きでも、アニメといつても萌えキャラは拒否反応を示す女子学生もいる。そのような女子留学生は擬人化した動物系に良いイメージを持っているようなところもある。アニメはかわいい女の子ばかりで、かっこいい男の子はいないのか、という意見もあるので、かわいい動物を擬人化したのでも良いと思う。

【佐々木事業責任者】擬人化にするのであれば、宗教的、文化的なもので避けるものがあると思います。受け入れる国の人々のことを考える必要もあると思います。例えば、今出ている少女に耳を着けたり、しっぽを着けたりして架空のモデルを作り上げるのが安心できるとは感じます。何かに寄り過ぎることは注意する必要があると思います。

【小林委員】ユニホーム的なもの、自動車整備であればつなぎを着ているといったもの、業界に携わるようなものもいいのではと思った。

【永江委員】個人的には動物っぽいものや女の子キャラクターなどでいいのではと思うが、多くの国の留学生を受け入れるには、宗教関係などは考えないといけないということであれば、ロボットなどの無機質的なものはどうかと感じた。

< 会 議 錄 >

【阿部委員】宗教の絡みなど日本人とは違った問題が出てくるとは思うので、ロボットなどが良いのではと思う。

【杉本委員】キャラクター設定は、限定する必要性があるのか。様々な選択肢を入れないと今の時代に合わないのではと感じた。コンピュータと話をする中で人の形を入れないといけないなど形を求めることが引っかかっているところである。

【喜多事務局】アーバーミー的な抽象的なものも確かにあります。

【佐々木事業責任者】貴重なご意見誠にありがとうございます。特に方言に関するこ関西のみならず、東北や九州など地域環境で異なります。日本全国に通じる言葉で考えますと、日本語検定に寄り添った標準語になりますが、実際にその土地で暮らすとなるとそうではございませんので、それらを含めて検討していきたいと思います。等

（5）今後のスケジュールについて

次回は、モデル開発WGと実証実験WGの合同開催となります。12月13日（金）14時～でございます。よろしくお願ひいたします。等

4. その他（連絡事項）

特になし

5. 閉会

【佐々木事業責任者】貴重なご意見を多くいただきまして誠にありがとうございます。引き続き、AIを取り入れた教材開発やヒアリングを進めていきます。本日は、お忙しい中会議出席いただきまして、誠にありがとうございます。オンラインでご出席の方は順次退出願います。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



<会議録>

事業名	令和6年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備 「自動車整備分野の外国人留学生(受入れ/在学/就職/定着)のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」
会議名	第3回モデル開発WG・第2回実証実験WG合同会議
開催日時	令和6年12月13日（金） 14：00～16：00
場所	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場
出席者	<p>【会場参加】</p> <p>委員：佐々木 章、細谷昭央、平岡俊弥、杉本康幸、上田直紀、土井宏美、池田 希、竹下昌孝（小林建次代理出席）（計8名）</p> <p>オブザーバー（請負業者）：吉川隆治（計1名）</p> <p>【オンライン参加】</p> <p>委員：永江貴史、大門 剛、阿部一則、ガヤニ・チャンドラシリ（ジャナカ・ジーワナ氏代理出席）、田中秀樹（計5名）</p> <p>事務局：喜多好洋（計1名）</p> <p>（合計15名）</p>
【議事内容】	
<p>【目的】</p> <p>本事業の具体的な取組み内容について、各ワーキンググループ委員に共通認識を持つもらうことを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次第】</p> <p>1_ 14：00 開会（事業責任者挨拶）</p> <p>2_ 14：10 議事</p> <p>（1）令和6年度 成果物「AIアプリのシミュエーション」の説明と意見交換</p> <p>（2）ヒアリング調査中間報告と意見交換</p> <p>（3）シラバス・コマシラバス骨子案【専門学校編】【日本語学校編】の説明と意見交換</p> <p>（4）今後のスケジュールについて</p> <p>3_ 15：50 その他（連絡事項等）</p> <p>4_ 16：00 閉会</p> <p><配布資料></p> <p>【資料1】議事次第</p> <p>【資料2】会議出席表</p> <p>【資料3】事業概要（A4冊子）</p>	

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開会

【佐々木事業責任者】皆様、お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。今年度の成果として皆様の貴重なご意見が反映され、次年度に結びつけられることになればと思います。本事業のAIアプリ開発には、文部科学省でも期待されています。今後、このようなアプリケーションを使った教材開発は、本事業に関わらず、他の事業でも活用されてくると思われます。本日は長丁場となりますが、よろしくお願ひいたします。等

2. 議事

(1) 令和6年度 成果物「AIアプリのシチュエーション」について説明と意見交換が行われた。

【喜多事務局】前回の会議の際に、シチュエーションについて委員の皆様にご意見をいただきました。配布資料9ページをご覧ください。萌えキャラのようなものは控える、利用者の方が選択できるように、ロボットなどのキャラクターが良いのではということでしたので、その方向で開発を進めています。キャラクターはほぼ見えてきたのですが、どのようなシチュエーションに関しましては、事務局で考えてみました。

大きく分けて3段階で考えてみました。配布資料10ページに記載していますが、ステップ1は初級編で海外の日本語学校の学生向け、N5レベルをベースとして日本の日本語学校に安心して入学できることを目的としたものです。次にステップ2になりますが、中級レベルで日本国内の日本語学校の学生向けに、日本入国後に留学生が不足しているといわれるマナーや生活術といったシチュエーションを考えています。ステップ3では、上級レベルで自動車整備系専門学校や社会人向けのもので、日本国内の自動車業界へ就職し定着するために必要な基礎知識を身に付けるといったシチュエーションを考えています。ステップ1では、4つの内容に分けてみました。簡単に申しますと、朝起きてから、登校、下校、夜寝るまでといったところです。例えば、(1)では、朝起きて登校するまでに、移動手段として自動車やバイク、自転車や徒歩といったいずれかに当てはまりますので、日本語ではどのように言うのかといったところを組み込んでいきます。(2)は学校に着いた後になります。学校での生活で友人との挨拶や先生との挨拶、教科書や机、椅子、筆記用具など日本語ではどのように言うのか、またその取扱いやマナーなどを考えています。(3)下校と帰宅後、夕食を取るまでのことです。移動手段のシチュエーションを取り入れたいと思います。また、日本に来た場合、帰宅後どのようなことをするのかというところの学ぶ機会にしたいと考えています。日本では靴を脱いで上がる、手を洗う、うがいをするといったことも海外の方は違和感があると思いますので、そのシチュエーションを入れたいと思います。日本語学校に通うようになって日本の文化に触れる初步を考えています。(4)夕食から就寝までとして、家族との挨拶や会話、日本での余暇の過ごし方やマナーを取り入れることを考えています。1505

【ガヤニ委員】外国の日本語学校で日本語教える大変さがあります。日本文化が学べることは大切なことで良いと思います。

【喜多事務局】この内容で進めても問題なさそうですか。

【ガヤニ委員】特に問題はないと思う。

【喜多事務局】次に、ステップ2の説明に入ります。日本国内の日本語学校学生向けに考えてみました。入国後のマナーと生活術に関するものです。(1) 移動に関するシチュエーションとして、駅構内やバス停、切符を買うことから改札で並ぶこと、電車内やバス車内などについてです。(2) 買い物に関するシチュエーションで、日常的にコンビニやスーパーで買い物をすることに関するものです。(3) 病気のときのシチュエーションは、病院に行き場合、薬局で薬を買う場合、救急車を呼ぶ、夜間といったことを考えています。(4) 自動車の整備専門学校に入学する前から自動車の基礎を学ぶシチュエーションを取り入れた内容を考えています。日本人では、「自動車と車」「バイクと二輪車」はそれぞれ同じものと認識していますが、留学生はそうではありません。また簡単な自動車の部品名称が学べるようにしたいと考えました。

【上田委員】入国後すぐに勉強することで、実践と同時にやれば身に付くし、テーマとしても適していると思う。期間をどの程度設けるのかによるが、2年間勉強していく中で色々と組み合わせができればさらに良くなると思った。

【池田委員】同じ意見だが、発展系としてアルバイトに応募するとき、役所に行って登録する、生活も様々なので、実際に学んだことを実践できるそのあたりのバリエーションがあればと思った。

【土井委員】就職を支援する側の意見としては、日本語能力が少しでも向上できるようになると受け入れてもらえる企業にとっても喜ばしいことなので、AIを取り入れることによって様々なシチュエーションの中でより多くの経験値を積み上げができるものになると良いと思った。

【喜多事務局】アルバイト、役所の部分も考えていきたいと思います。次にステップ3についてです。整備専門学校と社会人向けのシチュエーションを3段階で考えてみました。ビザの切り替えなど整備士として働く上で必要となります。(1) 自動車整備士資格取得に向けた専門用語ですが、例えば、漢字表記の自動車部品です。エンジンと表記されますが、原動機という言葉が出て来ます。一般的にブレーキは制動装置という言葉で表現されます。

また、留学生は「正しいものはどれですか、間違ったものはどれですか」という質問はスムーズに解答できますが、「適切なものはどれですか、不適切なものはどれですか」という質問では、日本語能力が低いレベルの留学生が30%程度いますが、その留学生は理解に苦します。もっと日本語能力が高い留学生でも、「適切ではないものはどれですか」といった表現に理解するのに時間が掛かります。「適切は正しい」とは分かっていても、「ない」が入ると理解に苦しますので、そのようなところも分かるような機会にしたいと思います。

他に、 $+ \times \div$ といったことはできますが、AにBを加える、CをDで除した表現の加減乗除があります。授業では学んでいきますが、機会を増やすということでアプリに組み込むことを考えています。(2) 専門学校の学習環境のシチュエーションでは、工具の色々な呼び方、メガネレンチをオフセットレンチと呼んだり、ソケットをボックスと呼んだりします。

また、和製英語には苦労しています。例えば、ホーンのことを日本ではクラクションと呼んだりします。ワインカーを出すといつても海外ではワインクをする人になりますので、意味が分からぬ。ただ、日本ではクラクション、ワインカーの言葉を使いますので、このような和製英語を理解するために作っていきたいと考えました。(3) 自動車整備業界のシチュエーションでは、接客用語、整備士の先輩が使う日本語があります。例えば、日本人であれば数のことですので分かると思いますが、「じゅうミリ」で言われることと「とおミリ」で言われることがありますので、そのような発音で言われることに対して少しでも対応ができるような機会が設けることができればと考えています。

【竹下代理委員】漢字表記の自動車部品や和製英語のところで、工具の名称、自動車の部品を読むことも非常に重要であるが、授業を進めていくと板書に書くスピードがバラバラなので、記入ができるようになればコミュニケーションにも関係するので、それができればありがたい。

【喜多事務局】発音の関係でAIが認識できないこともありますので、テキスト入力も組み込むということでしたがいかがでしょうか。手書きは可能でしょうか。

【吉川オブザーバー】記入できるといったことですが、話すことと同じで、文字表記できないと固まってしまいます。前回の会議でもお話ししましたが、テキスト入力から会話というパターンもできますので、ご要望のことは、別のプログラムを作って開発していくことになると思われます。従いまして、現時点では検討の余地を残しつつ、来年度以降お示しできればと考えます。

【永江委員】留学生を指導する中で、例えば、電話をかけさせるということをしている。また、窓口での話し方もしているが、手間が掛かっているので、その部分をアプリに反映できれば、教職員の負担軽減につながると思う。

【大門委員】専門学校から就職に関してのところで、留学生は日本のビジネスマナーに苦労しているので、その部分が反映できればと思う。

【喜多事務局】電話のかけ方、ビジネスマナーに関して検討していきたいと思います。

【阿部委員】音声AIの対話ができるという認識で、しながらできることがすごく良いものができると思った。対話型ということで、色々なシチュエーションの設定となっていると思うが、単純に単語のところで、海外の日本語学校であるとか、自動車整備士業界で必要な自動車部品などの名称といった単語だけを覚えられる機能があればと思った。

【杉本委員】自動車業界の中で自動車メーカーによって呼び方が変わるものがある。例えば、ブレーキリスクやブレーキローターといったこともあるし、最近では排ガス装置の呼び方もDPT、DPF、DPRと同じような部品でもメーカーに伺うようなことがあるので、最初

の頃は外国籍の方は迷ってしまう。この点が反映できるようになればと思う。

【喜多事務局】メーカーによる部品の呼び方の違いは、新人の頃は苦労すると思われますので、検討していきたいと思います。

【平岡委員】内容については良いと思った。質問だが、このアプリは誰でも使えるタイプのものか。それともライセンス発行型か。自学自習タイプになると思うので、働いていて業務をこなしていく中で、単に進めるだけでは向上しないと感じる。メーカーから送られてくる教材についても、自学自習のコンテンツはあるが、それを身に付く学習をしているのか見ることができないので、ライセンス発行式であれば、誰がどのコンテンツを学習しているのか、管理者として進捗が見えるようなシステムが用意されているのが望ましいと思う。

また、このアプリで学んだことに対しての定量的な評価などは必要となってくると思うので、管理する側のシステムがないと厳しいと思った。

【吉川オブザーバー】基本的なシステムの方向性はB to Bで考えています。その会社、学校、団体などの教育担当や管理者の方に人数分のID、PASSをお送りして進捗管理ができるように考えています。今回のステップの段階を受講者がどのように勉強しているか管理者側が時間などで把握できるように考えています。e-learningシステムの管理者画面を想定いただぐと良いと思います。一人一人どれだけ時間を掛けて学んでいるのか、理解度はどのレベルなのかということが分かるようにこれまで反映しないといけないと考えています。

コンテンツや評価方法などこれから詰めていくことになると思いますが、現段階では、管理者の方にID、PASSを発行して受講者の管理ができるように考えています。

【田中委員】管理者側が学生の学習進捗状況の確認と評価ができるようになるとより良くなると思うが、どのような形になるのか分からぬが、普通の授業評価とは違った形になると思うので、評価をどのような形にしていくかがこれからの課題になってくると思う。大変興味深い。

【喜多事務局】管理側が各学習者の進捗状況の確認ができないといけないと感じています。

【細谷委員】非常に良い案件と感じている。その中でビジネスマナーの反映には共感を持った。実際に働く上で、朝出社してから夕方帰社するまでのビジネスマナーやコミュニケーションを図る上での上司への報告といったことも、あるとより良いものになるとともに、就職先に定着する上でも必要になると思った。

【佐々木事業責任者】ビジネスマナーは単に就職するためにだけにあるのではなく、外国から日本に入国して、日本の日本語学校に入るときのマナーも当然必要になります。日本語学校から専門学校に入学するときのマナーも必要になると思います。専門学校の段階のシチュエーションだけでビジネスマナーを教えることではありません。国ごとに文化の格差がありますので、段階ごとにマナーを身に付けていくことが必要です。

また、日本のコンプライアンスを身に付けることが必要となります。日本人でも守らない学生はいますが、違反して不利にならないように段階ごとにシチュエーションを考えていきたいと思います。

(2) ヒアリング調査中間報告と意見交換が行われた。

【喜多事務局】続きまして、ヒアリングの中間報告をいたします。各機関の受入れ環境の状況調査を行い、課題の抽出を行うことを目的としています。実施先及び予定数は、日本国内の日本語学校5校、海外（ターゲット国）の現地日本語学校5校、自動車整備系専門学校5校、企業5社の計20件です。実施期間は、令和6年11月下旬～令和7年1月下旬までを目安にして行っています。手法は、直接訪問、もしくはオンラインなどで進めています。

今現在、日本国内の日本語学校で2校、自動車整備系専門学校5校、企業4社の11件のヒアリングが終了しています。自動車整備系専門学校の8項目に関する回答結果の要約は以下の通りです。(1) 留学生の自動車に興味がある留学生は増えていますか。また、日本語レベルはどのような状況でしょうかの問いで、自動車に興味のある留学生数の減少との回答が多かったです。(2) 現地日本語学校や代理人、日本国内の日本語学校との連携で募集していますかの問いで、ビザの取得についての優位性から自動車分野を選んでいる留学生の増加との回答が多かったです。(3) 留学生的学費の支払い状況はいかがでしょうかの問いで、あまり芳しくないとの回答が多数ありました。困っていないとの回答もありましたコンプライアンスの問題で聞き方の配慮もありますがその抜粋を記載しています。入学試験時の面接で経費支弁について詳細に確認している。留学生の生活を支援する専門の支援室を設置し、担任のみが対応にあたらないようにしているとのことでした。学費に関しましては、担任ではなく、留学生支援室が一括して対応しているとのことでした。また、留学生はアルバイトの時間が限られていますので、自動車ディーラーなどと連携し、土日のアルバイト（洗車・オイル交換やタイヤの脱着といった軽作業）で時給を優遇してもらっているとのことでした。(4) 留学生的自動車運転免許の取得状況で、取得費用に関するものも含め、問題を抱えているとのことでした。(5) 留学生を対象とした企業奨学金については、保証人の確保が大きな問題とのことでした。(6) 日本語検定資格取得レベルと実際の日本語でのコミュニケーション能力のバランスの問いにつきましては、日本語検定資格レベルと実際の日本語力との差異が大きい場合があるといった回答が大半を占めました。その対応策として、実習授業では日本人と留学生を同じ実習班にし、日本語を話さざるを得ない状況を作っている学校が多く見受けられました。実習班の日本人と留学生の比率は学校によって異なりますが、1班4名とした場合、2：2や3：1といった形を取っているとのことでした。(7) 就職・進路指導やサポートについてですが、留学生の採用を躊躇している企業がありますが、留学生はどうしても先輩と同じルートを進むことが多いので、今後、検討することがある際には、早めに採用を始めて欲しい。また、留学生含め学生との接点を増やすため、1年次の夏期休暇と冬期休暇にインターンシップへ行かせているとのことでした。(8) 留学生的就職先の仕事の定着の状況・勤務年数についてですが、日本人も同じと思われますが、5年以上の定着率が課題ということと、金銭面で転職する者がいるということでした。

次に、日本国内の日本語学校に10項目についてヒアリングを行いました。(1) 留学生が求める分野は、入学当初から決まっているかについてですが、入学後に日本語を学びながら、進学準備を進めるが、約半数の学生が入学時とは違う分野へ進学している状況のことでした

た。(2) 学生が進路先を決定する時期につきましては、卒業年次の夏休み明けから10月ごろであるが、11月に入る者も多いとのことでした。大学や他の分野に進学することも含めた回答です。(3) 学生募集はどのような方法で行っているのか、受け入れ国はどのようなところが多いのかといった回答は、最近はネパールが圧倒的に増えてきているところが多かったです。アジア圏15カ国の学生が在籍しているとの結果でした。(4) いつ頃に入学を受け入れことが多いでしょうかということに関しては、4月期生が約70%で、10月期生が約30%ということでした。(5) 学習スケジュールについて、どのような内容でどれほどどの時間をかけて行っていますかということに関しては、学生の日本語レベルごとのクラスで差はあるがといった前提条件で、主教材（教科書）の学習と試験対策（N2～N3取得対策）を午前と午後に分けておおよそ50%ずつ行っているとのことでした。(6) 学習内容について日本語検定取得が中心なのか日常的なことも含めて行っているのかについて聞いた結果が、日常的なものも盛り込んでいるものの、日本語検定資格取得を中心に授業を行っているとのことでした。(7) 留学生の学費の支払い状況についてですが、入学時に全額支払っているため、学費回収についての困難さはないという回答がありました。(8) 留学生的管理状況について大変なこと、時間のかかることについては、寮の管理が大変ということでした。理由としては、留学生支援室などがないため、寮の管理は全て教員が行っている。教員が親代わりになるため、病院含めた生活面の対応の負担が大きくなっているということでした。(9) 就職・進学状況と斡旋先はどのような業種が多いかについては、進学が90%で、就職又は特定技能が10%の割合でした。進学先は大学が増えてきていることで、入国時の日本語力が高くなっているためということでした。進学先は大学・専門学校あわせてビジネス系、IT系、自動車系、介護系分野が多い、就職・特定技能はホテル系が多いという結果でした。(10) 文部科学省の認定校への取り組みに関しては、すべてが準備中ということで、再来年申請予定ということでした。

次に企業へのヒアリングについてです。8項目について行いました。(1) 外国籍の方を採用するきっかけとなった経緯や外国籍の方の採用を見送っていることに関しては、すべての企業からの回答でした。整備専門学校へ入学する日本人の減少により、外国人雇用に踏み切った。入社試験は日本人と同じ内容で行っているとのことでした。(2) 日本語検定資格取得レベルと日本語でコミュニケーションがとれるレベルについてですが、個人差もありますが、習得している日本語検定のレベルとコミュニケーション力に少数ですが一致しているがあり、差異があるという回答が多数あった結果でした。(3) 募集方法についてですが、整備体験や会社説明会など学校と連携しているが85%ぐらいで自動車整備系専門学校からの応募は受け付けているが、連携はしていないということが15%でした。(4) 外国籍の方への給与や手当をはじめ、昇給・昇格のチャンスなどについてですが、日本人と同じ扱いをしている。外国人社員のみに母国から家族を呼ぶ際の費用や祝い金を支給する手当、一時金があるとの回答でした。(5) 外国籍の方への研修については、原則として日本人と同じで、定期的に日本語やマナー研修もしているとのことでした。(6) サポート体制に関して外語籍

の方の住まいや家族のフォロー、在留資格の管理についてですが、在留資格の更新サポート、外国人の担当者がいる不動産会社を紹介して部屋を見つけやすくしたり、出産、通院、入院のフォローを行ったりしている。外部の管理団体にサポートをすべて任せているといった企業もありましたが、特定技能についてだと思います。すでにコミュニティーがある外国人社員が多く、特別なサポートをしていなくても問題はないといった回答結果でした。(7) 就労ビザへの切り替えの際に入管管理局とのやり取りなどで困ったことについてですが、在留期間更新手続きの際に、期間が短かったため、入管に問い合わせたところ明確な回答が返ってこなかった。(8) その他として、外国人でも日本人でも地域による文化の違いがあり、コミュニケーションが苦手な日本人もいる。外国人であることを理由に、本人の能力が否定されることがあつてはならないという意見がございました。海外の現地日本語学校は進んでいない状況です。

【佐々木事業責任者】事務局よりヒアリングの報告がありましたが、各団体に対して我々民間の学校、企業では法律的なこと就労的なこと、在留資格、労働時間などどうにもならないことが出てきます。報告書の中で提言として公開していきたいと考えています。等

(3) シラバス・コマシラバス骨子案【専門学校編】【日本語学校編】について説明と意見交換が行われた。

【喜多事務局】25ページをご覧ください。専門学校編としては、自動車整備の内容で1コマ90分を4コマで6時間程度を考えています。内容としましては、A1のシチュエーションにつながったもので作成しています。次回以降につきまして、今回いただいたご意見を含め検討していきたいと思います。1コマ目は、自動車整備士資格に向けた専門用語、2コマ目は専門学校の学習環境で使用される日本語、3コマ目は自動車整備士に必要な計算の基礎、4コマ目は自動車整備業界で必要な日本語を考えています。

【竹下委員代理】国土交通省が定めている時間とは別で、当校ではキャリアデザインという授業をしている。キャリアデザインの授業の中で実施することは可能。コマシラバスの内容に関しては、四則計算、トルク・駆動力の計算、電圧、電流、抵抗の計算というところは良いと思う。

【佐々木事業責任者】今回の会議でお示ししているのは、現時点での案で今後変更となる可能性があります。また、国土交通省の養成機関としての時間数としての授業があります。令和8年度4月1日から専修学校・専門学校は単位制となります。各学校がその時間授業を受けたかどうかではなく、その単位を認めるかどうかになりますので、国土交通省が定める時間数で認めるところがどのように変わっていくのか現段階では分かりかねますが、国土交通省の時間制による養成施設のカリキュラムがどの程度近づくかによって、教育内容の設定の仕方と開発が変わることをご理解いただきたいと思います。この点は、文部科学省には提言していきたいと考えています。また、日本語学校も認定機関になるために今以上に縛りが出てくる可能性が非常に高いと思われます。

【永江委員】留学生には、週4日半日基礎自動整備の本などを使ってこのような用語を教え

ていますが、このようなところにAIを取り入れて行うと学生も興味を持ってくると思うし、楽しい要素があると一層よくなると思います。また、先生についても、日本語ではなく自動車について教えるのが専門の先生なため、サポートできると思います。

【喜多事務局】先生方の負担軽減につなげられればと思います。

【大門委員】留学生には基礎自動車工学、計算問題など履修時間の中の科目にルビを振って取り入れているが、ここにAIが入ると説明の仕方も楽になると思う。

【阿部委員】留学生の学生には、通常授業以外に日本で働くためのビジネスマナーなどの補足授業などをしている。AIを使ったカリキュラムができると良いと思った。職員の負担軽減が一番の魅力で、留学生の学生も興味をもって取り組むようになると思うので、理解度も向上すると感じている。

【喜多事務局】内容につきまして使いながら変更していくと思われますので、実証実験につきましてもご協力いただき、様々なご意見をいただければと思います。続きまして日本語学校編の説明に入ります。1コマ45分程度で4コマ3時間程度を考えています。1コマ目は移動に関するシチュエーション、2コマ目は買い物や病気に関するシチュエーション、3コマ目は日本の小学校で習う算数と理科、4コマ目は自動車の基礎を学ぶシチュエーションを考えています。3コマ目につきましては、国によって勉強のレベルが違いますので加減乗除と分数、プラスからマイナスに流れる電気の流れ方を考えています。授業に取り入れることができるかどうかも含め、ご意見を伺いたいと思います。

【上田委員】日本語学校として課題に感じていることは、生活にマナーについてである。近所からごみの出し方、夜学生が集まって騒ぐ、たばこ、部屋の清掃などのクレームがあり、それが治らない。2コマ目に生活に関するマナーを入れた方が良いと思う。3コマ目の算数と理科は有効的を感じた。学費の滞納者が減らないこと、学校にお金を借りる学生が多くたが、当校では、入学前からお金の勉強・指導をしている。入学してから専門学校に入学するまでの2年計画にはなるが、支出のこと、どのタイミングでいくら必要かといったことを何度も繰り返し話している。これにより、学費の滞納者は減った。滞納する学生は数字に弱いため、入学前に数学のテストをしている。そこで一定基準満たしていれば受け入れるようにしている。このようなことから数学の要素を入れることは良いと思う。

【池田委員】カリキュラムとして決まった内容があるので、変更することは難しいが、カリキュラム外のオリエンテーションなどの際に、生活マナーやお金の支出のことや進学に必要なことなどを組み込むことはできると思う。4コマの内容は日本語教師が教えられる内容ではないと思う。

【喜多事務局】留学生に小学校で学ぶ算数レベルの習得も持つてもらえるように日本語学校で教えてほしいと考えています。

【佐々木事業責任者】AIアプリのシチュエーションについてでしたが、どの分野でも生成AIを使ったことを考えていると思われます。ただ、AIは万能ではなく、嘘をつくこともあります。AIからの解答が正しいかどうかの判断は人がやることになります。この度の取り組みも音声認識がありますが、指示命令の出し方によって答えが違ってきます。この点も

< 会 議 錄 >

開発していく必要が次年度以降出てくると思います。

（4）今後のスケジュールについて

【喜多事務局】今後の会議実施日ですが、課題分析WG・実証実験WG合同会議を1月14日（火）、第2回企画推進委員会会議1月24日（金）です。本年度委員会会議はこれですべて終了となります。

3. その他（連絡事項）

特になし

4. 閉 会

【佐々木事業責任者】お忙しい中長時間にわたり会議出席いただきまして誠にありがとうございます。また、各団体の立場から貴重なご意見も多くいただきまして誠にありがとうございます。来年度も続けることができるよう、進めていきます。本日はありがとうございます。オンラインでご参加の方は順次退出願います。よろしくお願ひいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



<会議録>

事業名	令和6年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備「自動車整備分野の外国人留学生（受入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」
会議名	第3回課題分析WG・実証実験WG合同会議
開催日時	令和7年1月14日（火）14：00～16：00
場所	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場
出席者	<p>【会場参加】</p> <p>委員：佐々木 章、脇崎敏幸、川村哲史、平岡俊弥、小林 浩、小林建次、池田 希（計7名）</p> <p>【オンライン参加】</p> <p>委員：永江貴史、阿部一則、上田直紀、ジン・マー・リン、田中秀樹（計5名）</p> <p>オブザーバー（請負業者）：吉川隆治（計1名）</p> <p>事務局：喜多好洋（計1名）</p> <p>（合計14名）</p>
【議事内容】	
<p>【目的】</p> <p>本事業の具体的な取組み内容について、各ワーキンググループ委員に共通認識を持つもらうことを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次第】</p> <p>1_ 14：00 開会（事業責任者挨拶）</p> <p>2_ 14：10 委員自己紹介</p> <p>3_ 14：15 議事</p> <p>（1）令和6年度 成果物「AIアプリのシチュエーション」について</p> <p>（2）ヒアリング調査中間報告</p> <p>（3）シラバス・コマシラバス骨子案【専門学校編】【日本語学校編】</p> <p>（4）各委員からの意見</p> <p>（5）今後のスケジュールについて</p> <p>4_ 15：50 その他（連絡事項等）</p> <p>5_ 16：00 閉会</p> <p>＜配布資料＞</p> <p>【資料1】議事次第</p>	

【資料2】会議出席表

【資料3】事業概要（PPTX）

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開会

本日は、お忙しい中会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。今年度も早いもので終わりに近づいています。これから1ヶ月ほどで成果の報告をまとめることになります。来年度も引き続き、継続できるよう残りわずかですが、取り組んでいきます。来年度も継続が決まりましたら、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。本日の会議でも、皆様の忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

2. 委員自己紹介

【小林委員】リクルート進学総研の小林と申します。高等教育の専門誌リクルート開発マネジメントの編集長しております。よろしくお願ひいたします。

【ジン・マー・リン委員】ジン・マー・リンと申します、会議に参加させていただいてありがとうございます。実証実験のご協力をはじめ、多くのことを学び少しでもお役に立てるよう努力してまいります。また至らない点も多いかと思いますが、皆様のご指導をいただきながら精一杯に取り組みたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。等

3. 議事

【喜多事務局】令和6年度成果報告に向けて、AIアプリのシチュエーションについて前回までの部分を取りまとめながら発表をさせていただきます。音声AIアプリの開発方向のルールとしまして、委員の皆様の意見をいただきながら、まず当初目的として設定いたしました。入学前準備教材の開発の有用性、また辞書や用語集のような解説をといったアプリケーションではなく、で日本語独特の特有のニュアンスの対応ということの重要性を十分確認できたと思います。また、業界や分野の専門用語のコミュニケーションツールとしての開発を目指し進めさせていただきます。また、これまでのAIアプリの登場人物に関しては、前回お話させていただきました通り実際のキャラクターは、ロボットということで実在しないものを画面に導入していく形で進めています。前回の委員会の中でも、留学生の方、要は外国籍の方々の核という部分で苦手意識を少しでも解消するために手書きでの単位の対応はできないのかといったようなご質問ご依頼の方がありました。検討をしていますが、現状では書くということよりも、話すといった部分を重視しようと思います。ニュアンスといった部分も含めた学習の場にしたいと思っていますので、原則音声でAIと対話を行って学んでいくという形で進めています。ただし、発音等の問題でAIが、認識できないこともありますので、チャットを利用して文字を入力しての会話部は残した状態で進めたいと思います。シチュエーションに関しては、当初発表しています通りにステップ1からステップ

3といった形で、初級の海外の日本語学校の学生向けのアプリケーションでN5レベルを想定して日本に安心して来ていただくといった部分を強調したものを進めていきます。ステップ2は日本国内の日本語学校の学生向けで、留学生のマナーといった部分、生活面を大きく取り上げた中で、自動車のことも少し学べる内容を作っています。ステップ3に関しましては、私共自動車整備専門学校または社会人向けの内容で進め、自動車業界に就職し、定着して頑張もらえるようなことを含めた内容で進めようと考えています。改めてステップ1ですが、1から4のシチュエーション、朝起床してから学校で学び帰宅して、夕食、就寝するまでの内容で会話をしていく。その他に例えば移動手段等に関しまして、自動車の部分二輪車もしくは自転車といった部分を含めた内容にしていく。日本でのマナーや日本文化について学ぶことが大変重要だという意見がありましたので、5番目として、日本でのマナーや日本文化についてのシチュエーションを導入したいと考えています。次に、ステップ2になります。日本国内の日本語学校向けに、入国後に留学生マナーと生活といった部分に関しまして、シチュエーションの1番から4番の移動に関するシチュエーションや買い物、病気になったときの時のシチュエーションぐらい自動車の基礎を学ぶ内容を考えていました。その中で皆様のご意見を伺い5番目の入国後、日本語学校で最初にすぐに学ぶ内容を入れるべき、発展形に対してもあると良いといった意見から、アルバイトや役所に関するシチュエーションを入れています。

【上田委員】前回会議の中での意見が入っているので、留学生が2年間日本語学校に居ることを考えると一連の流れのシチュエーションができていると思う。

【池田委員】私も同じで、学生にも役に立つ内容と思う。特にアルバイトとか役所。役所に登録するのは、かなり難しいことも含まれているのでこの内容であれば良いと思う。

【喜多事務局】ありがとうございます。役所の執筆書きも複雑でたくさんありますし、コミュニケーションの問題ございますので、工夫する必要はあると思います。また相談させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。次に、前回、日本語学校の委員の方から留学生のマナーについてご意見をいただきましたので、日本に来ている留学生が不足しているマナーに関して少し調べてみました。データが少し古いのですが、留学生だけではなく在留外国人の方72か国513名が回答しているものになります。参考程度にご確認ください。まず、日本でのルールやマナーについて調べたこと、もしくは学んだことに関しましては、ある程度の方が当然学んでおるとの回答でした。その方法や調べ方については、知人や友人に教えてもらったという回答でした。ただし、これは日本人の友人知人なのか、同じ外国籍同士の友人知人なのかといった部分が明確にデータがありませんでしたので、あやふやではありますが、日本に来る前に母国で事前に調べていたという回答が全体の半数近くの方は、母国での調べから来ているということでした。また職場の方で就職した、もしくは特定技能等で就業する際に、教えてもらったという回答の方が約40名いました。内容としましては、「知っているよ」と「知っていました」が多かったのは日本での挨拶に関する部分、また時間を守る、ゴミの捨て方にルールがあることに関しては、「知っている」が多かったというデータが上がっています。また、「知っている」が少なかった回答は、買い物に関してのこ

と、喫煙、ビジネスマナーでした。自分が知らなかつたことで困ったことについては、60%の方が、ごみを分別する捨て方が一番多かった。次に、ほぼ同数でビジネスマナーに困った苦労したとの回答でした。我々が取り組むプロジェクトで支援実施していく形をつくることが必要であると考えています。最後に参考程度ですが、母国もしくはグローバルスタンダードとして日本のマナーやルールを紹介してみたいことに関しましては、80%以上の方があるとの回答でした。一番多いのは、ゴミを分別して収集、二番目が時間を守るマナー、三番目は公共交通機関等でのマナーで乗車中に電話をしない、やたら写真動画等の撮影をしないところが世界、母国に発信したいという回答でした。少しヒントになる部分もございましたので紹介しています。次にステップ3についてです。上級編で自動車整備専門学校の学生や社会人向けの内容としまして、自動車業界へ就職し、定着してもらうための必要な知識をAIで学ぶ場を作る形で進めています。一番から三番に関しましては、以前会議でも話しましたが、自動車整備士の資格取得に向けた専門用語の部分で、漢字表記の自動車の部品で例えばエンジンのことを変動機、ブレーキのことを制動装置といったところです。また、国家試験で出てくる適切不適切といった表現に関しましても、適切でないものといったような表現も出てきますので、留学生の方はしっかりと学んでいないと適切という部分だけを拾って正しいものを選ぼうとする。適切ではないものと書かれても普段の授業の中で感じることがありましたので明記しています。足す(+)、引く(-)、割る(÷)、掛ける(×)は分かるが、加減乗除という表現になると意味が分からぬいため、このようなものも含めた、整備専門用語として一番にしています。二番三番に関しましては、実際の工具の名前や和製英語などについてです。前回、日本語ではウインカーという言葉を使いますが、海外のウインカーはウインクをする人いう意味で、方向指示器のことを行々がウインカーウインカーと呼んでこれはターンシグナルと言わないと伝わらない、でも日本で働くのであれば、このような和製英語も理解する必要があるという意味で二番目に入れています。三番目に接客の用語や整備士の先輩が扱う日本語という扱いで入れたいと考えています。四番目は、それぞれの整備専門学校で最初に学ぶ基礎自動車工学の内容やメーカーによって部品名称が違うものがありますので、そのような内容も取り入れることを考えています。また、B to B部分を含めたビジネスマナーや電話や窓口に関するシチュエーションも考えています。

【小林委員】自動車分野に関しては、日本語をしっかりと勉強してきた方でも初めて聞くことが大変多くて、そこで勉強に遅れてしまう教科書を読めないところが入ってくるものがあるので、やはりそういったところを留学前や事前に勉強できることは良いと思う。色々聞いていましたが、あのハンドルを「右に切る」「左に切る」といった「切る」という表現も、やはり難しいと思うので、そのようなことをこの機会で、学ぶことができると良いと思うので、是非このような形で進めていただきたいと思う。

【田中委員】やはり私もそうであったが、新入社員で入った時に電話の取り方を随分習ったことがある。外国の方もおそらく電話を実際に取ることが非常に多いと思うので、AIアプリで電話を取っている方、かけている方のシチュエーションの画面があると良いと思った。

【佐々木事業責任者】皆様シチュエーションステップ1から色々の場面のシチュエーション

でご意見頂戴しております。当初から専門学校はやはり高等教育機関から大学に入る要は母国で12年間の教育をしてきた、それからJ L P Tのランキングを取得しなければならないという入学条件ばかりが先行して入学した後に何が困っているのか。それはこのような場面の色々なシチュエーションが、専門学校、日本語学校、企業様もそうですが、このような場面で使う実際の日本語の場面の教育プログラムが存在していなかった。たまたま今生成A Iなどが世の中に普及してこのようなことがやれる、進学する先で困らないようにするためにこのようなツールが必要になってくると思います。上級の学校でこれらは教育すれば良いという考え方もありますが、日本に留学して2年間勉強してなおかつ日本で定着するということであれば、早くからこのようなツールに接していくかないと、覚えないといけないことも覚えないということがあります。音声の対応型A Iなので、A Iの方も対応する度に勉強していくという形になります。我々自動車整備で受託していますが、他の分野の受託機関からは非常に興味関心をもたれています。成果物を是非使わせてほしいという声もいただいています。このような場面ばかりではなく、ますます増えていくとは思いますが、スタートしては、このような内容でまずやってみようといったところで次は実証実験になります。あれこれあった方が良いものは意見を出していただければと思います。

【平岡委員】メーカーによる部品名称の違いなどの意見を反映する方向で進めていただくことに大変ありがたい。おそらく必要な日本語の知識っていうのは、収まりきらないだろうと感じている。コンテンツの拡充というか、増やしていくものがスタートしてからもあるだろうと思う。あの意見というか要望になると思うが、困っているところの教材を反映してもらえるように聞いていただけるとありがたい。

【川村委員】今ステップ1からステップ3とあるが、そのベースでシチュエーションによる言葉の言い回しが大事だと思っている。全体的なところで思ったことが、謙譲語と尊敬語があるが、日本人であれば、そのまま社会に適応できる上司や先輩といった広いところまでイメージができると思う。おそらく外国人は分からぬと思う。このステップ3の中にB to Bがあるが、おそらく尊敬語や謙譲語が分からなければ、B to Cお客様への対応が、できないことに繋がると思うので、この辺りも広げてほしい。

【脇嶋委員】当社も今留学生の方を採用しており、外国籍のエンジニアが割合で言うと10%を超えてきている。今回A Iを使ったアプリを開発進めている非常にあの外国籍の留学生の方に対してのフォーカスを当てている部分については、非常に有効的な部分と思う。一方、少し課題になっているのが、海外の方を受け入れる側の日本人の方がその海外の方へ接し方の部分で中々理解していない理解が足りてない部分っていうのが問題になってきている。留学生ばかりに日本人居られるように、日本の文化に慣れるように日本語を理解するように今までフォーカスしていた部分もあったが、今後は受け入れる日本人の方についても、外国人の方を理解できるようなそういう研修を社内でしていかないといけないという声が上がっているので、今回のこの事業で対応できるかどうか分からないが、受け入れる日本人側に対しても、この定着ができるような何かができるともっと良くなると思った。

【阿部委員】このアプリは、しっかりと1、2、3のステップを踏んでのカリキュラムとい

うか、中身になっていることと、あとやはり大切なのがその日本語はもちろんであるが、日本でのマナーあと文化、ビジネスマナーというところもしっかりと内容として含まれているので、とても良いと感じている。また、ステップ3のビジネスマナーでの電話の応対かけ方これ凄く良いと思って聞いていました。というのは、留学生に限らず日本人でも今みんなが携帯電話で個人的なやり取りしかやっていない。例えば、家にかかるくる電話を取って「誰々さんいますか」といった電話を繋ぐことの未経験者が凄く日本人でも多いと思う。留学生ところでも電話の応対は、とても大切と感じながら聞いていた。内容的には目的を考えるとしっかりと網羅できていると思う。

【永江委員】

専門学校で留学生に接する教員は、丁寧にゆっくり話そうとはするが、分かりやすく説明しているが実は業界にいる人間からしたら、当たり前だけでも初めて聞く人によっては理解できない。という言葉がたくさんあると思うので、そういうところでは今回の学習していくアプリがサポートしてくれるツールになると思うので、本当にシチュエーションはこれで結構いけると思っている。少し色々進めたものがどのようになるのか凄く興味がある。

【小林委員】初めての参加で聞きたいことがある。このアプリは教材という位置づけと考えていいのか。

【喜多事務局】はい。

【小林委員】リクルートでも高校生向けや社会人向けにスタディサプリを提供している。この教材での第一段は、どこまで知識が定着したのかということが次のステップに必ず出てくる。今日、ここでは確認できなかったが、テストみたいなものは入っているのか。テストについて二つ重要なことがある。例えば、このシチュエーションごとに簡単なテストをやってみると絶対間違える。間違えて駄目だということではなく、もう一度自分で勉強し直せるような知識を定着させるような仕組みであること。もう一つはこの事業は4年の事業なのでもっと発展させていく、他の事業でもこれを使いたいといったときにどこで、学生が間違えているのかというログを溜めることで、次の開発のステップに進む場合、どこに力を入れていくのかに繋がっていくと思うので、そのテストと次の開発に向けてのロードを取っていくということが裏側で重要なことと感じた。

【佐々木事業責任者】小林委員の言う通りで、どのように強化していくのかということと、それを次のアクションにどのように繋げていくのかというP D C Aサイクルが入ってそのためにも、A Iでデータをログも含めて積み重ねていくことになっていくと思います。今回、専門学校で、こういった外国の日本語学校から入国して進学する、色々な日本語学校から進学して就職するプログラム開発は、大学でも同じようなことを行っている。ただ、見ているとなかなかこういったシチュエーションを想定したA I開発は、大学でも見当たらないような感じです。要は日本語検定をどのようにしたら受かるのかといったようなプログラムが非常に多くい、しかし今までそのような形でJ L P Tに受かって入ってきててもついていけないということがあります。そこでどのような問題があるのかは、やはり洗い出していかないと次のステップに進めないと私は思います。専門学校で学ぶ専門分野は非常に難しい、日本人です

ら難しい、そこに留学生がたくさん入ってくる。そして労働力としても定着していかなければならぬといつたことになるには、日本の文化はもちろんのこと我々日本人もこういったものがあるということを前提にして、接していくなければならないという両方の価値が必要になってくる。開発してみる価値はあると思っています。来年の課題としては、そのステップごとのあの成果をどう判断するか評価していくかというところを入れていきたいと思っています。

【喜多事務局】ヒアリング調査ですが、前回までに何度もお伝えしています通り、実際いたしましては、日本国内の日本語学校を5校、海外の現地の日本語学校を5校、自動車整備系専門学校を5校、企業を5社、全部で20件のヒアリング実施で進めています。実施期間は1月下旬までといった形で直接訪問、もしくはオンライン等で実施しています。今現在、日本の日本語学校4校が終了いたしました。ただ、1校ヒアリングができない日本語学校があります。オンラインでのヒアリングを行う予定でしたが、今現在アンケートに切り替えて対応していますが、回答は今現在忙しい状態ですので、難しい場合は、1校どこか当たってみます。海外の現地の日本語学校に関しましては、ヒアリングの依頼をしていますが、苦戦しているところで、引き続き伝え続けています。自動車整備関係の専門学校に関しましては、5校終了しました。企業に関しましては、北海道や東北地方、四国・中国地方あと関西で終了しています。これらの回答の方を少し整理してお送りしています。皆様のお手元の資料は、各ページの上側がヒアリングの項目で下側回答といった形で調査内容報告をしていきます。まず、日本国内の日本学校ですが、留学で日本に入ってくる時にどの分野に進みたいと、考えているのか例えばはじめから決めているのかといった質問に関しましては、半分程度の学生は元々のとは、違う分野に進んでいる状況でした。また、推薦できるグループ校がある学校に関しては、60~70%の学生は入国した時の思いの通りで進学しているとの回答でした。2番目の学生が進路先を決定する時期については、学校によって様々でした。10月、もしくは11月に入った場合、1年生の後期から説明会等に参加する逆に前期の7月のJIPトの試験が終了したら、すぐ就職活動もしくは進学活動に入るといった学校がありました。3番目は学習募集についてどのような方法で行っているのか、受け入れどのようなところが多いのでしょうかといった質問になります。日本学校が日本国内どの地域にあるかで結構差がありましたが、全体的に見まして、ネパールがやはり最も多く、その他アジア圏の15カ国ぐらいの学生の国名が上がっていました。例えば、ミャンマー、ネパール、バングラディッシュが80%、スリランカとベトナムがそれに続く、中国から日本国内への留学生の数は全体では最も多い数になっていますが、専修学校になかなか進学してこないので、当校でもそれほど多くはない。ただ、九州の日本語学校を持っているところは、中国からの入国も多く見受けられました。4番目のいつ頃入学を受け入れていますかといったことに関しましては、4月期生が大体60~70%、10月期生が残りの30~40%、1校だけではありましたが、1月生を受け入れている学校がありました。5番に関しましては、学習スケジュール、内容になります。5番6番つながっている質問になります。最も多かったのはJLPT等の日本語能力試験で、授業全体の半分50%で、それ以外のテキストを使つ

た内容が50%といった割合の日本語学校が多かったというのが現状です。中には時間を定めて、例えばN4レベルで100時間と定めてそこの勉強をさせる。そのうちクラス替えを行って上級クラスに関しては、更なる上級のN3、N2、N1コースをさせるために授業のほとんど全部80~90%を日本語能力検定等の勉強に充てる。逆に初級クラスに関しては日本での生活のために検定試験の勉強は半分程度に抑えているという学校もありました。

同じように企業の割合内容について6番目を利用していますが、一番多かったのは日本語能力検定試験もしくは日本語検定試験を中心に行っている日本語学校が多かった。JLPT日本の資格の運動に関しては、考えていないという意見の学校もありました。また、先程のAIのシチュエーション等の時に何度も出てきていますマナーと日本文化等についても、そのような日本事情についての授業は行ってなく、資格を取る学びに重点を置いていました。マナーについては入学時点のオリエンテーションで学ぶ学校が大変多い印象を受けましたが、その中にオリエンテーションの後日に警察の方に来てもらって日本の警察とはこのようなものであると留学生が知っておくべき法律について学ばせている学校がありました。その際には、警察官の方には制服をあえて着用した形で授業をしてもらう。そのことによって学生達の集中力が上がっていますとのことでした。少し飛ばして8番目になります。留学生の管理状況等生活のサポートなどで苦労していること、時間の掛かるところにつきましては、やはりその寮の管理と見やすい施設がないので教育の負担が大きいというご意見が多かったです。また、自転車のマナーやクレームが大変多い、もしくは交通事故についてです。日本人の交通ルールの知識と留学生の知識が違うのか、認識が違うのかもしれません、そういった部分の意見がありましたので、こちらの方も留学生が学ぶ必要性があると考えます。その他に関しましては、資料の後半に示しています。続きまして、自動車整備専門学校のヒアリングになります。こちらに関しましては、前回の12月の委員会の際には先程の5校のヒアリングが全て終了して発表させていただきましたので、今回の発表は控えさせていただきます。資料には記載しています。三つ目の企業ヒアリング項目について説明します。一つ目の外国籍の方の採用をするきっかけ経緯といった部分に関して、ヒアリングしました。やはり1番多かったものは従業員の確保、もしくは日本人の減少が部分ではありました。ダイバーシティを含めた多様性を推進している企業ということで、その企业文化の一環として外国籍の従業員の確保として採用を始めたということでした。結果として今外国籍の雇用が増えているといった企業もありましたし、自動車メーカーの方から学校を通じて、外国籍の方の雇用を依頼されたので、試用雇用、試験雇用を行ったところ日本人以上に優秀であったことからセールス採用をスタートしましたという企業もありました。2番目の日本語検定を取得している日本語検定のレベルと、日本語でのコミュニケーションのレベルは一致していますかに関しては、これちらの方は一致しているという企業もありましたが、原則としては、個人差はあるものの一致していない差異があるとの回答が大半を占めていました。日本語検定と資格を一切あてにせず、独自の基準で判断しているといった回答の企業もありました。その際に、独自の基準内容を質問したところ、基準というか担当者との会話やアンケートを記入した時のその記述の内容等から判断しているとのことでした。少し先に飛んで4

番目になります。外国籍の従業員の方の給与手当昇給昇格つまりチャンスについて、日本人の正社員の方と同じかどうか聞きました。原則として日本人と同様であるという企業が全てでした。逆に外国人の社員のみに支給する手当がある企業もありました。評価が日本人と同じということでしたので、例えば評価シート等について聞いてみたところ評価指標も日本人と全く同じものを使っているという回答でした。昇給に加えて昇格も当然同様であるその企業に関しては、エンジニアリーダーもしくは工場長クラスでしたが、外国人の方が上司で日本人の方が部下といった企業の方ありました。5番目は外国人の方の研修について聞きました、自動車の研修に関しては日本人と同じ、外国の外国人の社員のみ定期的に日本語やマナーの社会研修を行っている企業が全体と通して多かった。複数の企業に関しては、この研修時の食事について食べられないものがないか、要は宗教的に食べてはいけないものがないかといったことの確認を必ず怠ってはいけないと考えているという回答がありました。あと6番目7番目に関しては、ビザや更新等についてとなりますが、こちらの方は企業によって差異がありました。外部の担当者を設けているもしくは全て行政書士に任せているという企業と本人に全て任せるという企業がありました。逆に総務課が全て行っているとの回答でした。どの判断が正しいといった決めつけるものではありませんが、やはり負担感の少ないように感じ取られる企業は外部の方に業務委託していて、当然のことながら負担感が下がっているという結果でした。まだあの海外と現地の日本ヒアリングが進んでない状態なのですが、ヒアリング全体を通して、ご意見やご質問等がございましたら、よろしくお願ひいたします。(特になし)

【佐々木事業責任者】ヒアリングで色々お聞きしましたことを成果物の一つとしてA I テキストマイニングしようと考えています。どのような頻度が多いのか、どのような意見が多いのかといったことをビジュアル的に取り入れようと思っています。次回の会議で示すことができると思っています。

【喜多事務局】シラバス・コマシラバスの説明に入ります。まず、専門学校編骨子案のコマシラバスになります。1コマ90分からの授業という形になります。4コマ合計で6時間授業を想定しています。内容としては、少し絞ったような状態で進めさせていただいております。その際に前回の委員会でお聞きしましてA I アプリの中にそうですね。自動車工学的な内容もしくは計算問題等について入れられるのであれば、こちらを活用することによって教員の方々の負担軽減につながるのではないかといったご意見いただきましたので、シラバスを作る際にはこのA I アプリを取り込んだようなシラバスとして完成させていき実証実験に繋げたいと考えています。それぞれの今も内容に関しては、前回発表していますので控えさせていただきます。もう1点、日本語学校の骨子案を前回発表したものを見ています。こちらは4コマ、1コマ45分、全部で3時間程度の内容となります。前回のご意見の中に生活に関するマナーを取り組むべきではないかとご意見がありましたので、2コマ目に生活に関するマナーを入れています。また4コマ目の部分に今現在予定しています。自動車の基礎を学ぶシミュレーションとして、例えばですが、自動車という表現と車という表現について日本人は同じと認識する。バイクという表現と二輪車という表現についても日本人

は同じと認識するといった内容、もしくは簡単な自動車部品難しい内容もあると思います。例えばエンジン、タイヤ、ステアリング、ホイールつまりハンドルといった部分を4コマ目に取り入れたいと思っていますが、前回の委員会の中で、日本語の教員が教えることは、困難ではないかというご意見もありましたので、今回ご相談したいと思います。今現在開発を進めているA I アプリを活用して日本語学校の先生が、授業を行うことは可能でしょうか。ご意見をお伺いしたいと思います。

【上田委員】どのような自動車の基礎の内容の授業をするのかお聞きした上での判断にはなると思うが、一定期間当校の教員に教えてもらえば、基礎ということで内容としては対応できると思う。実際に他の分野ではあるが、外部の研修に当校の教師出して一定の基礎知識を身に付けて日本語教育以外のところもやってはいるので、そういう意味では可能と思う。

【喜多事務局】ありがとうございます。前回の委員会の中で、日本語の授業のカリキュラムが決まっている関係上、新たに授業を取り入れることはなかなか難しいのではないかといったご意見もありましたが、そういう部分に関しては、どのようにお考えでしょうか。

【上田委員】通常の授業以外で、やることを想定はしているので、そういう意味では特にあの時間は通常の授業の後や前で時間を取ることは可能だと思う。

【池田委員】まず、この自動車基礎の部分だが、日本語の授業するにあたってこの言葉を覚えたらこの文法で何ができるかということが重要で、そのどういったことを授業とするかということになる。その言葉を覚えることが目標ではなく、その言葉を使ってどうするかっていうものがあれば教員とともに凄く教えやすいと思う。同じように2コマ目のマナーを教えるということも電車内で、あの今決済手段あるからそれをどうやって使うとかあの生活に関するマナーでもゴミの出し方をまず教えて、そのゴミを出した時に大家さんとどのようなコミュニケーション取るかとかそういう感じで何ができるかっていう視点で組み立てると面白いと思う。

【喜多事務局】カリキュラムとの関連性についてどうでしょうか。

【池田委員】授業の決まったカリキュラム以外でやるのであればできると思う。

【喜多事務局】現在のA I アプリの開発の進捗状況について伺います。どのような状況でしょうか。

【吉川オブザーバー】本日はオンラインで失礼いたします。今の進捗の状況ですが、シミュレーションをある程度入れて今年度中はデモ的なものができればということで進めています。可能であれば今月最後の企画推進委員会会議の場で、イメージ的なものがお示しできればといったところです。今技術者と詰めている段階で確約のご報告はできないところですが、そこに向けて進めています。

【喜多事務局】ありがとうございます。皆様全体を通して、ご意見やご質問の方はございませんでしょうか。今後スケジュールですが、次回は1月24日（金）企画推進委員会会議の予定をしています。よろしくお願ひいたします。

【佐々木事業責任者】皆様ありがとうございます。次回が会議最後となります。次回ご都合が合わなくて欠席される委員の方につきましては、事務局より資料をお送りいたします。今

<会議録>

後とも皆様のご協力のほど、よろしくお願ひいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



<会議録>

事業名	令和6年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備 「自動車整備分野の外国人留学生(受け入れ/在学/就職/定着)のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」
会議名	第2回企画推進委員会会議
開催日時	令和7年1月24日(金) 14:00~16:00
場所	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教場・オンライン
出席者	<p>【会場参加】</p> <p>委員：佐々木 章、杉本康幸、脇崎敏幸、川村哲史、平岡俊弥、細谷昭央、乘地博之、土井宏美、小林建次、池田 希（計10名）</p> <p>オブザーバー（請負業者）：吉川隆治（計1名）</p> <p>【オンライン参加】</p> <p>委員：大門 剛、阿部一則、上田直紀、稻永由紀、細野康男、入江 剛、小林 浩、ガヤニ・チャンドラシリ（ジャナカ・ジーワナ氏代理出席）、岡村慎一、田中秀樹、（計10名）</p> <p>事務局：喜多好洋（計1名）</p> <p>（合計22名）</p>
【議事内容】	
<p>【目的】</p> <p>本年度の本事業の取り組みを委員へ報告することを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次第】</p> <p>1_ 14:00 開会（事業責任者挨拶）</p> <p>2_ 14:10 議事</p> <p>(1) 令和6年度事業成果報告書目次（案）</p> <p>(2) AIアプリ開発（デモ版紹介）</p> <p>(3) ヒアリング調査報告</p> <p>(4) 各委員からの質疑応答</p> <p>4_ 15:50 その他（連絡事項等）</p> <p>5_ 16:00 閉会</p> <p><配布資料></p> <p>【資料1】議事次第</p> <p>【資料2】会議出席表</p> <p>【資料3】事業概要（PPTX）</p>	

【資料4】音声A I デモ版

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開会

【喜多事務局】定刻になりましたので会議開催いたします。皆様本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。令和6年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備「自動車整備分野の外国人留学生（受け入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」第2回企画推進委員会会議を開催いたします。よろしくお願ひいたします。

【佐々木事業責任者】お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。今回の会議が本年度最後となります。これから文部科学省へ報告書と成果物の提出に向けて整理まとめ作業をしていきます。また、皆様には作業途中でメール等にてご連絡をする場合がございますので、その際には、忌憚のないご意見をいただき、来年度の課題とさせていただきたいと思います。

会議の中でこの度の音声A I アプリの簡単なデモをご紹介いたしますが、なにぶんにも手探りの状態で色々なシチュエーション、海外の日本語学校、日本の日本語学校、日本の専門学校、企業いう各段階のシチュエーションに沿った形の音声A I アプリ開発を考えていますが、物足りないところが多くあります。使用方法などこれから精査して開発していく必要がございます。本日は足りない部分を承知の上で後ほどご紹介いたします。本日はよろしくお願ひいたします。

2. 委員自己紹介

【乗地委員】京都府自動車整備振興会の乗地と申します。今回は初めての参加となります。よろしくお願ひいたします。

3. 議事

【喜多事務局】今年度の総論的なものを述べます。外国人留学生を受け入れるといった部分で、環境整備を整え、それらの課題を解決すべく、文部科学省委託事業として本年度から4年間のプログラム開発事業が始まりました。本校が委託しました事業に関しましても、皆様のご協力をいただきながら、1年目がもうすぐ終了となります。日本の自動車産業への就職を目的とあわせて日本語の習得や国家資格等の取得推進を狙いとし取り組んでいます。留学生が専門学校等に進学する際には、母国の日本語学校で日本語を学んだ後日本国内で更なる日本語学校に進学といったスタイルが一般的となっていますが、日本語学校での学びに関しては、日本語自身の取得、もしくは日本語検定の取得が学びの中心となっており、自動車整

備分野の専門分野の日本語習得は不十分な点が目安となりました。それに伴いまして、自動車分野の進学を見据え、対話型AIアプリのシチュエーション及びコマシラバスに関して、協議を重ねることで方向性を生み出すことができました。

留学生が入国してから日本学校、専門学校、そして就職といった過程の中で、各分野に対してヒアリング調査を行いました。キャリアによって課題を充実する中で日本語検定取得している日本語検定のレベルと実際のコミュニケーション力との乖離、また外国籍の方の日本事情つまりマナーとの問題が浮き彫りとなつたため、AIアプリやシラバス等に反映することにしました。

人材を確保し、就労関係を維持するために各学校や企業、また各関連団体とコンソーシアムなどを形成し調整や調査、モデル開発が必要であるといった中で、留学生の受け入れ方就職の定着までのプロセスを円滑に進めることが重要であるといった共通認識が得られていくと考えています。こちらは、今年度行いました委員会会議とその際の出席者数及び主な議題を掲載しています。会議は合計6回行い、ご意見をいただきました。

このような今年度の活動を報告書にまとめて3月の第1月曜日に文部科学省着で提出完了する。2月中に全てのものを整えて成果報告書等を文部科学省や委員の皆様のお手元に届けたいと考えています。その目次案として第1章では事業の概要趣旨目的から各会議の内容を掲載。第2章では、令和6年度の活動内容の詳細を第3章はまとめを掲載し、巻末第4章に会議録を掲載する方向で今のところ考えています。作成を進めることで内容が多少変更する場合がございますので、その点はご了承いただきたいと思います。

さらに、AIアプリのシチュエーションに関しまして、何度も皆様と意見交換の方をさせていただきながらステップ1の初期からステップ2の中級、ステップ3の上級までの内容をどのようなシチュエーションを組み上げていくか、5つ6つのシミュレーションをベースに進めてきました。本日は、デモ版のAIアプリをこれからお見せします。今現在のキャラクターは仮で入れています（対話型AIアプリのデモ版を見せる）。

【佐々木事業責任者】少し簡単にお見せしましたが、それぞれいただいているシチュエーションを読み込ませていないといけないということと、ただ単にこのアプリを質問して答えるということでは、普通に市販されているAIと変わりません。何に特化した形のAIアプリなのかというところを示さないと成果になりません。その特化した形をテキストベースでお見せしようと思います。

それにもう一つ、これに対しては教育をしていかないと上手くいかなくなります。今後来年度以降そのプロンプトの命令指示の出し方をきちんと教育していかないといけない課題がおそらく出てくると思います。今は初級編という形で、シチュエーション考えてデモを作っています。これが中級編と上級編といったレベルが上がっていくことによって、どのようなシチュエーションを読み込ませ、覚えさせることをしていかないと成果が上がってきません。さらに、質問しても完璧な答えが返ってくるものではないので、会話を続けていく中で、回答が精緻なものになってきます。これらを前提として皆様方にデモをやっていただきたいと思っています。質問したのに全然答え書いてこないということは必ず出でてきます。ただし、

それは続けていくことによって変わってきます。

対話型は、一言で終わりません。一言質問して一言返ってきてそれで完結するものではございません。そこを前提として後々皆様方にデモを体験していただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【喜多事務局】こちらのデモ版A I アプリに関しましては、本日会議資料をお送りする際にURLをメールでお送りします。実際に使用していただきまして、感想もしくはまた問題点等をお聞かせください。また使用に関しましては、委員の方のみでよろしくお願ひします。続きまして、今年度取り組みましたヒアリング調査の結果を報告いたします。こちらは昨日1月23日時点のデータとなっています。目的、実績、実施予定数は、記載の通りです。日本国内の日本語学校から企業を含め、20件以上のヒアリングを実施する方向で進めています。今現在右側に記載していますように、16件のヒアリングが終了しています。ヒアリング調査の内訳も記載しています。

日本国内の日本語学校では、今現在ヒアリングの回答待ちの学校があります。ちょうど忙しい時期に入ってきたので、ヒアリングの回答が得られない可能性があります。そのようなことも考えまして、今年度ターゲットにしていますターゲットの国から入学者が多いであろうと思われる関西圏の学校にこちらからアプローチを取り、ヒアリングの日程を現在調整しています。また海外の現地の日本語学校のヒアリングに関しましても各学校に連絡を取っている状況です。

次に企業向けのヒアリング調査の項目です。記載内容は、前回までの会議の中でお話しましたものを文章化したものですので、一読いただければと思います。今回ヒアリング調査の内容をテキストマイニングにしてみました。テキストマイニングは一般的になっていると思いますが、AIを活用して文章からテキストデータをフレーズや単語に分解して解析し、情報を抽出する分析手法としています。また、感覚的に大変掴みやすい資料として使用されていますので、今回の会議資料にも利用しました。

まず、企業全体のヒアリング内容をテキストマイニングしたものです。テキストマイニングに関しましては、文章中にどの単語が数多く出てきているのかをスコアつまり大きさとして表示をされます。たくさんの回数が出てくればスコアは高くなりますが、文章中に多く出てくる言葉、例えば「言う」「思う」というものは、スコアを低めにどのような文章でもよく使われる言語単語に関してはスコア低めにいったような部分があります。また記載されています色ですが、青色は名詞、赤は動詞、緑が形容詞で色付けされています。感動詞に関しては灰色を使っていますが、今回感動詞はほとんど見受けられない状況です。企業のテキストマイニングの総合を見ますと、日本語検定のレベルに注目していることが凄く感じますし、大変嬉しく感じたのは、「外国人」「日本人」「社員」「昇給」といった言葉が大きめに同じ大きさで出ていました。各企業が外国籍の方を日本人と同様扱っていることが感じられたところでした。

逆に、「個人」や右上の「優秀」もしくはその下の「積極」といったような言葉が、まだまだ小さいといったことに関しては、今後も大きくなつていける手伝いができればと考え

ています。以降のページ一つ一つのヒアリング項目もテキストマイニングで分析した内容を記載いたしましたのでご覧ください。その中で少し取り上げてみます。

18ページの6番目のサポート体制についてヒアリングした際には、やはり在留資格についてのサポート、また入管のサポートといった部分が、大きく取り上げられていることがはつきりと表れています。

7番目の就労ビザへの切り替え等について困ったことはないでしょうかとの質問に関しましては、「入管」の次に「在留期間」「在留期間の更新」また「就労」が、ほとんど取り上げられていて、在留期間が特に短いといったような相談が多く見受けられた結果となっています。

続きまして、日本国内の日本語学校に行ったヒアリング調査の結果です。前回までの発表内容を文章化しています。テキストマイニングでは、このような状態になっています。「進学」が最も大きいのですが、今年度ターゲット国にしています「ネパール」「2名」もかなり大きく表れています。

また、「学費」も大きく取り上げられている結果となっています。別の項目で1番上の留学生の方が求める分野、つまり留学生が進もうと考えている分野は日本国内の日本語学校に入学したその当初から決まっていますかといった問い合わせに関しては、決まっている形での回答ではなく、専門課程、あるいは専修学校という回答傾向がテキストマイニングからの結果になっています。その中で推薦入学を希望している学校が多いという形での結果となっています。そのような留学生が入国する国としては、3番目に出ていますが、今年度ターゲットとしています「ミャンマー」「ネパール」「スリランカ」が大変大きく取り上げられた形となっています。

また、「バングラディッシュ」も上がってきています。こちらは増えてきているという学校がありますし、逆に左側上に小さい文字ですが、ベトナムに関しては、ヒアリングを行う中では減っているということでたくさん使われた言葉となっています。

さらに気になることは、7番目の留学生の学費の支払い状況についてです。やはり「返納」もしくは「学費」「資金計画」「支援」といったような言葉が強く反応しています。

また、留学生の管理状況についてもっとも大変なことはといった質問に関しては、圧倒的に生活指導でした。今年度成果のA I アプリやシラバスに入していく方向が正しかったと感じています。

次は自動車整備系専門学校のヒアリング調査の報告の総論です。こちらも先程と同じようにこれまでの内容をまとめたものとなっておりますので、ご一読願います。専門学校ですので、「留学生」「日本語学校から」「N2レベル」といった表現がヒアリングの中でもたくさん出ておりましたので、その通りの結果となっておりますが、やはり左側の「学費」真ん中の「離職」などが言葉として大きく出てきています。

また、留学生向けの奨学金についてもヒアリングの中で質問を受けることが大変多くありました。各項目別に見てみると、留学生の自動車に対する興味が増えていましたかといった内容と日本語レベルについてですが、日本語レベルで言葉としては、N2が1番多く出てき

ていますが、各学校ともN2の学生を育てる、卒業時点では最低でもN2を取らせるといったような回答結果がテキストマイニングに反映された形となっています。入学当初はN4もしくはN2・3レベルといった話でしたので、テキストマイニングではN3・N4で取り上げられています。

問題となっていることは3番目の分納です。分納、経済状況、学費、他に運転免許もヒアリングをする中で相談を受けた内容となっています。

5番目の留学生を受け入れるにあたって学習面と生活面での指導については、生活の指導もしくは生活支援といった単語が大きくスコアを伸ばしています。同時に金銭問題という言葉が出てきました、今、私共は取り組んでいますが、「独自のプログラムはありません」といった回答の学校がほとんどであったため、今回取り組んでいる内容をプログラムとして組み込んで使っていただければと思っています。

自動車整備系専門学校の最後の9番目は、就職先での定着の状況勤務年数についての内容です。「離職」「離職を防ぐ」といった単語もたくさんありましたので、合わせて反応していると思われますが、「離職」という単語が多く出てきている。あとは「卒業生」「離職率」といった表現が大変多くありました。まだまだ左側の「定着」という言葉が小さいことを意識して進めていきたいと考えています。

また、前回までも何度もお話ししていますが、海外のターゲット国に関して苦戦していますが、ヒアリング項目の要約を今回掲載しています。シラバス・コマシラバスについて、各委員会においてご意見をいただいたものを骨子案として自動車整備関係の授業は、4コマ6時間の内容のシダバスとコマシラバスを作成します。自動車整備士の資格取得に向けた専門用語から自動整理業界で必要な日本語といった内容です。日本語学校のシラバスとコマシラバスについては、日本での生活と自動車というタイトルのもと4コマ、1コマ45分と考えて3時間で考えています。もう少し幅広く取り組みたいというところもございますが、授業の時間数にも限りがありますので、今はこの方向です。そこには、4コマ目に自動車の基礎を学ぶシチュエーションを想定していますが、各日本学校の委員の方から、日本語学校の先生が自動車の専門のことを教えるのは難しいという意見は当然いただいています。AIアプリを活用して補助していく方向で進めています。次年度は今年度の成果をもとに実証実験を行い、課題を抽出する。委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。

【大門委員】アプリ、ヒアリング調査、シラバスを確認した。これを基本的に運用していく中で、今後色々な改善点は出てくるとは思うが、専門学校や日本語学校、企業側に良い方向に変えていけると良いと感じた。これが上手く運用できるようになると個人的にも助かると感じた。

【阿部委員】学校のヒアリングやAIアプリ開発と大変だったと思います。短い期間の中でこれほど成果がしっかりと出せるのはすごいことと思った。先程のステップ1のAIとのやり取りを見ていたが、イメージしていたものよりも出来が良かったというのが率直な感想。初級ということで、意識したものと思うが、内容もそうだが、会話のスピードもゆっくり目で、しっかりと聞き入れることができる。これをもとに2年目3年目と色々アップ

きることを期待している。成果物のA Iがとてもよくなっていくと感じている。

【喜多事務局】ありがとうございます。A Iの会話のスピードに関しては、今回初級編といったことで、ゆっくり話してくれるというような形で進めました。また、パソコンで使用する場合と、スマートフォン等で使用する場合では、その使用性についての差の方がまだあります。本日URLをお送りしますので、パソコンやスマートフォンで入ってみていただいて、多くのご意見をいただけますと、より良いものになっていきますので、よろしくお願ひいたします。

【上田委員】成果物としてすばらしいものができるのではと感じている。A Iについて、日本に来ている留学生を対象に日本語学校で活用することはすごく良いものであると思うが、実際に入るには、半年ぐらい前にあの申請するので、あの合格が出て半年間の期間が空いてしまう。留学生も日本に来る前に日本語を勉強する人、しない人はいるが、日本語学校に入学する前の半年の時間に事前学習的にA Iを使って気軽に学べるようなものになると効果的でなくなると思った。日本語を読むこと話すこと、聞くことでコミュニケーションができるようになっていく、その中でやはり話すことが大事。日本に来る前に色々な条件の中でも少しでも話せるようになるところに近づけられるものにしていってほしい。

【喜多事務局】ありがとうございます。日本国内に入ってくる前の留学生にも活用いただけるようなことも考えています。よろしくお願ひいたします。

【杉本委員】ヒアリング調査の結果などを見て、問題点、課題点っていうところのキーワードは弊社の状況と一致していた。文化の違いなどおそらく日本に来る中ですごく不安な部分だと思うが、日頃の学校の中で学びながら、A Iアプリを使いながら周りの輪を広げていくことはすぐ良いプランであると思う。今回A Iアプリについてもテスト版を触れることができることなので、協力できることはしていきたいと思っている。

【佐々木事業責任者】前回の会議で指摘がありましたが、要はA Iアプリを使うことは良いが、ログをどのように管理していくのか、管理の方法が必要になっています。勉強をする人、しない人、どこまでしているのかということを管理していく必要性が当然出てきます。単にアプリだけ渡してあとは自分でするようにでは意味がない。そのようなログの管理が次年度以降でも課題になってきます。ただ、このA Iアプリは、J L P Tの何級の資格を取るためのA Iではないということを勘違いしないように是非お願ひします。資格取得の部分は日本語学校側でしっかりとやっていただきたいと思います。でも、資格取得だけでは補えない上級学校に行った時に補えないシチュエーションに対するものをここで開発していくことが当初から方向性です。よろしくお願ひいたします。

【脇崎委員】今回生成A Iを使ったアプリの成果物を見て、非常におもしろいものが出来上がったと非常に楽しみにしている。今後実際に外国籍の方、留学生の方がアプリを使う中で、どうしても日本語のイントネーションといった難しいところがたくさんあると思う。そういったところをこのA Iアプリがどこまで認識できるのか、そういったところも今後上手く認識できるようなアプリにしていくと非常に有効的に使えるのではないかと思った。一つ今後興味ある部分としては、このA Iアプリで、例えば母国語で会話をした時に日本語で回答が

あったりとか逆に回答に対して母国語での翻訳での回答があつたりとか、留学生なので日本語でのやり取りを勉強していかないといけないが、なかなか日本語の理解が進んでいる人も少ないとと思うので、そのようなところを補う部分として母国語でのやり取りができるようになると、より一層留学生の方も使いやすいツールになると思う。今後色々バージョンアップしていく中で、そのようなところも楽しみに今後も協力していきたいと思う。

【喜多事務局】お話の通り、イントネーションに関しては、AIが聞き取れないことがたくさんありました。ただ、何度も話をしていると学習を重ねているので、先程の結果はどうでしたかといったような質問をしてくるようになってきますので、イントネーションも当然AIに教えていく、学ばせる必要性はあるとは思いますが、おそらく留学生に関しては、読む、丁寧にしっかり日本語を話すといったような形での学びになると良いと思っています。

【川村委員】話す、聞く、あと生活習慣に困っているということが見受けられます。AIアプリができた時にそのアプリの中の情報量が蓄積された中で、それが留学生の方にプラスになるように働けば現場に出たときにその違和感や違いが無くなると感じていて、すごく興味がある取り組みと思っている。

【佐々木事業責任者】日本語で質問して日本語で返ってくる、英語で質問して日本語で返ってくる、英語で返ってくる、色々なナレーションは作っていく必要はあるが、ただその回答が正しいかどうかのフェイクチェックを必ずしていかなければならない。今の状態で質問して回答してきますが、違った単語やワードで返ってくることがあります。その部分をどのように取り組むのか来年以降の詳細な課題になってきます。AIは呼び込ませれば呼び込ませるほど精緻なものになってきますが、ある程度仕様書という形で作る必要がある、そうでないと必ず様々な問題が起きます。チェックをどのようにしていくかが本当の課題になってくると思います。

【平岡委員】AIアプリに関しては、我々企業の声を取り入れてもらい、大変ありがたいことであると思う。一方、今まで取り掛かっていたテーマが日本語力の向上だった。この事業の来年使えるという、戦略的受け入れであるとか円滑な就職定着に向けて体制っていうところであるので、今後その辺りで企業としてこうあるべきといったテーマに移っていくだろうと想像している、協力できるところはしていく。

【喜多事務局】ありがとうございます。お話されました通り、この事業の最終的な成果・効果の中に当然ながら外国籍労働者の方や留学生が日本国内各企業に定着して頑張ってもらうベースを作っていくことになります。例えばインターンシップ等プログラムの中に入った計画を考えていますので、引き続き相談させていただきます。よろしくお願ひいたします。

【細谷委員】この半年間の会議を振り返って、皆様から様々なコメントを聞くことができ、非常に参考になったなというのが率直な感想です。我々はまだ留学生の採用には至っていないという状況ではあるが、非常に今後に向けて参考になる会議体であった。もう一つは、各企業や各学校のヒアリング調査結果も本当に非常に分かりやすく現状の実態が見えたというところが感想としてある。最後にAIアプリに関しては、これから留学生の方々主役である留学生の方々が非常に魅力を感じて、これを使っていただけるように少しでも我々の意見

を出していきたいと思っている。

【稻永委員】半年よりも短い期間でここまでよくまとめている、三位一体となって色々な活動をしていることがよく分かり、色々勉強にもなった。気が付いたこととして、一つは、A Iアプリはすごく面白いと思いつつ女性参加が少ないものもあると思うが、キャラクターが女性で典型的な日本のアニメとなっていて、人種の配慮をどのようにすれば感じる。また、このアプリは日本語検定用ではなく、日本語検定でも対応できる、今の教育ではできないところを補完するようなものとして考えると、特に上級編になるところの自動車を整備するという現場に関して対面の方が上手くいくと感じた。

よって、アプリでないとできないもの、アプリより他の手段の方がむしろ上手くいくものがある。アプリを取り入れた色々な方法とのコンビネーションの良さで、もっとあの高めていけるのではと思った。最後にテキストマイニングだが、実際にすごく見やすい。ただ、用語同士の関係で句読点が入っていないのではと思う。よく起こりがちなものは、概要ストーリーだけでまとめてしまおうとすると本来つながっていない用語も感覚だけでつながってしまう。ストーリーを作つて結果を出してしまうというようなことになりかねないと思う。今回は見やすいようにしたと思いますが、分析をしたいということであれば次のステップで分かれている内容をまとめて正確に反映していくようになっていくといいと思った。

【喜多事務局】A Iアプリのキャラクターに関しては、ロボットのような実在しないもので対応する方向性になっています。デモで作っている関係上、まだキャラクターが間に合っていないという状況です。

【細野委員】A Iアプリの独自化が課題で、市販のものでできる部分であれば意味がないという趣旨で捉えている、その上で独自化をするために独自のデータの収集は必要と思うが、どういうデータをどのくらいの量と考えているのか。

【佐々木事業責任者】事前に揃えて決まった形ではしていません、色々なシチュエーションで気付いたものを入れて、A Iがどのように反応していくのか見ている状況です。日本語学校に在学中の場面、専門学校に在学中の場面、企業で就労の場面と色々なシチュエーションで言葉が違ってくるということが日本の場合は非常に起こり得ているため、J L P Tの2級を取得していても、入社時は良いかもしれないが、実際に仕事をする場面においては、日本語が通じなくて役に立たないという場面を想定して今回スタートしました。これからを期待していただければと思います。

【入江委員】成果物対話型A I音声アプリを見たが、短期間でここまで作り込んでいることに驚いた。この先々ステップが上がっていって上級のやり取りがどのようになるのかすごく見たいと感じた。今は留学生の数が年々増えてきていて、日本人の高校生も減っている中で実際は専門学校の進学は結構留学生によって増えているとも言われている。その中で様々な国の人留学生が増えてきて色々なツールというニーズが大変重要になってくると思う。今後また色々な成果の話を伺えればと思う。

【小林委員】先日のWGの会議に参加して、このアプリが今までにないスキルを身につけるというよりは、あのシチュエーションに沿った文化的背景やマナーといった日本的なものを

どのように周知していくかというところに力を入れているというのが他にはないものと思った。せっかくこのアプリでログを取っているから、色々な国の人人が来ているとどの国の人人がどのようなことが苦手なのかを読み取り、汲み取っていくことで分かっていき、その国人を入れたときにどのように対応するべきかが分かるようになる。そのためログをしっかりと管理した上でそれを調整していってはということを話した。委員の方々に使ってもらうという話があったが、留学生の方々に類似品といったものを使っていただいて意見を吸収するというプロセスをおそらく考えていると思うので、そこは是非やっていただきたい。

【喜多事務局】今回のデモ画面に関しましては、あまり多くの方が集まりすぎても収集がつかなくなりますので、まずは委員皆様で使っていただいてそのご意見をいただければと思います。各学校には実証実験の中でお願いしたいと思います。

【ガヤニ委員代理】A I アプリを現地の学生が勉強することができたらそれはすごいことと思った。スリランカでは日本語での会話が難しいので、日本の実際の生活に沿ったものができることは使えると思うし、すごいことと思う。

【乗地委員】このようなA I アプリを開発しているとは思ってもいなかった、非常にびっくりしている。高度な自習学習ができ、少しでも日本語力の向上が望めると思った。当団体においては、今現在技能実習生が毎回4～5人ほど来るのが、その中でやはり日本語は全く喋れない方、話していることが分からない方といった方が比較的日本語の上手な方に質問して学習するというような形になっている。中には非常に日本語が堪能で、日本人よりも上手い方もいるが、漢字が全く読めない、書けないという色々な外国人の方がいる。このようなA I アプリで会話の練習は良いが、あとは漢字で、せめて小学校の低学年レベルの漢字の学習があれば良いと思った。

あと関係性がないかもしれないが、生活指導の話が出てきていたが、技能実習生の管理について、やはり人間なので生活指導は非常に大変である。それは外国人でも日本人でも同じではあるが、やっぱり人間なので、病気にかかったり、文化の違いによって色々トラブルがあったりということがある。そのような指導の課題がある。

【田中委員】今回、ヒアリング調査が非常に大変であったと思う。シラバス・コマシラバスの中で、海外のというよりは理科とか国語とかが盛り込まれていて本格的に基本学習の振り返りがあることは非常に良いことと思った。等

4. その他（連絡事項）

【喜多事務局】最後に連絡事項いたします。今年度の謝金につきまして、先日委員の皆様へ振込先の確認書を送信させていただいております。ご回答がお済みでない委員の皆様はよろしくお願ひいたします。次年度令和7年度の継続についてですが、2月末に事業計画書を提出いたします。採用されるかは明確ではありませんが、引き続き、ご参加をお願いいたします。よろしくお願ひいたします。等

5. 閉会

<会議録>

【佐々木事業責任者】本日も長時間にわたり皆様方に色々な貴重なご意見の方をいただきまして誠にありがとうございます。本年度の会議は、これが最後になります。本年度ありがとうございました。また来年事業計画が採択されれば、よろしくお願ひします。という言葉で会議散会となった。

【会議風景】



■ MEMO

本「成果報告書」は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《学校法人Y I C学院〈専〉京都工科自動車大学校》が実施した令和6年度 専修学校の国際化推進事業「外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職および定着に向けた体制整備」自動車整備分野の外国人留学生（受入れ／在学／就職／定着）エンロールメント・マネジメントモデル事業の成果をとりまとめたものです。

令和6年度 専修学校の国際化推進事業

「外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職および定着に向けた体制整備」

自動車整備分野の外国人留学生（受入れ／在学／就職／定着）エンロールメント・マネジメント
モデル事業 成果報告書

令和 7年 2月発行

発行所・連絡先

学校法人Y I C学院〈専〉京都工科自動車大学校

〒164-0001 京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 番地

TEL 075-371-4040 FAX 075-343-3821

<https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/>

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。